

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部グローバル法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目			
基幹科目	基礎科目	グローバル法入門1	主権国家間の関係を規律する法として成立した従来の国際法は、21世紀に登場した様々な地球的課題に直面している。国家間の戦争が絶えない20世紀に対して、21世紀は世界各地でテロ行為が頻発する時代とさえ言われる。その根底には先進国中心の経済のグローバル化、運輸・通信等における国際的な統一化に対応しきれない途上国の状況がある。貧困、食料、環境破壊、感染症、難民保護といった問題には、共通の原因があり、それが従来の国際法のあり方に根本的な変容を迫っているかに見える。この入門講義では、そうした地球的課題に対して国際社会がどのように対処してきたかを明らかにする。
		グローバル法入門2	「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国家という枠を超えて流通することが当たり前となった現在の社会において、これまでの一国内の法を中心とした法律学では問題の把握・解決が困難な現象が私達の身の回りに存在する。このような問題のうち、国際結婚や国際契約など、複数の国にまたがって生じる私人間の法律関係に関して、いずれの国の法規範や手続によって解決されることになるのかを学ぶ。国際的な民事紛争解決の全体像を俯瞰し、国際私法・国際民事手続法・国際取引法等の関係科目の概要を把握することを目指すものである。少人数学科の特長を活かし、初学者のモチベーションを高める工夫を施した授業展開を行う。学科65名に1クラスを配置する。
		グローバル基礎演習1	グローバル化した現代社会の諸問題について学びながら、これらの課題についての関心を高めると同時に、法学・政治学の基礎的素養と自律的学修手法を修得することを目標とする。演習形式で、教員の指導の下、文献収集・情報処理・報告等を学生が行う。1クラス20名前後の3クラスを配置する。
		グローバル基礎演習2	国内外の法律・政治制度を調査・研究する基礎的能力、とりわけコンピュータおよびインターネットを活用した情報収集能力の修得を目標に、演習形式で、教員の指導の下、法律文献調査（リーガル・リサーチ）・情報処理・報告等を学生が行う。1クラス20名前後の3クラスを配置する。
		民法法の基礎1	本学科で学びの対象とする国境を越えて発生する紛争の多くは、私人間の法律問題として解決が図られる。民法法とは、私人間の紛争解決を目的とした法分野であり、国内法では民法、商法、民事訴訟法などを基礎として法制度が整備されており、裁判等の紛争解決実務を通じて発展を続けている。民法法は、本学科の法律基礎分野、国内法分野の中核をなすものであり、グローバル取引法分野の多くの科目は、民法法の基礎的部分の理解を前提としている。本科目は、学科の学生全員が民法法の核となる基礎的知識・思考方法を修得することを目的とし、民事紛争の解決手段、民事裁判の特徴、契約法の仕組みと重要なルールを学ぶ。学科65名に1クラスを配置する。
		民法法の基礎2	「民法法の基礎1」の学修を受けて、物権法など財産権保護の仕組み、民事裁判での紛争解決手段として最も用いられている不法行為法の仕組みと重要なルール、金融を可能にする債権担保制度の基本、日本の家族制度の基本について学ぶ。学科65名に1クラスを配置する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目	基礎科目	Introduction to Japanese Law	日本法を国外の相手に正確に伝える基礎的能力の修得を目標に、英文で書かれた日本法に関する教科書および資料を使い、講読・講義を併用した授業を行う。まず、西洋法継受(Reception of Western Laws)以降の日本法制史を概観した後、日本法における法源(Sources of Law)・司法制度(Administration of Justice)・法曹(Legal Profession)の役割等について概説し、さらに民法(Private Law)、刑事法(Criminal Law)、企業法(Business-Related Laws)に関する最低限の基本的な知識を、英語で学修させる。学科65名に2クラスを配置する。	
	留学科目	留学準備講座1	2年次秋学期からの全員留学に備えて学生が留学の目的を意識し、必要な準備を行うため、留学先大学、国・都市の文化などに関する主体的学習、留学に必要な知識の提供をおこなう。	
		留学準備講座2	2年次秋学期からの全員留学に備えて学生が留学の目的を意識し、必要な準備を行うため、留学先大学、国・都市の文化などに関する主体的学習、留学に必要な知識の提供をおこなう。	
		留学準備講座3	2年次秋学期からの全員留学に備えて学生が留学の目的を意識し、必要な準備を行うため、留学先大学、国・都市の文化などに関する主体的学習、留学に必要な知識の提供をおこなう。	
		海外英語学習1	実践的な英語力の習得と異文化理解を深めるため、学科生全員に2年秋学期に留学を義務付ける。海外の提携大学での英語クラスでの学習に対して、提携大学との連携の下、教材や授業方法について事前に協議し、各学生の留学先での学習状況・達成度について提携大学から報告を徴し、2単位の学習に相当する英語学習を行ったかを担当教員が判断し、単位認定を行う。	
		海外英語学習2	実践的な英語力の習得と異文化理解を深めるため、学科生全員に2年秋学期に留学を義務付ける。海外の提携大学での英語クラスでの学習に対して、提携大学との連携の下、教材や授業方法について事前に協議し、各学生の留学先での学習状況・達成度について提携大学から報告を徴し、2単位の学習に相当する英語学習を行ったかを担当教員が判断し、単位認定を行う。	
		海外英語学習3	実践的な英語力の習得と異文化理解を深めるため、学科生全員に2年秋学期に留学を義務付ける。海外の提携大学での英語クラスでの学習に対して、提携大学との連携の下、教材や授業方法について事前に協議し、各学生の留学先での学習状況・達成度について提携大学から報告を徴し、2単位の学習に相当する英語学習を行ったかを担当教員が判断し、単位認定を行う。	
		海外英語学習4	実践的な英語力の習得と異文化理解を深めるため、学科生全員に2年秋学期に留学を義務付ける。海外の提携大学での英語クラスでの学習に対して、提携大学との連携の下、教材や授業方法について事前に協議し、各学生の留学先での学習状況・達成度について提携大学から報告を徴し、2単位の学習に相当する英語学習を行ったかを担当教員が判断し、単位認定を行う。	
		海外法学学習1	2年次秋学期の留学期間に、提携大学で提供される留学先国の司法制度、法と社会などのテーマに関する授業での学習に対して、講義内容・教材・授業方法について事前に協議し、各学生の学習状況・達成度について提携先から報告を徴し、2単位の法学学習に相当するか担当者が判断して、単位認定を行う。	
	海外法学学習2	2年次秋学期の留学期間に、提携大学で提供される留学先国の司法制度、法と社会などのテーマに関する授業での学習に対して、講義内容・教材・授業方法について事前に協議し、各学生の学習状況・達成度について提携先から報告を徴し、2単位の法学学習に相当するか担当者が判断して、単位認定を行う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 留学科目 専門外国語	海外法学学習3	2年次秋学期の留学期間に、提携大学で提供される留学先国の司法制度、法と社会などのテーマに関する授業での学習に対して、講義内容・教材・授業方法について事前に協議し、各学生の学習状況・達成度について提携先から報告を徴し、2単位の法学学習に相当するか担当者が判断して、単位認定を行う。	
	English for Global Communication 1A	2年次秋学期の留学に備え、留学先での英語によるコミュニケーション及び提携大学での授業に対応できるリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能の修得を目的とする。実践的な英語運用とその基礎に着目した教材を用いて、教室での解説・練習、グループワーク、課題の自習などを通じて履修者各自の総合的なコミュニケーション力を向上させる。	
	English for Global Communication 1B	2年次秋学期の留学に備え、留学先での英語によるコミュニケーション及び提携大学での授業に対応できるリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能の修得を目的とする。実践的な英語運用とその基礎に着目した教材を用いて、教室での解説・練習、グループワーク、課題の自習などを通じて履修者各自の総合的なコミュニケーション力を向上させる。	
	English for Global Communication 2A	2年次秋学期の留学に備え、留学先での英語によるコミュニケーション及び提携大学での授業に対応できるリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能の修得を目的とする。実践的な英語運用とその基礎に着目した教材を用いて、教室での解説・練習、グループワーク、課題の自習などを通じて履修者各自の総合的なコミュニケーション力を向上させる。	
	English for Global Communication 2B	2年次秋学期の留学に備え、留学先での英語によるコミュニケーション及び提携大学での授業に対応できるリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能の修得を目的とする。実践的な英語運用とその基礎に着目した教材を用いて、教室での解説・練習、グループワーク、課題の自習などを通じて履修者各自の総合的なコミュニケーション力を向上させる。	
	English for Legal Studies 1A	日常生活で問題となる法的なトピックについて、英語で議論する訓練を目的とする、双方向型の授業を行う。コミュニケーション力の修得に中心を置きながら、法的要素の英語表現などの学ぶ。	
	English for Legal Studies 1B	日常生活で問題となる法的なトピックについて、英語で議論する訓練を目的とする、双方向型の授業を行う。コミュニケーション力の修得に中心を置きながら、法的要素の英語表現などの学ぶ。	
	English for Legal Studies 2A	取引や企業活動の場面を想定した法的なトピックについて、英語でコミュニケーションする能力の修得を目的とする。ビジネスシーンを想定した教材を用い、契約で用いられる基本的表現を身に付け、法律科目で学んだ内容を使用する経験を積むことで、英語力と法律運用力の向上を図る。	
	English for Legal Studies 2B	取引や企業活動の場面を想定した法的なトピックについて、英語でコミュニケーションする能力の修得を目的とする。ビジネスシーンを想定した教材を用い、契約で用いられる基本的表現を身に付け、法律科目で学んだ内容を使用する経験を積むことで、英語力と法律運用力の向上を図る。	
	English for Legal Studies 3A	取引や企業活動の場面を想定した法的なトピックについて、英語でコミュニケーションする能力の修得を目的とする。ビジネスシーンを想定した教材を用い、契約で用いられる基本的表現を身に付け、法律科目で学んだ内容を使用する経験を積むことで、英語力と法律運用力の向上を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目	専門外国語	English for Legal Studies 3B	取引や企業活動の場面を想定した法的なトピックについて、英語でコミュニケーションする能力の修得を目的とする。ビジネスシーンを想定した教材を用い、契約で用いられる基本的表現を身に付け、法律科目で学んだ内容を使用する経験を積むことで、英語力と法律運用力の向上を図る。	
選択科目	国際関係法分野	国際法1-1	この科目では、ア 国際法の基本構造について イ 国家に関する国際法の規則について ウ 国家の領域に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていくことを、目的とする。	
		国際法1-2	本講義では、前期1-1に引き続き、国際公法の基礎について学習することを目的とする。内容としては、国家の排他的な地的管轄権を配分する国家領域、さらに国際公域としての公海や宇宙空間について考察を進め、国際法学の伝統分野における素養を確立する。	
		国際法2-1	この講義では、ア 外交関係と領事関係についての規則 イ 条約についての規則 ウ 国家責任に関する規則、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていく。	
		国際法2-2	この講義では、国際法2-1に引き続き、国際紛争に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて講義を行い、続いて人権・人道の問題などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていく。	
		国際人権法1	第2次世界大戦が終わった後、国際連合の設立と共に、人権は、それまでのように国内の問題であるだけでなく、国際的な関心事項であるとして国際人権法が成立し、発展してきた。そして今日、国際人権法は、国際法の一分野であるにとどまらず、あらゆる国際法の分野において考慮されなければならない主流の規範としての役割を与えられつつある。この授業では、人権という考え方の成り立ち、国際人権法の登場、そして今日までにどのような権利が国際的に承認された人権として存在し、発展し続けているのかを学んでいく。そして、国際人権法が、実際の国際政治や、世界中の文化、宗教、民族などの間で、どのような問題に直面しているのかも考えていく。	
		国際人権法2	国際人権法1では、主に国際人権法の内容について学んだのに対し、引き続き国際人権法2では、それが今日の国際社会や各国の法制度の中でどのように実施されているのかという実施手続の側面を学んでいく。そのために、国連憲章のもとでの人権保障制度、人権条約機関のもとでの各国の履行を監視する制度、世界の各地域に設けられた国際裁判制度、そして各国の国内法や国内裁判所を通じた国際人権法の実施について、実際の機能と問題点を考えていく。その際には、憲法などの国内法の制定や実施とは異なる、国際法の理論や実施をめぐる問題点を、実際のケースを通じて検討する。	
		国際人道法	国際人道法は、19世紀以降に確立してきた戦時国際法（戦争法）を起源とし、戦争の手段（害敵手段）を規制し、戦争における傷病者、捕虜、文民（市民）を保護するための法として発展してきた。しかし、今日では、国際人道法は、諸国間の武力紛争だけではなく、内乱や民兵組織の活動など国内の武力紛争、さらには平時における大量の人権侵害をも対象とする国際法として発展してきている。そして、国際人道法違反の責任を問われるのは、軍隊を持つ国家だけではなく、紛争に関わる個人や企業も活動も含まれるようになってきている。この授業では、そのような国際人道法の成り立ちと内容、国際刑事裁判を含む国際的実施の制度と法、政府・個人・企業・国際人道支援活動が直面している国際人道法のもとでの問題などを考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 国際関係法分野	国際環境法1	この授業では、国際的な環境問題と向き合った際の国際法の意義と限界、今後の課題を明らかにすることを目指す。国際環境法の「総論」の授業として、伝統的な国際法の枠組み等と対比しつつ、また具体的な環境問題を参照しながら、国際環境法全体に共通する基本的な枠組み、概念、原則、権利・義務、条約制度、損害の救済と責任、履行確保のための措置などをみていく。これらを通じて、国際的な環境問題を国際法の観点から捉え、考え、課題の克服策を提示する力を養う。	
	国際環境法2	この授業では、国際的な環境問題と向き合った際の国際法の意義と限界、今後の課題を明らかにすることを目指す。国際環境法の「各論」の授業として、主要な個別環境問題領域に関する既存の国際法規範について、多数国間条約制度を中心に、また具体的な環境問題を参照しながら、その全体像と特徴をみていく。具体的には、大気の大気汚染の防止、生物資源の保全・管理、有害廃棄物の越境移動などの分野をみていく。これらを通じて、国際的な環境問題を国際法の観点から捉え、考え、課題の克服策を提示する力を養う。	
	国際海洋法	この授業では、国際海洋法の各国における実施の現状とその課題を認識し、その克服策を提示することを目指す。国連海洋法条約によって沿岸国に権利が付与されているにもかかわらず、当該権利に対応した国内法が整備されていないことなどにより、各国の海をめぐっていかなる問題が生じているかについて、領海における「無害でない航行」への対応、排他的経済水域における無許可操業への対応、排他的経済水域で沿岸国の同意を得ずになされる海洋科学調査への対応、公海を航行中の外国船舶内で発生した事案への対応などの個別具体的な問題に則して把握する。これらの問題を諸外国の実行や国際的な動向をふまえながら検討し、問題の克服策を提示する力を養う。	
グローバル取引法分野	EU法1	1950年の「シューマン宣言」にはじまるヨーロッパ統合の歴史、加盟国の概要、EUの統治機構について、日本語および外国語の文献を用いて講義を行う。EUはスーパナショナルな機構であり、複数の国家が主権を制限し、それを共同行使する仕組みを通じて統合を進めてきた。EUの裁判所も、判例法を通じて、EU法の直接効果と優越性という原則を確立し、スーパナショナルな統合を進めてきたのである。他方で、EUはさまざまな課題に直面しており、この講義では、それらの課題にEUがどのように対処しているかについても解説する。	
	EU法2	EUは、トランスナショナルな市場統合をめざし、物・人・サービス・資本が国境を越えて自由に移動できる単一市場の形成を目標としてきた。この講義では、具体的な裁判例を手がかりに、「物の自由移動」原則とその例外を学ぶとともに、共通農業政策（CAP）をはじめとするEUの主要政策を紹介する。また、EUにおけるワイン共通市場制度の概要や加盟国のワイン法との関係、ワイン市場をめぐるEU裁判所の判例についても解説する。	
	国際私法1	国際私法とは、国際結婚や国際取引など、国際的な要素を含んでいる私人の法律関係（渉外的私法関係）について、適用されるべき法律（準拠法）を内外の法律の中から選択するための法である。この講義では、現在わが国の国際私法の主たる法源となっている「法の適用に関する通則法」の解釈論を中心に、国際私法の基本的な考え方と方法論について学習する。主に総論問題と、婚姻・離婚・親子関係・相続等の家族法分野の法律関係に関する各論問題を取り扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	グローバル取引法分野	国際私法2	国際私法とは、国際結婚や国際取引など、国際的な要素を含んでいる私人の法律関係（涉外的私法関係）について、適用されるべき法律（準拠法）を内外の法律の中から選択するための法である。この講義では、現在わが国の国際私法の主たる法源となっている「法の適用に関する通則法」の解釈論を中心に、国際私法の基本的な考え方と方法論について学習する。国際私法1で学んだことを前提に、主に契約・不法行為等の財産法分野の法律関係に関する各論問題を取り扱う。
	国際民事手続法	国際民事紛争の裁判による解決を望む場合には、国際裁判管轄、国際訴訟競合、国際送達、外国判決の承認・執行など、国内事件では登場しない固有の手続的問題が生ずる。また、裁判によらない国際民事紛争の解決方法として近時注目を集めている国際商事仲裁などについても、国際性ゆえの特別の問題がある。本講義では、これら国境を越える私人間の紛争（国際民事紛争）の手続的側面について解説する。	
	国際仲裁	国際取引等に関する紛争の裁判によらない解決手段として、近時注目を集めている国際仲裁について学習する。なかでも、国際商事仲裁を主な題材として、仲裁制度の概要と特徴、仲裁合意、仲裁人の専任、仲裁地、仲裁手続、各種の仲裁機関、仲裁と訴訟との関係、仲裁判断の承認・執行などにつき、仲裁法・国際条約などの関連法規に照らしながら、国際仲裁に関する理論と実務について解説する。	
	国際知的財産法	現代の国際社会において、特許や著作権といった知的財産が果たす役割は一層増している。知的財産は国単位で属地的に保護するという仕組みが国際条約等によって構築されているが、物理的な形がない分国境を越えた紛争が生じやすく、近時は知的財産が関係する国際訴訟等も頻発している。本講義では知的財産の国際的保護や活用の仕組みを理解するとともに、知的財産をめぐる国境を越える民事紛争の解決について、具体事例の紹介をまじえつつ、主に国際私法・国際民事手続法の観点から解説する。	
	国際租税法	各国の企業が国境を越えた事業活動を展開するなかで、国際課税の問題が重要性を増している。国際租税法という法律自体はないが、非居住者に対する課税、外国税額控除、タックス・ヘイブン対策税制、移転価格税制、租税条約など、本講では、国際課税の意義、特殊性、基本原則を体系的に講義する。	
	アメリカ契約・不法行為法1	グローバルな取引関係や投資活動においては、その基準を国際的に通用するルールに従わざるをえなくなっている。その国際的なルールとはなにかであるが、現実的には、取引の相手方あるいは相手国において適用されているルールが採用されることが多い。さまざまな取引関係における共通のルールといえば、やはり英米法ということがいえるだろうか。つまり、英米法系の国は当然として、それ以外の国でも、英米法が共通のルールとして採用されるのが実際である。ここでは、英米法の内、特に多く利用がなされているアメリカ法についての基本的知識を理解することが重要である。	
	アメリカ契約・不法行為法2	アメリカ合衆国の契約法は、具体的には州の制定法と州裁判所の判例法である州のコモンローによって規律されるが、各州法に共通する契約法理がその基礎にある。この構造は不法行為法においても同じである。アメリカの契約法理、不法行為法理について日本法との異同を明確にしながらか講義する。必要に応じて、関連する事例問題を解き、知識の定着と応用力養成を図る。	
ドイツ法1	公法を中心に、ドイツ法の特徴について講義形式で学ぶ。ドイツ法1はドイツの歴史的展開と、ドイツの統治機構・法制度、EU法との関係などについて概観する。ドイツの法・政治の最新状況を把握するため、積極的にドイツのニュースを取り上げる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	グローバル取引法分野	ドイツ法2	公法を中心にドイツ法の特徴について学ぶ。ドイツ法2は基本法・基本権を中心に学ぶ。日本における判例との比較検討を念頭に、連邦憲法裁判所判例を取り上げる。ドイツの法・政治の最新状況を把握するため、積極的にドイツのニュースを取り上げる。できる限り読みやすいニュースを選び、その和訳を課題として課す予定である（原則として毎回）。	
	フランス法1	フランスは、近代法の形成にあたって各法分野で世界でも優れた法制度を、しかももっとも早くから発展させてきた国である。またフランスは主権論の母国でもある。そのため、国際社会においてフランス法の重要性を今日においても指摘できる。そこで本授業においては、フランス法、特にフランス憲法の特徴について、法制史的な観点と比較憲法的な観点から考察する。授業は講義レジュメと資料を配布し、講義中心に行う。必要に応じて、授業中、受講生に質問をしたり、アンケートをとることもある。		
	フランス法2	フランス憲法の現状と課題について、様々な憲法判例の紹介と分析を通じて考察する。授業は講義レジュメと資料を配布し、講義中心に行う。必要に応じて、授業中、受講生に質問をしたり、アンケートを行うこともある。		
	知的財産法1	人間の知的創作物を保護する知的財産法は、特許、実用新案、商標、意匠、著作権、企業秘密等多岐に亘ります。ディズニーアニメなどキャラクター権、著名人の名前や肖像を商業利用するパブリシティ権、「阪神優勝」の商標登録の事件、ファイル交換ソフトによる著作権侵害等多数の問題があります。商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法、意匠法を分かりやすく講義します。		
	知的財産法2	人間の知的創作物を保護する知的財産法は、特許、実用新案、商標、意匠、著作権、企業秘密等多岐に亘ります。ディズニーアニメなどキャラクター権、著名人の名前や肖像を商業利用するパブリシティ権、「阪神優勝」の商標登録の事件、ファイル交換ソフトによる著作権侵害等多数の問題があります。商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法、意匠法を分かりやすく講義します。		
	グローバル企業法	企業が外国に進出し、国際的な経済活動を行うにあたって、どのようにすれば進出先の国で「会社」として活動することを認められるか、進出の際にどのような形態によることが考えられるか、どのような内国・外国法上の規制に配慮する必要があるか、国際的な企業間紛争はどのように解決するかなど、グローバルな企業活動を取り巻く法現象全般について横断的に講義する。		
	国際取引法	国際的な売買契約や国際的な代金決済・国際貨物運送といった、国際的な商取引の仕組みについて学習するとともに、それらに対する各種の法的な規制のあり方など、国際取引にまつわる法律上の及び実務上の課題全般について概観する。		
	経済法	独占禁止法に関する諸問題について、事例をできる限り多く取り入れながら講義を進める予定です。独占禁止法は企業法務にかかわる重要な問題を広くカバーする法律であり、社会的にも注目される判決例・審決例も多いことから、講義の密度が高くなることを予め承知しておいてください。		
	国際経済法	この講義では、国際通商・国際投資に関する法的規制の基本的な問題を理解することを目標とする。講義の中心となるのは、WTOに関する諸問題である。WTOの主要原則を中心に、事例研究などを交えて講義を進める予定である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	グローバル取引法分野	ワイン法 ワイン造りは、ブドウ畑の取得からはじまって、栽培、醸造、流通、消費といった様々な過程で法とかかわってきます。この講義では、ワインにかかわる日本の法規制と諸外国の法令を比較しながらワイン法の意義を学びます。	
	国際消費者法	消費者法のうち、「製造物責任」「不正取引」等の分野について、主として欧米諸国の制度を紹介しながら、わが国の制度と比較検討する。最後に、国連・OECD・WTO等の取組みについて論じる。	
英語による比較法政・異文化理解分野	哲学と法	この科目においては、西洋近代の法思想・法体系の位置づけを相対化するために、東西の古典的な哲学・倫理思想において社会規範としての法がいかに捉えられていたかを学際的な視点から講義することによって、法の領域における異文化理解力を修得させることを学修の目標とする。具体的には、英文のテキストや資料を用いて、孔子、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、トマス・アクィナス、社会契約論などにおける法観念について講義するとともに、それぞれの問題点について受講生と議論するような双方向の授業を行う。	
	文学と法	「文学と法」では、既存の法解釈学や法政策学の学修を深化させ、またその基礎となる人間や社会の理解を豊かなものとするために、文学や文学理論の知見を活用して学際的に法を学ぶとともに法の視点から文学を捉え直すことで多様な読解力を身につけることの双方を目指す。人文的想像力と法学の制度的考察力を併せ持つことによって、ますます複雑化、不確実化する社会に対応できる応用力を学生が獲得することが本科目の目標である。	
	グローバル社会から見た日本	(英文) This course will give students the opportunity to consider Japanese society and culture in a global context, while more broadly addressing issues in intercultural exchange. Class discussions and writing assignments will help students improve their oral and written communication skills in preparation for study abroad. Strategies for cross-cultural communication will also be highlighted. (和訳) この科目においては、グローバル化する世界における日本の社会と文化を考察しながら、異文化コミュニケーションの問題を取り上げる。2年次秋学期からの留学に備えて、ディスカッションや感想文によるオーラルコミュニケーションやライティング能力の向上を目標とする。異文化理解のストラテジーも紹介する。	
	食文化と法	この講義では、ヨーロッパ諸国（とりわけEU加盟国）の食文化とEU法における食品・農産物・酒類の地理的表示保護制度について学ぶ。また、日本においても、EUの地理的表示保護制度にならい、地理的表示法が制定されるにいたっており、その運用の実態と登録産品（および、今後、登録が予想される産品）の概要についても解説を行う。あわせて、食品の流通におけるさまざまな法規制についても、日本法およびEU法を中心に解説する。	
	宗教と法	(英文) This course will focus on the relationship between religion and the law in Japan. Beginning in the ancient period and ending in the twenty-first century, we will address the changing relationship between religion and the state in Japanese history. Classes will consist of lectures and small group discussions on assigned readings. Materials will include both primary and secondary sources. This course will prepare students for study abroad by allowing them to put into practice skills necessary for successful overseas study. (和訳) この授業では、日本史における宗教と法の関係に着目する。古代から現代に至るまで常に変化している宗教と政治の関係について学んで行く。この授業は講義と少人数ディスカッションで構成する。一次史料（英訳）および二次史料の両方を教材として用いる。2年次秋学期からの留学に備えて、必要な勉強法の習得を目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	英語による比較法政・異文化理解分野	グローバル社会と宗教	(英文)Specifically designed for students who have returned from study abroad, this class will examine religion in global society. In particular, we will focus on the complex interactions that take place when religions encounter other cultures. We will examine the diverse ways in which religious traditions have alternately responded to, worked against, and adapted to the unfolding process of globalization. Students will address these issues through small group and class discussions, as well as in-depth writing assignments. (和訳) 2年次秋学期の留学を終了した学生を対象に、グローバル社会における宗教について学んで行く。特に、諸宗教と異文化の間における複雑な相互作用に着目し、宗教組織におけるグローバル化への対応、抵抗、あるいは変化などを検討する。ディスカッションやライティングにより、問題を深く考察する。	
	比較公法史	最初にフランス法の歴史的発展について講義した上で、ワイン市場に関する法的規制の歴史を、ヨーロッパを中心に古代ローマの時代から20世紀に至るまで解説していきます。		
	情報と法	現代社会においては情報通信技術ICTが欠かせないものとなっている。本授業では、情報のデジタル化・ネットワーク化により新たに生じている法的問題について、現行法と判例をもとに検討する。なお、試験とは別にレポートを5回程度課す予定である。		
	イスラム法	イスラーム（「イスラム教」）にはシャリーアないしフィクフという名称で呼ばれる規範の体系があり、通常それらはイスラーム法ないしイスラーム法学と理解されている。イスラーム法はイスラームの中で重要な役割を果たしており、その知識はイスラーム理解に不可欠ともいわれる。前半では、イスラームおよびイスラーム法が成立するに至った経緯とその後の発展について概観する。具体的には、預言者ムハンマドとクルアーン、法源、法解釈方法論、法学派の成立、近現代の中東地域における西洋法継受の問題を扱う。後半では、「売買」をはじめとする財産取引に関する諸準則の内容について、近代法との比較も織り交ぜつつ、解説を行う。		
	教会法	古典古代ギリシア・ローマの文化が古代キリスト教にどのように受け継がれたのか、それが「教会」概念の内容をどのように作り上げたのか、という観点から、ギリシア教父・ラテン教父たち（テルトゥリアヌス、アウグスチヌス、ヨハネス・クリソストモス等）のテキストを読み解くことを試みます。1世紀の聖書、使徒的教父たちのテキストから4・5世紀のアウグスチヌス（『告白』『神の国』等）までが対象となります。		
	国連大学講座1	明治学院大学と、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)、地球・人間環境フォーラム(GEF)による連携授業。UNU-IASからのゲスト（若手研究員）による英語の講義を6回程度、日本の環境NPO/NGOからのゲストによる講義を6回程度実施する。パワーポイントや映像教材を主に使用。世界の各地域で生じている環境社会問題やそれを解決するための取り組みについての事例を学ぶ。モノ・金・人の移動が世界各地に与えている影響を通じ、日本との関連性について考察する。これを踏まえ、持続可能な社会を構築するための日本の役割を考える力を身につける。英語の講義に慣れ、不明点を明らかにし、自分の考えについて発言する基本的な力を身につける。		
	国連大学講座2	明治学院大学と、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)、地球・人間環境フォーラム(GEF)による連携授業。UNU-IASからのゲスト（若手研究員）による英語の講義を6回程度、日本の環境NPO/NGOからのゲストによる講義を6回程度実施する。パワーポイントや映像教材を主に使用。世界の各地域で生じている環境社会問題やそれを解決するための取り組みについての事例を学ぶ。モノ・金・人の移動が世界各地に与えている影響を通じ、日本との関連性について考察する。これを踏まえ、持続可能な社会を構築するための日本の役割を考える力を身につける。英語の講義に慣れ、不明点を明らかにし、自分の考えについて発言する基本的な力を身につける。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	英語による比較法政・異文化理解分野 Global Cultural Studies 1	(英文)Focusing on topics in pre-modern Japanese religious culture before 1600, this class will help students gain new insight into the diversity of Japan's religious traditions. In order to prepare students for study abroad, this course will emphasize reading comprehension and writing skills. As this is a writing intensive course, students will be expected to regularly produce response papers, in addition to writing a final paper. (和訳) 1600年以前の古代中世日本の宗教文化をテーマにし、日本の宗教文化の多様性について学ぶ機会を提供する。2年次秋学期からの留学に備えて、読解力とライティング能力の向上を目的とする。集中的にライティングを学ぶ授業として、受講生には定期的に感想文を書かせ、最終レポートを提出させる。	
	Global Cultural Studies 2	(英文)Focusing on topics in Japanese religious culture since 1600, this course will help students further develop their understanding of pre-modern Japanese religion. In order to prepare them for study abroad, this course will focus on oral communication and discussion skills. Students will be expected to participate in small group and class discussions. This class will culminate in a final resentation on a topic selected in consultation with the instructor. (和訳) 1600年以降の近世日本の宗教文化をテーマにし、日本の宗教文化に対する理解を更に深める機会を提供する。2年次秋学期からの留学に備えて、オーラルコミュニケーションやディスカッションスキルの向上を図る。少人数ディスカッションやクラス討論を行う。最後に、受講者全員が最終発表を行う。	
	Global Cultural Studies 3	(英文)This class will allow students to apply their study abroad experience and build on prior knowledge gained in Global Cultural Studies 1 and 2. Through in-depth study of topics in Japanese religion, students will further develop their critical thinking abilities, problem solving skills, and creativity through focused discussions, activities, and writing assignments. Students will design and undertake their own final project, which will include both an oral and written component. (和訳) この授業では留学経験者を対象にして、留学で習得した勉強法を用いながら、Global Cultural Studies 1・2で学んだことを基礎として日本宗教に対する知識を更に高める。日本宗教の話題を通して、更にクリティカル・シンキング、問題解決技法、想像力を高めることを目標とする。集中的なディスカッションやアクティブラーニングを作文と組み合わせていく。ライティング能力とオーラル能力を発揮できる最終のプロジェクトは、受講者全員が自分で工夫し、実施する。	
	Global Legal Studies 1	ワインはすぐれてグローバルな産品であり、日本で消費されているワインの3分の2は輸入ワインである。この講義では、外国語文献や外国語の視聴覚資料を用いて、諸外国のワイン市場やワインに関する法的問題について学ぶ。また、履修者は、日本のワイン市場または諸外国のワイン市場について、外国語でプレゼンテーションを行うことが求められる。各国の大使館職員や輸入業者、来日した生産者をゲストスピーカーに招いて、諸外国の動向を学ぶ機会も用意したい。	
	Global Legal Studies 2	代表的な現代法思想について法哲学的な観点から英語で講義を行う。法哲学とは、法および法的現象について哲学的な視点から研究する学問であり、通常、(1)法の一般理論(法概念論)(2)法律学方法論(法認識論)、(3)法価値論(法理念論)という三つの領域に区分されるが、この科目ではこれら三つの領域における基本問題について、ケルゼン、リアリズム法学、批判法学、ハート、ラズ、ドゥウオーキン、法と経済学、ロールズ、ノージック、サンデルなどの見解を英文テキストに基づいて紹介しつつ、批判的な視点から考察を加える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	英語による比較法政・異文化理解分野 Global Legal Studies 3	アメリカ環境法の仕組みと最近の環境法政策上のテーマについて、英文の法律資料（制定法、規則、判決）を使って学習を行う。アウトラインについて担当者が英語で説明を行い、参加者は、事前に配布する法的資料とプリントに基づいて予習した問について短い報告（英語）を行い、問答形式で授業を進行する。	
	Global Legal Studies 4	国際契約・国際不法行為などの国際取引分野のテーマや、国際結婚・離婚、国際的な子の奪い合いなどの国際家族法分野のテーマについて書かれた英語のテキストを輪読し、これらの法分野の基礎知識、専門用語や固有の英語表現などについて学習する。授業では、文法や構文に着目しつつテキストを正確に読む訓練を行うと同時に、双方向なディスカッションを通じたオーラル・コミュニケーション能力の向上を目指す。	
	Global Legal Studies 5	(Business and Human Rights) 今日までにビジネス活動や投資は、国境を超えたグローバルな活動として行われて大きな富と利便をもたらす反面で、低賃金労働や児童労働の蔓延、大規模な公害や事故による環境や地域社会の破壊、紛争への加担など、多くの人権侵害へとつながってきた。この授業では、ビジネスと人権に関するこれまでの取り組みを検証するとともに、残された課題を検討する。授業は、英語のテキストを用いて、英語の講義と対話によって行われる。	
	Global Legal Studies 6	この授業では、現代社会におけるさまざまな課題と向き合った際の国際法という認識枠組みの可能性と限界を知ることを目指す。前半では、主権国家が並存する社会で妥当する法である国際法の基礎的な知識を習得する。後半では、①伝統的な国際法の分野、②第二次大戦後に国際連合を通じて規範定立等が進められてきた分野、③多数国間条約を通じて規範定立等が進められてきた分野のそれぞれについてみていく。これらを通じて、現代社会におけるさまざまな課題について、国際法の観点から捉え、考え、課題の克服策を提示する力を養う	
国際政治経済分野	国際政治学1	国際政治学の中心的な課題である安全保障の問題（なぜ戦争が起こるのか、どうしたら平和を維持できるのか）を扱う。講義の冒頭でリアリズム・リベラリズムという国際政治学の二大理論を説明する。次に、世界大戦や冷戦といった過去に起きた国際紛争の歴史について学ぶ。そして、それぞれの「理論」の正しさを「歴史」と照らし合わせつつ考える。これらの知的作業が、集団的自衛権の問題も含めて、今後の日本が安全保障に関してとるべき道を考える上で手がかりになるだろう。	
	国際政治学2	現代の国際政治や日本の外交政策を理解し、考えるためには歴史的知識とそれを整理するための概念および理論の基本的知識が不可欠である。本講義では国際政治学のテキストを読むことを通じてそれらの知識の習得を目指す。希望者がいる場合は、授業の最終回を個人発表に充てる。	
	世界経済の基礎	経済のグローバル化は、貿易、投資、労働、観光などの面で、市場経済の世界的展開のもとに成立する。しかし、それは同時に、南北間格差や都市と農村の格差、さらには世界的貧困層の増加といった問題を惹起する。本講は、世界経済の基本的な見方を、中国や新興国・欧州経済の減速、原油等資源価格の下落、予断を許さないIS・中東情勢など、混沌とする世界情勢を踏まえて考えるとといった視点で講義する。	
	国際金融の制度と政策 1	本講は、世界銀行やIMFなどの国際金融組織論・秩序論について講義する。世界銀行、IMFはともに第二次世界大戦後の金融秩序制度の中心を担う機関であり、両者は加盟国の生活水準の向上という共通の目標を掲げている。その目標達成へ向けた両者のアプローチや、今後の政策課題について講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	国際政治経済分野 国際金融の制度と政策2	本講は、マイクロファイナンスについて講義する。IMFと世界銀行は1999年、貧困削減戦略ペーパー（PRSP）アプローチを導入した。このアプローチは、対象国の主体性に基づく計画であり、低所得国における貧困削減に不可欠となる国レベルでの政策、ドナーによる支援及び開発の効果を相互リンクさせることを目指している。開発途上国のものと思われていたマイクロファイナンスは、実は先進国でも実践可能であり、本講は、わが国におけるマイクロファイナンスのあり方について講義する。	
	比較政治1	本講義では、ヨーロッパの主要国の政治を考察し、ヨーロッパ政治の理解に必要な基礎的概念を学ぶ。まず、第二次世界大戦終結以降の政治史を概観し、各国の戦後体制の発展と変容を学ぶ。次に、各国の憲法・政治体制、執政府、議会、政党、選挙制度、中央地方関係などを考察する。その上で、政治制度と政治的帰結の因果関係を説明する理論や枠組を検討する。そして、比較の視座から、わが国の政治を相対化して理解することとしたい。	
	比較政治2	本講義では、ヨーロッパの主要国とEU（欧州連合）の政治を中心に考察し、ヨーロッパ政治の理解に必要な基礎的概念を学ぶ。前半ではまず、第二次世界大戦終結以降の各国の政治史を概観する。次に、憲法・政治体制、執政府、議会、政党、選挙制度、中央地方関係などを考察する。その上で、政治制度と政治的帰結の因果関係を説明する理論や枠組を検討する。そして、比較の視座から、わが国の政治を相対化して理解することとしたい。後半では、南欧諸国の民主化を事例に民主化研究を紹介する。	
	国際関係史1	近代日本外交史（幕末から韓国併合(1910)まで）を扱う。授業の最終回は、希望者による関連テーマについての個人発表に充てる。	
	国際関係史2	近代日本外交史（20世紀初頭から第二次世界大戦の敗戦まで）を扱う。授業の最終回は、希望者による関連テーマについての個人発表に充てる。	
	行政学1	政治学的、行政学的思考を養うことで、重要なのは基礎をしっかりとすることです。 この講義は、基礎知識を中心に講義を行う。 構成として、行政学の基礎知識は、行政サービスの決定と提供を中心に講義する。その前提、決定のプロセス、提供の仕組み、評価そして責任など、の順序で説明・講義する。	
	行政学2	前期の行政学の基礎知識を踏まえて、日本行政の実態分析と理論化を中心に講義する。 政治学的、行政学的思考力を高め、日本の問題を分析していく。	
	戦争と平和1	講義の前半はなぜ日本はアメリカなどと戦争することになったのかについて考察し、議論する。後半は戦後の日本の歩みを取りあげ、沖縄、憲法、日米安全保障条約、近隣諸国との関係、領土問題などについて議論する。	
	戦争と平和2	平和はいかにして崩壊し、どうしたら創造できるのか。この重いテーマについて議論しながら授業を進める。とくに強調したいのが寛容についてである。イジメ、ヘイトスピーチ、ホロコーストを身近な問題として理解したい。	
	国際組織論1	現代は地域統合やグローバル化の時代であるとよく言われる。そこで国際組織論では、地域統合やグローバル化とは何なのか、地域統合やグローバル化の結果として私たちの社会や生活にどのような変化が起きているのか講義形式で学ぶ。世界中で地域統合が最も進んでいるのはヨーロッパであるため、国際組織論1ではヨーロッパ統合の歴史を扱う。	
	国際組織論2	現代は地域統合やグローバル化の時代であるとよく言われる。そこで国際組織論では、地域統合やグローバル化とは何なのか、地域統合やグローバル化の結果として国際社会や私たちの生活にどのような変化が起きているのか学ぶ。国際組織論2では、冷戦終結以降のEU（欧州連合）の状況を踏まえた上で、ヨーロッパ以外の地域における地域統合やグローバル化の進展について扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 国際政治経済分野	アジア政治1	「人民公社」や「文化大革命」などの用語を知っている学生が多いが、その実態や発生する理由または時代背景は、決して理解されているとは限らない。この講義は、現代中国政治の歴史、構造（政党と政府など）を講義するとともに、社会主義（思想、運動、体制）の歴史、中国における社会主義の形成・経緯、最近の経済改革（改革開放政策）、そして政治社会の変化の可能性・帰結を検討する。	
	アジア政治2	中国は集権的な国などのイメージが多い。この講義は中国の多様性を中心に、中央地方関係、地域間の不均衡発展、民族問題および民族自治の制度と実態、都市化と労働力の移動、高齢化と少子化、社会保障制度の構築などを取り上げ、中国政治における今日的な政治的課題・諸問題を分析する。	
	アメリカ政治1	アメリカ社会には格差から不法移民、新世代の台頭など、さまざまな問題や新潮流が存在している。この講義では、そうしたアメリカの「過去」と「現在」の変容を、比較政治学と国際関係論の視点を持ち込むことで考察します。前期では、「分断」をテーマにアメリカ政治、経済、社会、文化の現状とそこに存在する問題に関して、アメリカ政治を考える上で重要な二本の理論的柱である「制度」と「利益集団」の観点から検証していきます。	
	アメリカ政治2	アメリカ社会には格差から不法移民、新世代の台頭など、さまざまな問題や新潮流が存在している。この講義では、そうしたアメリカの「過去」と「現在」の変容を、比較政治学と国際関係論の視点を持ち込むことで考察します。前期では、「分断」をテーマにアメリカが置かれた現状を網羅的に理解することを目的に講義を進めてきたが、後期では移民や世代間格差、銃規制の問題に加えて、スポーツや映画といった幅広い分野の個別イシューに焦点をあて、よりアメリカ社会に踏み込んだ分析を行う。さらに日米関係や米中関係など、国際社会におけるアメリカの影響力の変化に関しても、考察を行います。	
法学基礎分野	法学入門	グローバル法を学ぶ上で不可欠な、日本の国内法の基本的な知識の習得と法律の基本的性質の理解を目的とし、国内法の全体観、憲法、行政活動と法、司法制度、刑事裁判と法を中心に基本事項を学習する。なお、取引・家族制度、民事裁判などについては「民事法の基礎1・2」（必修）で学ぶため、割愛する。	
	憲法1-1	秋学期に開講する憲法1-2とあわせて、日本国憲法のうち、基本的人権に関する部分を解説する。春学期の授業では、基本的人権を学ぶ上で不可欠の前提的知識として、憲法の意味、歴史的展開、基本原理について学んだあと、日本国憲法が保障するすべての基本的人権に共通して生ずる問題を取り扱う。その後、適用範囲の広い一般的人権に関する問題を取り上げる。授業で用いる資料は、e-learningシステムを通じて配布する。	
	憲法1-2	憲法1-1に引き続き、日本国憲法が保障する基本的人権について個別に解説する。それぞれの人権の歴史的背景、諸外国の憲法と比較した場合の共通点と相違点に注意しながら、それぞれの規定の意味を明らかにするとともに、教科書に掲載された判例を素材として、現実の社会において憲法の人権規定が果たしている役割を理解する。授業で用いる資料は、e-learningシステムを通じて配布する。	
	民法総則1	「民法」という法律は、フランス革命の所産でありながら、世界の多くの国にかなりの共通性を維持しながら存在している。わが国の民法「総則」は、民法典の一部でありながら、市民法の基本的な構成要素を論理的に示しており、そこで議論されるテーマは、生命倫理、人間の形式的平等と実質的平等などの根本的問題に関連する。講義は、(1)民法という法律の性質・概観、(2)民法総則の全体像と各部の機能、(3)「人」権利の主体、契約を結べる資格が十分でない者（未成年、判断力に問題がある者）との契約調整＝制限行為能力者制度、(4)「法律行為」意思表示論、契約の有効・無効に重点をおいて講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	法学基礎分野	民法総則2	対象は、民法総則の後半部分。代理、法人、条件、期限、時効。代理は、商法系科目などの理解にも欠かせない。一粒で何度かおいしいところなのでよく勉強して欲しい。予習課題及びテキストの該当部分を事前に示した上で、講義形式で行う。授業の進行と知識の確認のため、参加者に話しかけるがいやがらずに会話して欲しい。すべてを説明し尽くすことではなく、重要なことをしっかり理解できる授業を目指したい。
	契約法1	本講義では、民法のうち、契約各論と呼ばれている分野が対象となる。具体的には、民法第3編債権第2章契約第2節贈与（549条）から第14節和解（696条）までの13個の典型契約を扱う。中でも売買、賃貸借が講義の中心となる。レジュメを適宜配付し、重要な判例も紹介する。	
	契約法2	民法521条～548条、いわゆる「契約総論」がこの科目に割り振られた条文。契約の締結、双務契約特有の契約の効力、第三者のためにする契約、解除が対象となる。実質的契約法のまとめ科目として位置づけ、契約法の総合的理解の助けになる講義を目指したい。	
	親族法	親族法の規律対象である家族は、時代や人々の価値観の変化によってその形を変えていく有機的な存在であるといえるが、このような家族の姿の変化に親族法が追いついていないのが現状である。児童虐待や同性婚、性同一性障害者、代理出産などの生殖補助医療によって生まれた子の親子関係などはその好例である。この講義では、このような家族と法をめぐる諸問題とその対応について、関連する事例を随時取り上げながら、皆さんと一緒に考えてゆく。	
	不法行為法	不法行為は、他人の権利・法的利益を侵害して損害を発生させた者に事後的に損害賠償させる制度である。裁判規範としての不法行為は、民法§709以下と特別法の規定に加え、判例法が重要である。事前に基本を理解するための質問集と演習問題を配付し、授業では基本の考え方を説明・確認し、問答形式で授業を進める。	
国内法分野	環境問題の基礎	環境問題（特に公害）についてあらためて考えるのが、本講義の内容です。公害事例の中から、いくつかを取り上げます。事例紹介を通じて、被害と加害のしくみ（構造）、地域社会のしくみ、行政・国の対応、社会にもたらす影響、現代社会への示唆等を確認します。公害・環境問題という、自然科学的研究をイメージするかもしれませんが、しかし、各種の問題の経過から、公害・環境問題を社会科学的に把握する方法を示します。到達目標は、1) 事実としての公害について説明できる、2) 公害が私たちにどのような影響を与えているか理解できる、3) 私たちが公害や環境問題を解決する方法を想定できる、この3点です。	
	消費者問題と法	消費者法は、日常生活に直接関係することから身近で取り組みやすいが、幅広く多様で奥が深い法分野である。授業では、具体的な消費者問題をとりあげ、それに関わる消費者法について、適宜、内容、立法の背景、基本的な論点等を検討していく。はじめに、総論として消費者問題の概論と消費者問題と消費者法の変遷を紹介し、最後には、全体的な現状と課題について検討する。	
	憲法2-1	日本国憲法が定める政治の基本的な仕組みを、世界各国の制度と比較しながら解説する。まず現代の多くの国の憲法が採用している国民権原理と、この原理を支える最も重要な政治システムである選挙について学んだ後、日本国憲法が定める基本的な統治機関である国会、内閣、裁判所そして地方自治制度について、外国の諸制度と比較しながらその特徴を考える。最後に、憲法の改正についても扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 国内法分野	憲法2-2	この講義では、憲法訴訟論を主に取り扱う。基本的人権も法的な権利である以上、その侵害に対して究極的には裁判を通じた救済が求められる。授業では、まず違憲審査制度が生み出された歴史的背景と、現代におけるその存在意義を学んだ上で、各国の違憲審査制度を比較して日本の違憲審査制度の特徴を明らかにする。そのあと、実際に違憲審査が行われた様々な判例を取り上げて、そこに現れる問題点について考察する。	
	債権総論1	債権総論1の講義では、主として債権に共通の効果を定めている民法第三編の債権総則の規定のうち399条から426条までを取り上げ、債権総論で最低限知っておくべき基本的な概念や制度について、なるべく具体的な事例や判例を挙げながら解説していきます。具体的な内容としては、債権の基本的性質、種類、債務不履行の問題や責任財産の保全制度などが中心となります。	
	債権総論2	債権総論2の講義では、主として債権に共通の効果を定めている民法第三編の債権総則の規定のうち427条から520条までを取り上げ、債権総論で最低限知っておくべき基本的な概念や制度について、なるべく具体的な事例や判例を挙げながら解説していきます。具体的な内容としては、多数当事者の債権関係（連帯債務や連帯保証など）、債権譲渡、債権の消滅原因（弁済や相殺など）などが中心となります。	
	物権法1	本講義では、物権の請求権、不動産物権変動、動産物権変動を主たる対象領域とする。とりわけ、不動産物権変動については、基本原則や判例理論に関する重要論点が多数存在するので、特に重点的に考察する。この分野は、比較的難しい分野であると言われているが、講義においては具体的な事例に即しつつ、物権法の全体像とその基本的な考え方が理解できるよう、できるだけ分かりやすい講義を行いたい。	
	物権法2	物権法2の講義では、民法第二編の物権の規定のうち180条から398条の22までを取り上げ、物権各論として最低限知っておくべき基本的な概念や制度について、なるべく具体的な事例や判例を挙げながら解説していきます。具体的には、占有権・所有権・用益物権（地上権・地役権・永小作権）・担保物権（先取特権・留置権・質権・抵当権や譲渡担保権など）を概観しますが、占有権や債権担保手段として重要な抵当権などが中心となります。	
	相続法	相続は、人生の中で必ず経験する出来事であり、「争族」と揶揄されることもある。本授業では、この相続の仕組み、具体的には、民法典第5編相続の諸制度および諸規定の解釈論・判例理論を学習する。死後における財産上の地位の承継は、相続人間の公平および相続について利害関係を有する第三者の保護を考慮しつつ、確実かつ安定的になされる必要がある、そこで緻密な解釈論が求められる。そのためには、相続法が用意している諸制度と制度相互の関係を正確に理解するとともに、判例の動向にも注意する必要がある。この講義を通じて、相続法にとどまらず、法律学の醍醐味である解釈論の面白さに触れることを期待する。	
	環境問題の展開と法1	四大公害事件に代表される産業公害に始まるこれまでの主要な環境問題と環境法をとりあげ、環境問題の原因・展開と環境法による対応を学ぶ。教科書及び配付資料を用いる。大気汚染・水質汚濁などの公害問題、廃棄物処理、土壌汚染、自然保護、景観保護などがその対象となる	
	環境問題の展開と法2	海洋汚濁、気候変動、オゾン層の破壊、化学物質の極地蓄積、産業廃棄物の越境移動など地球規模の環境問題の展開と国際環境法の生成を学ぶ。気候変動による海面上昇、人類及び動植物の生存環境の変化などは人類への脅威、克服すべき喫緊の課題として認識されている。教科書及び配付資料を用いる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 国内法分野	刑法総論1	本講義では、主として刑法典第1編総則の規定がその対象となる。犯罪に関する基本的な共通の理解と賦課される刑罰の基礎的事項について、学説や判例の議論を概観しながら解説する（秋学期は、責任阻却事由の前まで）。毎回レジュメを配布して講義をするが、テキスト及び六法を持参すること。	
	刑法総論2	本講義では、主として刑法典第1編総則の規定がその対象となる。犯罪に関する基本的な共通の理解と賦課される刑罰の基礎的事項について、学説や判例の議論を概観しながら解説する（春学期は、過失（責任）以降）。毎回レジュメを配布して講義をするが、テキスト及び六法を持参すること。	
	刑法各論1	刑法各論の分野のうち「（財産罪を除く）個人的法益に対する罪」について、その成否の判断に要する基礎知識をふまえて諸判例や学説を検討することにより、その理解を深める。	
	刑法各論2	刑法「第2編 罪」に規定されている、財産に対する罪、公共危険罪、取引の安全に対する罪、風俗に対する罪、国家の存立に対する罪、国家の作用に対する罪などに関する判例・学説について講述する。なお、1、2回の「小テスト」を課する。	
	行政法1-1	本講義では、行政法を学ぶ上で理解すべき基本事項について説明するとともに、具体的事例や関連裁判例に触れながら、実社会において行政法や行政がどのような役割を果たしているかについて検討していきます。	
	行政法1-2	本講義では、行政法を学ぶ上で理解すべき基本事項について説明するとともに、具体的事例や関連裁判例に触れながら、実社会において行政や行政法がどのような役割を果たしているかについて検討していきます。	
	行政法2-1	本講義では、行政活動によって権利利益が侵害された国民の救済を図るための行政救済法の基本事項について説明するとともに、できるだけ多くの裁判例を参照することにより、実際には行政救済法がどのように機能しているかについて検討していきます。行政法2-1においては、行政救済制度の中でも、行政庁の違法・不当な処分に対し、その見直しを行政庁に求める不服申立て（行政不服審査法）や、違法な行政活動によりもたらされた損害に対する賠償を求める国家賠償（国家賠償法）を中心に講義します。	
	行政法2-2	本講義では、行政活動によって権利利益が侵害された国民の救済を図るための行政救済法の基本事項について説明するとともに、できるだけ多くの裁判例を参照することにより、実際には行政救済法がどのように機能しているかについて検討していきます。行政法2-2においては、行政庁の違法な処分に対して裁判所に訴訟を提起する抗告訴訟（行政事件訴訟法）を中心に講義します。	
	会社法1	会社法総論（会社の意義・性質・種類、各種会社の特色、法人格否認の法理など）、株式（株式の意義、株主の権利、株券、株主名簿、株式譲渡など）について講義する。会社法の全体像を把握し、基礎知識を修得するとともに、株式をめぐる諸制度・諸規制の体系的な理解を前提として、株式をめぐる具体的な論点に関する判例・学説の議論を通じて、理解の深化と考え方の醸成を目指す。	
会社法2	株式会社の機関について講義する。株式会社の機関設計に関する全体的な理解を前提として、株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人をめぐる法規制を概観し、監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社の組織の特色を理解するとともに、機関をめぐる具体的な論点に関する判例・学説の議論を通じて、理解の深化と考え方の醸成を目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	国内法分野	会社法3	株式会社の設立、資金調達（新株発行、新株予約権、社債）、計算、組織再編（合併、会社分割、株式交換・株式移転など）、持分会社などについて講義する。これらに関する法規制を概観するとともに、株式会社設立の法律構成と発起人の権限、新株・新株予約権の不正発行に対する救済措置などの論点に関する判例・学説の議論を通じて、理解の深化と考え方の醸成を目指す。	
		消費者行政法	国の各省庁と、地方自治体（都道府県・市町村）の各部局は、「安全」「表示」「取引」の各分野について、事業者の活動が消費者に被害をもたらさないように、さまざまな消費者行政法を制定して、多様な制度を実施している。最初に、行政がどのような手法で事業者ルールを守らせているかを概説し、以後、政策分野ごとに、これらの政策が必要とされる状況、実施されている法制度、その実効性と課題について論じる。	
		租税法1	かつてベンジャミン・フランクリンは“死と税金は必ずやってくる”といましたが、我々の日常生活はまさに消費税、所得税、酒税、自動車税など、さまざまな租税から逃れられないものとなっています。したがって、タックス・プランニングは個人生活や企業経営にとって重要な問題として関わってきます。「租税法1」では“市民生活と租税”をメイン・テーマとし、はじめに租税の意義や租税原則、租税法主義などの租税法に関する総論的な部分を講義し、続いて私たちの生活にもっとも関係の深い「消費税法」について講義します。	
		租税法2	所得税は個人の所得に対して課税する税金です。消費税とともにもっとも身近な税金の一つです。そこで、学生の大多数は将来給与所得者になるので、給与所得に対する課税を中心に所得税の仕組みについて講義します。また、株式を巡る譲渡所得、配当課税も注目を集めているので、NISAについても講義します。さらに、相続税・贈与税が一般庶民課税となっている問題につき、その基礎的内容を講義するとともに、特に税制改正の影響を受けた項目について重点的に解説をします。	
		労働法1	労働法のうち、労働者の人権や労働条件の内容に関わる法、労働関係の終了に関わる法を中心に講義を行う。レジュメを事前に配布し、履修者の発言やリアクションペーパーへの記入も適宜求めながら授業を進める。各回の授業の冒頭、前回の復習の時間を設け、履修者の質問・コメントを紹介する。第7回・15回は、それまでの授業の復習の機会とし、間違いやすいポイントに関する説明や、事例問題の解説等を行う予定である。	
		労働法2	履修者が労働法1の授業の履修済みであることを前提に、労働法のうち、労働関係の成立や展開に関わる法、非典型雇用に関する法、労働組合に関する法、労働紛争処理に関する法を中心に講義を行う。レジュメを事前に配布し、履修者の発言やリアクションペーパーへの記入も適宜求めながら授業を進める。各回の授業の冒頭、前回の復習の時間を設け、履修者の質問・コメントを紹介する。第5回・9回・15回は、それまでの授業の復習の機会とし、間違いやすいポイントに関する説明や、事例問題の解説等を行う予定である。	
		民事訴訟法1	民事紛争の処理制度には和解・仲裁・あっ旋など様々なものがあるが、なかでも裁判所という公権力を介して実体法上の権利を確定・実現していく役割を担っている民事訴訟制度はとりわけ重要な制度といえる。本講義では、民事裁判という一連の手続の流れの前半部分（民事裁判の概要・訴えの提起・審理といった範囲）を学習するとともに、実体権の実現プロセスをもあわせて学ぶことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 国内法分野	民事訴訟法2	民事紛争の処理制度には和解・仲裁・あっ旋など様々なものがあるが、なかでも裁判所という公権力を介して実体法上の権利を確定・実現していく役割を担っている民事訴訟制度はとりわけ重要な制度といえる。本講義では、民事裁判という一連の手續の流れの後半部分（訴訟の終了・複数請求訴訟・多数当事者訴訟といった範囲）を学習するとともに、実体権の実現プロセスをもあわせて学ぶことを目的とする。	
	金融商品取引法	金融商品取引法（以下、金商法とする）は、日本経済の中心である証券市場ないし金融・資本市場を支える法律であり、国家経済的に著しく重要なルールである。その規制内容としては、上場企業等の情報開示規制、公認会計士や内部統制等の会計チェックシステム、株式等の発行規制、企業買収（M&A）規制、インサイダー取引等の不正取引の規制、不当な勧誘規制等がある。本授業はそうした規制内容について、近時の不正会計事件等といった著名な事件を含め、学習するものである。そうした知識は、資本主義経済や企業社会に対する深い理解について不可欠になっている。	
	海商法	海商法は、船を用いた海での企業活動を対象とする私法である。具体的には、1. 船を用いた海での企業活動が、私法の領域で、どのように法的な道具を用いているのか、ということ、それは、どのような考え方に基づくのか、ということに重点を置いて講義する。海商法は歴史的事情から、通常の民商法からみれば特殊な法制度を少なからず規定している。このような特殊な制度の説明も、講義には含める。2. 人間の海での活動には海事公法・IMO諸条約も重要であり、適宜、そのことも触れる。3. ただし、細かなこと、高度なことは、限定的に講義する。したがって、受講の前提となる知識は求めない。	
	保険法	2008年に成立した保険法の講義を行う。 まず保険契約の特質を民法の契約との関わりにおいて詳細に検討した上で、損害保険、生命保険、傷害疾病保険それぞれにつき検討を行なう。	
演習	フィールドワーク1	この授業においては、社会における国際的な法律に関わるさまざまな分野における実務に触れさせることにより、すでに学習してきた各分野の法的知識の実感を伴った体得を目指すとともに、学生の進路を考えていくための機会を提供する。授業は、座学と見学によって構成され、①さまざまな法実務の分野についての基礎知識を修得するための講義、②各分野の実務家を招いての外部講師による講義、③大学外での施設や実際の業務の見学を行う。対象とする業務分野としては、国内での外国人の法律相談業務や外国人・難民の生活支援を行う法律センター・地方自治体・非営利組織、企業の国際取引業務を扱う企業内法務部・仲裁組織、国際問題や国際協力に関わる政府関係機関・非営利組織・メディア・国際組織などを予定している。	
	フィールドワーク2	この授業においては、学外におけるインターンシップやその体験を踏まえたレポートの作成、学生相互の討論などを通じて、すでに学習してきた各分野の法的知識の実感を伴った体得を目指すとともに、学生の進路を考えていくための機会を提供する。対象とするインターン先としては、国内での外国人の法律相談業務や外国人・難民の生活支援を行う法律センター・地方自治体・非営利組織、企業の国際取引業務を扱う企業内法務部・仲裁組織、国際問題や国際協力に関わる政府関係機関・非営利組織・メディア・国際組織などを予定している。	
	演習(3年次)	担当教員の専門に応じて、国際法、国際人権法、国際私法、国際取引法、法理論、環境法、ワイン法、比較文化などのゼミナールが開講される。演習のテーマは担当教員が選択し、学生によるプレゼンテーションやディスカッションを行う。また、各学生は、特定のテーマについて、レポートまたはゼミ論文を執筆する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	演習	卒業論文(4年次)	担当教員の指導のもと、グローバル法や異文化理解などに関連する特定のテーマにつき、1年間をかけて、日本語または外国語で卒業論文を執筆する。3年次演習において中間報告会を行う場合もある。	
関連科目		演習・卒業論文(3・4年次)	3年次において、担当教員の専門に応じて、比較政治、国際関係論などのゼミナールが開講される。演習のテーマは担当教員が選択し、学生によるプレゼンテーションやディスカッションを行う。また、各学生は、特定のテーマについて、レポートまたはゼミ論文を執筆する。4年次では、担当教員の指導のもと、自らが選択した特定のテーマにつき、1年間をかけて、日本語または外国語で卒業論文を執筆する。中間報告会を行う場合もある。	
		災害ボランティアと公共政策1	東日本大震災を契機に、災害に関連する学生ボランティア活動に参加し、その体験を通じて社会の在り方、コミュニティの在り方を含め、災害対策などに関して、政策論的に分析・検討することを目標に設置された科目である。具体的にはボランティアセンターで募集した災害関連プログラムを対象に、法学部においてこの科目の主旨に相応しいものと認定されたプログラムの参加者に対して、単位認定申請書(兼認定書)・災害ボランティア活動に関する報告資料を提出させ、学科主任の面接を経て、政治学科主任が単位認定の可否を決定する。	
		災害ボランティアと公共政策2	東日本大震災を契機に、災害に関連する学生ボランティア活動に参加し、その体験を通じて社会の在り方、コミュニティの在り方を含め、災害対策などに関して、政策論的に分析・検討することを目標に設置された科目である。具体的にはボランティアセンターで募集した災害関連プログラムを対象に、法学部においてこの科目の主旨に相応しいものと認定されたプログラムの参加者に対して、単位認定申請書(兼認定書)・災害ボランティア活動に関する報告資料を提出させ、学科主任の面接を経て、政治学科主任が単位認定の可否を決定する。	
		現代日本の法と政治	本講義は留学生の向けの講義です。日本の法学や政治学を初めて勉強する人のために、法とは何か、法と規範・法と道徳、法学の学び方、リーガルリサーチの仕方などを具体的な事例などをまじえながらわかりやすく説明します。また、留学生の出身国の法律と比較しながら、その違いを通して法学の理解を深める。	
		法学部生のキャリアデザイン講座	法学部で学んでいることを社会にどう活かせるのか?を考えていく授業です。法律は私たちの見えないところで活かされています。法学部=法曹界という直接的な仕事だけではなく、間接的にかかわっていることを学んでいきます。様々なゲストをお呼びし、それぞれのキャリアでどのように法律は活かされているのかを話していただきます。最終的には、自分がどんな仕事をなぜしたくて、どうしていくのかを決めていきます。	
		キャリアデザイン特講	「社会に出て働くとはどういうことか」「社会に出るために何が必要か」といった基本事項から、大学生のキャリア形成においてキーポイントとなる業界研究、具体的な志望業界の選び方、エントリーシートの書き方まで、一流企業で活躍する講師が交代で授業を行う。この講義を通して、実際に就職活動をするために必要なことを身につけてもらうことを目標とする。	
		高齢社会と法	急速な少子高齢化に伴い、社会福祉、医療、年金等の生活関連政策の改革が進められている。福祉、医療、年金等の政策分野に焦点をあて、少子高齢社会における政策内容と近年の改革、課題について、高齢者像の変化、高齢者政策における市場化、政府・企業・非営利組織の役割などに注目しつつ検討する。期末に学生による報告を行う予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	経済学概論1	本講義では、経営学を学ぼうとする学生を対象として入門レベルの経済学を講義します。経営学は、経済学を親和性の高い学問領域であり、経済学の影響をある程度うけています。そのため経営学を学ぶためには、一定程度の経済学の知識やその考え方を理解しておく必要があります。そこで本講義では、まず現在の経済学が基礎としている「ミクロ経済学」を中心に学習します。	
	経済学概論2	本講義では、経営学を学ぼうとする学生を対象として入門レベルの経済学を講義します。経営学は、経済学を親和性の高い学問領域であり、経済学の影響をある程度うけています。そのため経営学を学ぶためには、一定程度の経済学の知識やその考え方を理解しておく必要があります。そこで本講義では、入門レベルの「ミクロ経済学」の知識を前提として入門レベルの「マクロ経済学」を学習します。	
	企業会計1	本講義では、簿記の基本的な考え方や方法等について講義します。簿記とは、企業の経済活動を貨幣単位（金額）によって記録、計算、整理する技術です。企業の経営状態を理解する手段の一つとして、財務諸表がありますが、この財務諸表は、簿記（具体的には、複式簿記）という技術をもとに作成されています。そのため、複式簿記を理解することは、企業の経営状態を理解するためには必要不可欠です。また近年、地方自治体でも複式簿記の考え方が導入されるなど、複式簿記を学ぶ意義はとて大きくなっています。なお、講義が中心ですが、講義内で計算を行ったり、2回程度の小テストを実施する予定です。	
	企業会計2	本講義では、財務諸表の相互の関係性、財務分析に関する基本的な考え方や方法を中心に講義します。企業が公表する財務諸表には、ある一定期間の企業の様々な経済活動に関する成果がまとめられています。そのため、財務諸表は企業の通信簿という言い方もよくされます。つまり、財務諸表を読み解くこと（財務分析）で、企業の経営状態を一定程度理解することができます。例えば、現在の企業の経営状態は良いのか悪いのかということです。人間に例えれば、財務分析とは健康診断のようなものです。なお、講義が中心ですが、講義内で計算を行ったり、2回程度の小テストを実施する予定です。	
	法哲学1	法哲学とは、法および法的現象について哲学的な視角から研究する学問であり、通常、（1）法の一般理論（法概念論）、（2）法律学方法論（法認識論）、（3）法価値論（法理念論、特に正義論）という3つの領域に区分される。本講義においては、（3）の主要問題について、サンドルのベストセラー『これからの「正義」の話しよう』を基本的なテキストとして用いながら、丸山真男の「「である」ことと「する」こと」なども参照しつつ、横断的かつ批判的に考察する。	
	法哲学2	法哲学とは、法および法的現象について哲学的な視角から研究する学問であり、通常、（1）法の一般理論（法概念論）、（2）法律学方法論（法認識論）、（3）法価値論（法理念論）という三つの領域に区分される。本講義においては、これら三つの領域における基本問題について、ケルゼン、リアリズム法学、批判法学、ハート、ラズ、ドゥウォーキン、法と経済学、ロールズ、ノージック、サンドルなどの見解を紹介しつつ、批判的な視角から考察を加える。	
	西洋法制史1	本科目は、法学史の観点から近代日本法にその母法として影響を及ぼしたヨーロッパ大陸法の歴史を12世紀イタリアにおけるローマ法学の復活から19世紀ドイツ民法典の成立に至るまで講義することを目的とする。	
	西洋法制史2	本科目は、西ヨーロッパ、特に、神聖ローマ帝国を対象として、中世以降近代にいたる国制の発展を近代国家と近代法の形成という視角から講義することを通し、近代のそれとは異なる前近代の法（権力）秩序の特質を理解することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	商法総則	企業法としての商法の意義を検討するとともに、商法の適用範囲を画する商人概念と商行為概念のほか、商法総則上の諸制度について、重要判例・重要論点をも意識しながら概説する。	
	商行為法	企業取引の特殊性を踏まえて、商行為に関する特則と各種営業（仲介営業：代理商・仲立人・取次商、運送営業、場屋営業、倉庫営業）をめぐる法律関係などについて概説し、商行為法を通じて民法の理解を深める。	
	消費者取引特別法1	消費者契約法、特定商取引法を中心に主な消費者取引特別法について、立法の背景、基本的な内容や主な論点の検討を行う。まず、消費者取引特別法の枠組みを概観し、次に消費者契約法の主な内容と基本的な論点、特定商取引法の内容と基本的な論点について、さらに、消費者信用について、クレジット取引、消費者金融等の基本的論点を取り上げる。事業者と比べて情報力や交渉力について弱者である消費者の権利を実現するための法制度を理解し、能動的な市民としての消費者のあり方について考える。	
	消費者取引特別法2	製品の欠陥による消費者等の被害に対して、製造者等が負うべき損害賠償責任について定めた無過失責任ルールが製造物責任法である。この講義では、わが国の製造物責任法の主な内容、論点を中心に製造物責任理論の展開、法の内容、判例の動向について取り上げるほか、同法の実効性確保に関連した他の製品安全関連法や制度についても検討し、製造物責任法を中心に製品安全関連法について学ぶ。	
	消費者取引特別法3	本講義では、マンション法についての講義を行う。マンションは、都会的なライフスタイルを享受できるイメージがあるが、実際にマンションを買って住み始めてみると、区分所有者には多くの守らなければならない義務があることに気づくはずである。そこで、本講義では、マンションを日常的に維持管理していく上でどのような法律問題が生じ、どのような法的解決が図られているのか、そして、マンションが老朽化した、あるいは大規模な災害で被災したりした場合に、どのような法律問題が生じ、どのような法的処理が可能であるのかについて検討する。	
	民事執行法1	民事執行法の定める民事執行制度について講述します。春学期（民事執行法1）は、民事執行制度の総論的内容を対象とします。また、民事執行制度の理解を深めるために、民事保全法の定める民事保全制度もとりあげます。毎回、レジュメ、書式その他の資料を配付します。	
	民事執行法2	民事執行法の定める民事執行制度について講述します。秋学期（民事執行法2）は、春学期（民事執行法1）で勉強した民事執行制度の総論的内容を踏まえたうえで、各種の民事執行の手続について、1つずつ講述していきます。毎回、レジュメ、書式その他の資料を配付します。	
	刑事訴訟法1	この講義では刑事実体法である刑法・特別刑法等を実現するための手続を学ぶ。刑事訴訟法1では、捜査の開始から公訴提起までの捜査手続（具体的には、人の身柄を拘束する強制手続である逮捕・勾留、証拠物を収集する強制手続である捜索・差押え、強制以外の手段である任意捜査、公訴提起等）について、判例等の具体例を挙げながら学んで行く。	
	刑事訴訟法2	刑事訴訟法2では公判手続について学ぶ。具体的には、審判対象（訴因）、公判前整理手続、審判対象を立証するための立証手続、証拠法（伝聞証拠、自白、違法収集証拠等）、裁判、不服申立（上訴、再審）等について、判例等の具体例を挙げながら学んで行く。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	倒産法1	「借りた金は返さなければならない（＝債務は弁済しなければならない）」というのは、法の世界のみならず社会一般的にも当然のことと考えられています。しかし、倒産・破産というのは、まさにこの借りた金を返せなくなった非常事態であり、そのような非常事態を放置したのであれば、経済的のみならず法的にも様々な混乱状態を招来することになってしまいます。そこで、債務者がそのような状態に陥った場合には、それまでの財産関係や債権者との法律関係について、公平で秩序だった処理を行うための法制度が必要になります。この講義では、これら倒産処理のための法的手続について学びます。	
	倒産法2	「借りた金は返さなければならない（＝債務は弁済しなければならない）」というのは、法の世界のみならず社会一般的にも当然のことと考えられています。しかし、倒産・破産というのは、まさにこの借りた金を返せなくなった非常事態であり、そのような非常事態を放置したのであれば、経済的のみならず法的にも様々な混乱状態を招来することになってしまいます。そこで、債務者がそのような状態に陥った場合には、それまでの財産関係や債権者との法律関係について、公平で秩序だった処理を行うための法制度が必要になります。この講義では、これら倒産処理のための法的手続について学びます。	
	手形法・小切手法1	約束手形・為替手形・小切手の意義・経済的機能・有価証券としての属性に関する基本的な理解を踏まえて、手形法体系における重要な概念である手形行為に関する総論的な諸問題（手形行為の性質、他人による手形行為、手形の偽造・変造など）について検討するとともに、約束手形の振出・裏書をめぐる法律関係について概説する。	
	手形法・小切手法2	手形法における重要なテーマである手形抗弁をめぐるとともに、手形保証、支払、遡求、時効と利得償還請求権、白地手形、為替手形・小切手に特有の法律関係について概説する。	
	有価証券法1	代表的な有価証券である手形・小切手を中心として、有価証券をめぐるとともに、手形法体系における重要な概念である手形行為に関する総論的な諸問題（手形行為の性質、他人による手形行為、手形の偽造・変造など）について検討するとともに、約束手形の振出・裏書をめぐる法律関係について概説する。	
	有価証券法2	代表的な有価証券である手形・小切手について、手形行為の法的性質（手形理論）に関する交付契約説の立場から、その総論的な諸問題（手形行為独立の原則、他人による手形行為、手形の偽造・変造など）について検討するとともに、各手形行為（振出・裏書・保証）をめぐるとともに、株券の特殊性、有価証券の電子化にも言及する。	
	行政法3-1	わが国の地方自治に関する法制度を概観し、どのような法律問題があるか、裁判所による解決は機能しているかについて、分析し、またその方向について講義する。地方自治体の法律問題は、行政上の法律問題そのものである。しかもその応用力が必要である。受講生の諸君には、行政法総論と行政救済法の基本的知識が求められる。なおシラバスは適宜変更があり得る。	
	行政法3-2	本講義は、従前の例により、公務員法となっているが、行政法学の伝統に従い、行政組織法、公務員法、公物法を組み込むことにした。現代社会では、公務員の公務だけでなく、公私協働が進んでいるほか、政権主導の行政組織が果たす役割が大きくなっているからである。公物法は河川や道路など社会的インフラの管理に関わり、近時では災害とのかかわりも大きくなっている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	法人税法1	「法人税法1」では、法人税法の基礎として、企業会計と異なる「益金」「損金」といった法人税法独自の概念について講義します。具体的には、法人税法22条（この22条は法人税法の基本条文と呼ばれます。）の分析を中心とし、特に「益金の額」について判決例をまじえて講義します。	
	法人税法2	「法人税法2」は「法人税法1」に続き、特に「損金の額」を中心に講義します。「損金」は課税所得計算のマイナス項目であるため、実務上、納税者と税務当局の争いが多くなるきわめて興味深い分野です。判決例、裁決例をまじえながら、理論と実務の問題点を講義します。	
	社会保障法	社会保障関連の話題は、新聞・マスコミ等で数多く取り上げられている。社会保障制度の必要性に疑問を投げかける者はいないが、その制度を正確に理解している者は少ない状況が見られる。本授業では、社会保障の制度と法について正確な現状認識と基礎的な理解が出来るだけでなく、少子高齢化への自分なりの考えを形成する必要性の上から、わかりやすく解説することに努めたい。	
	環境科学の展開	環境法策定の基礎となる環境科学について、自然環境と法との関連を考慮しながら学習する。自然環境として重要な、大気、水質、有害物質、放射性物質等に対処する、国内環境法について先ず学ぶ。次いで地球規模環境問題に対処する国際環境法に代わる多国間条約について学習する。いずれの場合も、自然環境の劣化の現状と原因に関する自然科学的知識の習得を通し、法や条約がどのような考えに基づいて構成されて行くのか、基本的な理解を深めることを目標とする。	
	成年後見法制1	社会的ニーズの高まりを背景に制定された新しい成年後見制度の内容および運用の実態について、法定後見制度を中心に、超高齢社会を迎えるとともに制定から15年以上が経過して浮上してきた問題点の分析も含め、詳細な検討を行います。	
	成年後見法制2	社会的ニーズの高まりに対応して導入された成年後見制度について、任意後見制度を中心に、その内容および運用の実態、さらには超高齢社会を迎えたわが国が直面している課題を明らかにすべく検討を行います。	
	比較成年後見法制	超高齢社会における成年後見制度のあり方について、さまざまな制度とわが国の現行制度を比較しながら考えます。成年後見制度は、民法の枠内にとどまらない制度です。そこで、成年後見制度と関係する民法や社会福祉制度、医療制度、また諸外国の成年後見制度について、その内容や運用の実態を概観しながら、近時の国連障害者権利条約の影響も踏まえて検討することとします。	
	消費者法の実務	消費者と事業者の情報力、交渉力の格差に着目して整備されている様々な法律（＝消費者法）のうち代表的なものについて、その立法過程、内容、運用等について説明する。行政組織法、行政作用法、民事実体法、民事手続法などの様々な特別法に触れる。授業は、これらの法律の立法、運用等に実際にあつた経験者が行うことを原則とし、それぞれの法律の実務に詳しい外部講師に適宜委嘱する。	
	信託法	信託は、信託の設定者である委託者の財産権を受託者の名義に移転し、自己（委託者）または他人（受益者）のために当該財産を受託者に管理させる制度である。このような信託の概念は英米法の下で発展してきたとされるが、わが国の信託制度は近年大きな変革を試み、社会的な期待が寄せられている。また、金融商品としての投資信託や年金運用における受託者責任の問題、超高齢社会における後見制度支援信託などトピックなテーマについても触れる。本講義では、信託の理論面（法構造）と実務面（信託の利用・活用）について総合的な考察を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目	経済刑法	本講義では、個人や企業・組織体の経済活動に伴う「逸脱行動」に対する刑事規制の運用実態（立法・判例・学説）を概観する。また、金融商品取引法や独占禁止法の改正などで議論されている、より実効的な制裁の在り方あるいは法人処罰の是非などといった立法的課題も含めて検討を加える。	
	刑事政策	現代は、「刑事立法の時代」ともいわれ、とくに1990年代後半以降、刑法、刑事訴訟法、監獄法、少年法の大規模改正、ストーカー規制法やDV防止法、犯罪被害者保護法、医療観察法などの新規立法が相次ぎ、重罰化や犯罪化、新制度の創設が進んだ。すなわち、社会の進展やIT技術の発達に伴う新種の犯罪の発生、被害者運動の興隆、マスメディアによる犯罪報道などにより、従来よりも犯罪問題が政治課題の上位に位置するようになってきたのである。本講義では、刑事政策の歴史を踏まえ、これら最新の動向に目を向け、現代の刑事政策のあり方を検討する。	
	日本法制史1	日本法制史について学ぶ講義形式の授業である。本講義では、主に近代法史の分野（特に、憲法・民法）に焦点をあて、異なる歴史と文化を背景として育まれた西洋の近代法が、近代期にどのように日本で継受され、発展していったのか、概説してゆく。	
	日本法制史2	日本法制史について学ぶ講義形式の授業である。本講義では、主に近代法史の分野（特に、刑法・植民地法制）に焦点をあて、異なる歴史と文化を背景として育まれた西洋の近代法が、近代期にどのように日本で継受され、発展していったのか、概説してゆく。	
	近代日本法思想史	我が国の現行の法制度は、近代期における西洋法の継受の経験に基づいている。当時の法の継受は、どのようなプロセスで進められ、その背景にはどのような議論を経て成立していったのだろうか。いくつか重要な法制度や人物に焦点をあて、史料を用いながら講義形式で概説してゆく。	
	英米法1-1	春学期は、イギリス（イングランドおよびウェールズ）を中心に見ていきます。イギリスの判例法を形作っているコモン・ローとエクイティについて理解するためには、その歴史的な脈を認識することが不可欠です。このため、ノルマン征服以降のイギリスの法制史の話が中心となります。これに加えて、陪審制や英米の法律家像といったテーマを取り上げます。	
	英米法1-2	秋学期は、アメリカ合衆国を中心に見ていきます。歴史を概観しつつ、法の支配、連邦制や違憲審査制などの重要な概念や制度について解説します。また、アフターマティブ・アクションや「テロ法制」、「格差社会」といった現代的問題についても取り上げます。	
原典講読	(英)アメリカ合衆国の刑事法の分野における代表的な判決を概観する。基本的に、Rolando V. del Carmen教授の教科書に載っているcase brief（判決の要約）を輪読形式で読んでいく。1件について1、2ページでまとめられているので、判決1件について1、2回でみるのができ、たくさんのトピックを扱うことができると思う。受講者は刑事訴訟法および英米法の講義を受講済み、または同時に受講していることが望ましいが、英米法に特有の法制度の解説や日本の刑法・刑事訴訟法についての知識の確認については、十分な時間をとりたいと考えている。また、少なくとも1回は刑事司法に関連する映画やテレビドラマの鑑賞にあてたい。 (独)コーイングの『ヨーロッパ私法論』(Helmut Coing, Europaeisches Privatrecht, 1985)を輪読していく。ドイツ語の語学力の涵養とともに、ヨーロッパの法律学と社会についての理解を深めようとするものである。受講者にドイツ語の知識はあるに越した事はないが、熱心に学ぶ用意があれば、初心者でも履修して差し支えない。その場合は、教材の文章に則して、初歩的な文法知識から教えて行くことになる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連科目		(つづき) (仏)Paul OURLIAC et Jean DE MALAFOSSE によるテキスト『Histoire du Droit privé』を講読します。『私法の歴史』と題された本書は三巻から構成され (I. Les Obligations, II. Les Biens et III. Le Droit familial) 本年度はLes Obligationsを対象とします。フランス私法はヨーロッパの法文化のもとで形成されてきたと解されており、本書はそうした歴史において生成されたフランス法のLes Obligationsの基礎知識について学べるように構成されています。こうした本書の講読を通じてフランス法文化の歴史と現在のより豊かな理解に努めることとなります。	
	環境政策と法	環境問題において何が問題となっているか、環境法はどのような理念と手法をもって対応しようとしているかについて学ぶ。授業では、発表・発言等の自主的な参加を重視する。	
	環境保護と訴訟	我々の生活が生じさせている環境問題を解決するための法制度と訴訟について、特定の法令を具体例としてとりあげて現状を学び、課題を考えていく。必要な法令及び判例については配付資料を用いる。	
	不動産特別法	不動産取引は、主として、土地の売買と建物の建築請負、土地と建物の売買、土地の賃貸借、建物の賃貸借が想定される。売買・請負・賃貸借は、契約法の典型契約として学習するものであるが、実際の場面では民法が想定する内容以上により複雑である。それは、不動産という取引対象が、永久の財産であり、限られた財産であるという点において、それ以外の動産とは大きく異なる特殊性を有しているからである。そして、このような不動産の特殊性が、特有の法的論点を提起してくる。本講義では、まず、不動産の特殊性について検討し、その上で、個別の法的論点についての最近の判例法や特別法を検討する。	
	現代金融法論	まず、最近の金融機関等の業務・経営の法的枠組み、其々の業界で必要とされる特別法の枠組みを鳥瞰した上で、企業内の法律の組織別の関連性を理解し、金融実務の従来の基本業務と法的枠組みの関係と、コンプライアンス等の視点を理解しながらサブプライム後・マイナス金利後の金融法の新しい世界と「企業」と「起業」のファイナンス、そして今年には特にいわゆるFintechの今後を考える視点についての理解を深めていく。	
	犯罪学	犯罪は、古今東西を問わず存在する普遍的な社会現象である。どの時代、どの社会においても人々は犯罪問題に直面し、その原因を探り、犯罪対策を講じてきた。しかしながら、犯罪原因を科学的に分析し、国家として対策を講じるようになるのは18世紀になってからであり、さらに実証研究を伴う犯罪学としての学問的地位が確立されるようになるのは、19世紀後半から20世紀初頭にかけてである。本講義では、犯罪学の意義、歴史、主要理論の展開、犯罪学的調査技法、近年の犯罪学研究の動向などを扱い、犯罪、犯罪者、犯罪現象を学際的かつ多角的に検討する。	
	比較刑事司法史	日本の現在の刑事裁判制度は、明治維新後及び第2次世界大戦後に、欧米から取り入れたものが基礎になっているので、現在の日本の制度を理解するためには、主に、欧米の歴史を学ぶ必要がある。また、韓国の法制度は日本の制度と同様に欧米の制度を取り入れたものであるが、日本の制度と異なる部分もあり、韓国の制度の歴史を学ぶことが、日本の制度の改善に役立つと考えられる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
明治学院共通科目			
C群	キリスト教基本科目	キリスト教の基礎A	キリスト教には、知的で良心的な人格主体の形成と、平和を求める民主的な市民社会の形成にとって重要な考え方がいくつも含まれています。この授業ではそれらを意識しながら、キリスト教という宗教についての基本的な事柄を学びます。春学期は創造、契約、律法、預言者、知恵、福音、十字架、復活、贖罪、教会、終末など、キリスト教に特有の概念や考え方について理解を深めて行きます。また、このクラスでは、生きたキリスト教の姿を知るための体験学習として半期に2回、教会の日曜礼拝に参加して簡単なレポートを提出してもらいます（信教の自由については配慮されますので心配はいりません）。
	キリスト教の基礎B	新約聖書時代から現代に至るキリスト教の歴史の中で、キリスト教という宗教の思想的特色がよく現れている事柄を取り上げて、春学期に追求した「問い」についての議論を深めながら、市民社会の形成とキリスト教との関わりについて理解をしてゆきます。春学期と同じく、このクラスでは学期中に2回、教会の日曜礼拝に出席して説教、祈り、讃美歌、教会音楽、教会建築に直接接することを通して、現在の日本のキリスト教のあり方について体験的な理解を深めていきます（信教の自由については配慮されますので心配はいりません）。	
外国語基本科目	英語コミュニケーション1A	英語コミュニケーション1Aは、さまざまなエクササイズを通して、実際に英語を使いながらリスニング・スピーキング能力を向上させる。予習をきちんとやることに加え、宿題としてテキストの内容にそったCDを活用した各種の課題をこなすことが求められる。多様な補助教材が用意されるので、自主的な学習を意欲的に進めて欲しい。	
	英語コミュニケーション1B	英語コミュニケーション1Bは、さまざまなエクササイズを通して、実際に英語を使いながらリスニング・スピーキング能力を向上させる。予習をきちんとやることに加え、宿題としてテキストの内容にそったオーディオ教材を活用した各種の課題をこなすことが求められる。多様な補助教材が用意されるので、自主的な学習を意欲的に進めて欲しい。	
	英語コミュニケーション2A	英語コミュニケーション2Aの授業は、主に日本語を使って行われる。日英の音・発音の違いを理解しながら、英語らしい発音の仕方と、自然なスピードで話される英語の聞き方を学ぶ。個々の音から単語、単語の組み合わせ、文と拡大しながら段階的にアクセント・リズム・イントネーションの使い方と聞き取り方を学び、最終的にはまとまった話の聞き取りを目標にする。加えて、語彙の増強を目差して語彙テストを随時行う。	
	英語コミュニケーション2B	英語コミュニケーション2Bの授業は、主に日本語を使って行われる。日英の音・発音の違いを理解しながら、英語らしい発音の仕方と、自然なスピードで話される英語の聞き方を学ぶ。個々の音から単語、単語の組み合わせ、文と拡大しながら段階的にアクセント・リズム・イントネーションの使い方と聞き取り方を学び、最終的にはまとまった話の聞き取りを目標にする。加えて、語彙の増強を目差して語彙テストを随時行う。	
	フランス語1A	春学期開講。フランス語初習者を対象とし、初歩的な文法事項を確実に身につけることを目標とする。具体的な授業の進め方としては、まず、初級フランス語に必要な文法事項を、講師が簡単な例文をとりあげながら丁寧に説明する。次に、練習問題を実際に解いてみる作業を通じて、今度は学生一人一人が文法の知識を身につけることが要求される。そして学んだ事項を完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
C 群	外国語基本科目	フランス語1B	秋学期開講。春学期に引き続き、初歩的な文法事項を確実に身につけることを目標とする。具体的な授業の進め方としては、春学期と同様、まず、初級フランス語に必要な文法事項を、講師が簡単な例文をとりあげながら丁寧に説明する。次に、練習問題を実際に解いてみる作業を通じて、今度は学生一人一人が文法の知識を身につけることが要求される。そして学んだ事項を完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
		フランス語2A	春学期開講。フランス語初習者を対象とし、平易なフランス語の文章の読解力を身につけることを目指す。具体的な授業の進め方としては、まず、教科書各課のフランス語テキストを読むうえで必要な初級文法事項を講師が解説する。次に、各課のフランス語の文章を学生一人一人が読み解く。最後に、テキストの発音練習を講師の指導のもとで行なう。なお、完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
		フランス語2B	秋学期開講。春学期に引き続き、平易なフランス語の文章の読解力を身につけることを目指す。具体的な授業の進め方としては、春学期と同様、まず、教科書各課のフランス語テキストを読むうえで必要な初級文法事項を講師が解説する。次に、各課のフランス語の文章を学生一人一人が読み解く。最後に、テキストの発音練習を講師の指導のもとで行なう。なお、完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
		中国語1A	発音から始めて初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語1A・2A」を、秋学期に「中国語1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。1Aでは基礎文法を中心に授業を展開し、その習得を目指す。	
		中国語1B	初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語1A・2A」を、秋学期に「中国語1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。1Bでは、基礎文法を中心に授業を展開し、その習得を目指す。	
		中国語2A	発音から始めて初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語1A・2A」を、秋学期に「中国語1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。2Aでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
		中国語2B	初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語1A・2A」を、秋学期に「中国語1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。2Bでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
		ドイツ語1A	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語の基本構造を理解することを目的とした科目。講師の文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組むことによって、各学習者の理解をより深める。ドイツ語1Bと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、基礎的文法力を養成する。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
C 群	外国語基本科目		
	ドイツ語1B	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語の基本構造を理解することを目的とした科目。講師の文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組むことによって、各学習者の理解をより深める。ドイツ語1Aと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、基礎的文法力を養成する。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
	ドイツ語2A	基礎文法を含むテキストを用い、読解力、コミュニケーション能力を養成することを目的とした科目。ドイツ語圏の文化や日常生活のさまざまな場面に題材を求めた、読解テキスト、聴きとり練習、会話練習等に取り組む。ドイツ語2Bと合わせて習得語彙700語（ドイツ語1ABの語彙を含める）を目指す。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、ドイツ語の運用能力を高める。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
	ドイツ語2B	基礎文法を含むテキストを用い、読解力、コミュニケーション能力を養成することを目的とした科目。ドイツ語圏の文化や日常生活のさまざまな場面に題材を求めた、読解テキスト、聴きとり練習、会話練習等に取り組む。ドイツ語2Aと合わせて習得語彙700語（ドイツ語1ABの語彙を含める）を目指す。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、ドイツ語の運用能力を高める。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
	スペイン語1A	スペイン語の基本文法を様々な活動を通じて身につけていく。話す、聴く、書く、読むという基本4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の身につけるための基本的な訓練を行う。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すと同時に、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
	スペイン語1B	スペイン語1Aに引き続きスペイン語の基本文法を様々な活動を通じて身につけていく。話す、聴く、書く、読むという基本4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の身につけるための基本的な訓練を行う。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すと同時に、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
	スペイン語2A	世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指す。基本4技能のうち、特にスペイン語を聴く能力と話す能力を涵養するため、実践的な練習を積み重ねていく。また、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
	スペイン語2B	スペイン語2Aに引き続き、基本4技能のうち、特にスペイン語を聴く能力と話す能力を涵養するため、実践的な練習を積み重ねていく。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すと同時に、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
	ロシア語1A	ロシア語の文字、発音、文法の説明と基本的な文型の練習を行う。キリル文字はラテン文字（ローマ字）とは異なるアルファベットであるため、最初に時間をかけてじっくりと取り組む。またロシア語の学習に合わせて文化・社会に関する紹介も行う。	
ロシア語1B	春学期に学んだことを確認しながら、さらにロシア語の基礎的な能力をのばす。ロシア語の基本的な知識と運用能力の獲得（アルファベットを読めて書けるようになること、簡単な表現の口頭でのやりとりと読み書きができるようになること）を目指す。ロシアとその周辺地域の文化・社会の理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
C群 外国語基本科目	ロシア語2A	発音、文法、日常的会話表現などを確認しながら、ロシア語の基礎の基礎を身に着けます。具体的には正しく音読できるようになり、その上で基本的な文法知識を修得し、それを使って読み、書き、話す練習をする予定です。	
	ロシア語2B	春学期に学んだことを確認しながら、さらにロシア語の基礎的な能力をのびます。春学期同様、基本的な文法知識を学習したのち、それを利用して読み、話す練習をします。 ロシア語の音とアルファベットを習得し、音声・文法・語彙に関する基本的な知識とごく初歩的なロシア語の運用能力の獲得を目指します。またロシア語圏の文化・社会への関心と理解を深めることも目指します。	
	韓国語1A	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「読む」、「書く」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語1B	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「読む」、「書く」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語2A	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。	
	韓国語2B	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
	日本語1A	大学の勉学では、話し言葉に近い文章より、どちらかといえば堅いといわれるレポートや論文文に出る表現や語彙になれることが求められる。慣れるには、大量に読み、書くことが必要である。授業では、比較的長いこの種の文章を丁寧に読みながら、正確な理解ができるように読解の力を養成するとともに、使われている表現・語彙の使用法に慣れ、使いこなせるようにしていきたい。学部留学生のために選んだ文書をいくつか読んでいきたい。教材は第1回の授業のときに、プリントして渡す予定です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
C 群	外国語基本科目	日本語1B	大学の勉学では、話し言葉に近い文章より、どちらかといえば堅いといわれるレポートや論説文に出る表現や語彙になれることが求められる。慣れるには、大量に読み、書くことが必要である。授業では、比較的長いこの種の文章を丁寧に読みながら、正確な理解ができるように読解の力を養成するとともに、使われている表現・語彙の使用法に慣れ、使いこなせるようにしていきたい。学部留学生のために選んだ文章をいくつか読んでいきたい。教材は第1回の授業のときに、プリントして渡す予定である。	
		日本語2A	大学生に必要とされる口頭表現能力を中心とした言語技術全般を養成する。パワーポイントを用いた事実説明のプレゼンテーションを行い、発表を通して、伝えたい内容をいかに効果的に聞き手に理解してもらえるかを考える。また、論理的思考力と書く力を養成するために演習を重ねる。	
		日本語2B	日本語2Aで培った口頭表現力を基にし、専門科目での発表を念頭におきつつ、抽象度の高いテーマで相手に十分に理解してもらえるように論理的に話す練習を重ねる。その手段として、意見文を読みレジュメ作成をしたうえで自分の意見を発表する。また、パワーポイントを用いた意見プレゼンテーションを通して、伝えたい内容をいかに効果的に聞き手に理解してもらえるかも考える。	
	情報処理基本科目	コンピュータテラー1	基本的なコンピュータの操作法の修得を目的とする。情報処理とは、人間の知的活動そのものなので、コンピュータなしでも情報処理は可能であるが、コンピュータを利用するにあたっての約束事（データのどのように入力するか、データをどのように加工するか、結果をどのように表現するか）を簡単な例を用い、実際にパソコンを操作しながら学ぶ。	
		コンピュータテラー2	コンピュータ利用に関する初歩的な知識と技術を前提として、アプリケーションプログラムの1つである表計算の修得を目的とする。コンピュータを利用するにあたっての約束事（データのどのように入力するか、データをどのように加工するか、結果をどのように表現するか）を簡単な例を用い、実際にパソコンを操作しながら学ぶ。	
D 群	人文科学系科目	キリスト教の諸相1	「タナハ／旧約聖書」の第一部である「モーセ五書」（聖書の最初の5つの書）には、古代の先進地域である西アジアの一角に生きたイスラエル人・ユダヤ人の法的伝統が残されている。大帝国の支配下に置かれながらも、神に選ばれた「神の民」であるという自覚をもった人々の間で練り上げられた理念を、歴史的社会的背景に照らして理解する。受講者には、レスポンス・ペーパーやグループ・ディスカッションなどにおいて、法と正義の問題を、現代社会の諸問題との関連を意識しながら主体的に考察する事が求められる。	
		キリスト教の諸相2	ユダヤ教とキリスト教において聖典とされる「タナハ／旧約聖書」の中からいくつかの物語を取り上げ、文書の成立史や物語において前提される社会の仕組みなどを学びながら、それらにおける人間像を理解することを目標とする。ただし、モーセやダビデなどの著名な男性ではなく、女性の人物に光をあて個々の物語を考察することによって、「タナハ／旧約聖書」の人間像の多様性に重点を置く。文書成立時代の歴史的背景に照らして文書を理解することを主眼とするが、時間が許す範囲で西欧における受容史にも触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	キリスト教の諸相3	新約聖書の四つの福音書は、イエスについて知るための基本的資料である。しかし四つの福音書におけるイエスのイメージは、かなり異なっている。この授業では、福音書の語るイエス像がどのように異なるのか、何故このような違いが生じたのかを、当時の歴史的状况の中で考え、キリスト教の成立の経緯についての理解を深めることを目標とする。具体的には、イエスの活動の前提となる古代ユダヤ教の経緯と状況を確認した後、イエスの活動、十字架事件以降の弟子たちの活動、諸福音書の立場などを検討する。	
	キリスト教の諸相4	西洋文明の成立にキリスト教が根底から深く関わっていることはよく知られている。この授業ではまず、キリスト教が西洋世界の構造とどのように結びついたのかを確認し、さらに近代以降その影響を地球規模に拡大していった過程を辿る。この過程でキリスト教と非西洋的諸文明との出会いが生じるが、非西洋文明の持つ可能性に着目しながら、さまざまなタイプの文明とキリスト教とがどのような関係を結んでいるのかについても考察を深めてゆきたい。	
	キリスト教の諸相5	ヨーロッパ思想の源流にはギリシャ思想とユダヤ・キリスト教思想の二つの大きな思潮があり、キリスト教思想自体、古くはギリシャ哲学から中世そして近代哲学に至るまでそれぞれの時代の哲学諸思想との対立、融合、相互補完をくりぬけてきた。本講義では、この二大潮流を通時的に概観し、西洋哲学における諸課題の検討を通して、ヨーロッパ思想の形成と展開に大きな影響を及ぼしたキリスト教思想について深く理解することを学習目標とする。	
	キリスト教の諸相6	本講義では、聖書にみられる政治的概念、古代教父たちの政治思想、中世キリスト教政治思想、公会議運動の政治思想的意義、宗教改革者たちの政治思想など、キリスト教とデモクラシー、あるいは教会と国家の関係をめぐって蓄積されてきたキリスト教政治思想における主要な伝統について講義する。キリスト教、とりわけプロテスタンティズムが近代デモクラシーの思想的かつ実際的な展開に果たした役割を明らかにすることによって、キリスト教と政治との関係についての理解を深めることを学習目標とする。	
	キリスト教の諸相7	キリスト教は支配勢力として弱者や少数者に対し抑圧的に振舞ってきた歴史を持つ一方で、それとは全く反対に数多くの「抵抗者」を生み出してきた。本講義では、キリスト教の「抵抗」の論理をその由来にさかのぼって整理し、この論理が、非キリスト教文化圏、とりわけ近代以降の東アジア地域の中でどのように受けとめられ、展開されてきたのかを確認し、さらに現代社会の諸問題にどのように生かされるべきかを学ぶ。	
	キリスト教の諸相8	戦後65年経とうとしている今もなお、日本の戦争責任は戦後責任とあわせて問われ続けている。戦争の加害者と被害者との間に和解は成立しうるのだろうか。日本とアジアの関係を中心に戦後処理のあり方を考えながら、すぐれて聖書的な概念でもある「和解」の可能性をキリスト教の視点から探り、戦争の記憶と和解という重い問題にキリスト教はどのように答えようとしているのか、答え得るのかを考察する。	
	宗教史3	本講義では、そのテーマを「キリスト教史1（1～12世紀）」として、キリスト教の成立から中世キリスト教（12世紀まで）の歴史を講義する。どのようにキリスト教が誕生し伝わり生きられてきたか、ヨーロッパの土台となったキリスト教文化の形成について考察しながら、西洋文化への理解を深めることを目標とする。具体的には、殉教、修道制、秘跡、典礼、教会と国家の関係、霊性、キリスト教芸術等について、時折映像資料を用いながら講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群	人文科学系科目		
	宗教史4	本講義では、そのテーマを「キリスト教史2（13～21世紀）」とし、ヨーロッパ社会に変革をもたらした13世紀のキリスト教及びその後現代に至るまでのキリスト教史を講義する。具体的には、13世紀の都市の発達、使徒的福音主義的運動、托鉢修道会、教会分裂、ルネサンス、宗教改革、近代及び現代キリスト教の諸活動、日本のキリスト教、そして現代のキリスト教のあり方について、時折映像資料を使用しながら具体的に講義する。	
	宗教史7	アヘン戦争、第2次アヘン戦争の敗北、洋務運動、変法運動、義和団戦争と、目まぐるしい変化を遂げた中国の近代史は、「近代化」への苦闘の歴史ということもできる。この「近代化」の過程が実はキリスト教抜きでは語り尽くせないということはあまり注目されていない。授業では、キリスト教が具体的にどのように中国の「近代化」に関わったのかという問題を中心テーマとして講義を進める。中国の伝統的宗教意識、政治、社会の動きや日本との関係にも注意を払う。	
	宗教史8	清朝崩壊、中華民国の成立、日本との戦争、中華人民共和国成立、文化大革命、改革開放、そしてオリンピック開催。これら過去100年の中国の歴史に、キリスト教はどのような影響を与え、それに対し中国社会はどのように反応してきたのだろうか。本講義では、清末～辛亥革命から現代中国に至るまでのキリスト教の歴史を、中国の政治、社会の動きや日本との関係にも注意を払いながら概観し、現代中国社会におけるキリスト教の可能性を展望する。	
	哲学1	近代哲学の創始者とも称される17世紀の哲学者デカルト(Rene Descartes, 1596-1650)が著した代表作『方法序説 Discours de la Methode』（1637年刊）は、その知名度は高いものの、実際に読んでみると、内容を理解するのに苦勞する書物である。この著作が書かれた17世紀に固有の思想的背景などに触れながら解説する。	
	哲学2	近代哲学の創始者とも称される17世紀の哲学者デカルト(Rene Descartes, 1596-1650)が著した代表作『方法序説 Discours de la Methode』（1637年刊）は、その知名度は高いものの、実際に読んでみると、内容を理解するのに苦勞する書物である。この著作が書かれた17世紀に固有の思想的背景などに触れながら解説する。 『方法序説』の後半（第4～6部）では、主として、彼が打ち出した新たな「形而上学」、「自然学」の内容が紹介される。これを読むことを通じて、哲学史の基礎知識を習得する。	
	哲学3	西洋思想において「Harmonia ハルモニア」と言われる概念が果たした役割は余り知られていない。実は18世紀に至るまで、世界の数理的存在構造は音楽的なものであると考えられ、それは「ハルモニア」と称されてきた。この「ハルモニア」なる概念を巡って、音楽・科学・哲学・神学の有機的連関を追うことにする。春学期は、特にピュタゴラス＝プラトン主義的な象徴主義について、古代から17世紀までを概括する。	
哲学4	西洋思想において「Harmonia ハルモニア」と言われる概念が果たした役割は余り知られていない。実は18世紀に至るまで、世界の数理的存在構造は音楽的なものであると考えられ、それは「ハルモニア」と称されてきた。この「ハルモニア」なる概念を巡って、音楽・科学・哲学・神学の有機的連関を追うことにする。秋学期は、デカルトを中心として、17世紀における「ハルモニア」概念の崩壊について概説する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 人文 科学 系 科目	哲学5	初期近代までのユダヤ哲学の潮流を、主要な何人かの思想家をとりあげ、1年がかりで展望します。春学期は古代イスラエルにおける神の理解から、イスラーム経由のギリシア哲学移入（9世紀）、中世屈指の哲学者マイモニデス（12世紀）までを、概説史的に紹介します。啓示（聖典）と理性（アリストテレス哲学）というふたつの基準をもつユダヤ哲学をとおり、近代以前の哲学のもっとも基本的な関心を理解します。	
	哲学6	初期近代までのユダヤ哲学の潮流を、何人かの思想家をとりあげ、1年がかりで主要な展望します。秋学期は啓示（聖典）と理性（アリストテレス哲学）という真理のふたつの指標の関係を、哲学者たちがどのように論じたかを、各論的にとりあげます。中世ユダヤ哲学の頂点に立つマイモニデス、ヘブライ語訳で熱心に読まれたイスラーム哲学者アヴェロエス（イブン・ルシュッド）（ともに12世紀）から、ユダヤ教から破門され西洋哲学に名を残したスピノザ（17世紀）までをとりあげます。	
	倫理学1	倫理学の基本問題である「善悪とは何か」、「正義とは何か」、「平等とは何か」、「普遍的な善悪の基準はあるか」、「自由と責任」、「道徳と幸福」などの倫理学の基本問題を、日常的な経験から題材を取り、日常的な語彙を用いて考える。倫理学の理論にかんする講義も取り入れるが、最小限にとどめ、担当者と受講生、受講生どうしの討論を主体に進めることによって、他者とコミュニケーションをとりつつ主体的に思考する訓練を兼ねる。	
	倫理学2	倫理学の代表的な理論一つを主題的に取り上げ、他のさまざまな理論とも比較しつつ、掘り下げて解説し、倫理学の基本的な考え方を学ぶ。カント倫理学、功利主義、道徳感情論、分析倫理学、討議倫理学などを取り上げられる。理論の理解が主になるが、できるだけ日常的な道徳的経験に照らして考えることを促し、受講生が主体的に倫理的に思考することを促す。	
	倫理学3	ヨーロッパの哲学の一部としての倫理学の歴史を、古代・中世に焦点を当てて学ぶ。古代ギリシャからルネッサンス前までの倫理学の理論を通史的に解説する。理論の理解が主になるが、あわせて時代的背景、文化的背景なども解説し、ヨーロッパの歴史と文化の理解を促す。	
	倫理学4	ヨーロッパの哲学の一部としての倫理学の歴史を、近代・現代に焦点を当てて学ぶ。ルネッサンスから20世紀までの倫理学の理論を通史的に解説する。理論の理解が主になるが、あわせて時代的背景、文化的背景なども解説し、ヨーロッパの歴史と文化の理解を促す。	
	倫理学5	現代社会が直面する倫理的問題のうち、いわゆる生命医療倫理学に属する倫理的問題を考える。たとえば、クローン技術、生殖補助医療、安楽死・尊厳死、脳死臓器移植などを取り上げる。生と死、人としてのアイデンティティ、科学技術の可能性と限界をめぐって哲学的に考え、各自の意見を形成することを促すとともに、倫理的思考の基本を学ぶ。	
	倫理学6	現代社会が直面する倫理的問題のうち、生命医療倫理学以外のさまざまな分野を扱う。たとえば、環境倫理学、戦争と平和の倫理学、ビジネス倫理学、情報倫理学などのいわゆる応用倫理学に属する問題を取り上げる。現代を生きるわれわれにとって喫緊の加田をめぐって哲学的に考えることを促すとともに、倫理的思考の基本を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D 群	人文科学系科目	論理学1	序論では伝統的論理学の由来、論理学の意義、ロゴスについて等、お話する予定です。内容としては、思考の根本原理、概念、判断、演繹推理の中の直接推理までを扱います。演繹推理の中の間接推理以降は秋学期に勉強します。	
		論理学2	演繹推理の中の間接推理、誤謬論、帰納推理、類比推理、探求の方法を扱います。間接推理は次のことを学びます。1. 定言三段論法、2. 仮言三段論法、3. 選言三段論法、4. 仮言選言三段論法 その他。誤謬論は、1. 形式的誤謬、2. 言語的誤謬、3. 資料的誤謬以上の三つを学びます。帰納推理、類比推理は以下のことを扱います。1. それぞれの推理はどのような推理なのか、2. 完全帰納推理と不完全帰納推理、探求の方法は1. 観察と実験、2. 記述と説明、3. 原因と結果、4. 因果の決定法、5. 探求方法の誤謬 その他に分けて学びます。	
		論理学3	「現代論理学」(=記号論理学)は、「人間の思考」の全体を貫く「仕組み」を厳密に方法論化した体系をなしており、あらゆる学問の根拠を支える「思考の原理」そのものについて反省的に捉える上で、重要な役割を果たす分野である。この「現代論理学」がどのような考え方の上で成立しているのかを「言葉」と「記号」という観点から解説する。	
		論理学4	「現代論理学」(=記号論理学)は、「人間の思考」の全体を貫く「仕組み」を厳密に方法論化した体系をなしており、あらゆる学問の根拠を支える「思考の原理」そのものについて反省的に捉える上で、重要な役割を果たす分野である。この「現代論理学」が成立することによって明らかとなってきた哲学的問題を概括する。	
		論理学5	所謂伝統的論理学の概念論、判断論、推理論の前半を取り上げます。図などを用いることによって、明解な説明を心がけます。時間があれば、記号論理学についてもその初歩を概説します。	
		論理学6	所謂伝統的論理学の推理論の後半を取り上げます。図などを用いることによって、明解な説明を心がけます。時間があれば、記号論理学についてもその初歩を概説します。	
		心理学1	心理学の基礎的分野のうち、知覚、学習、記憶、思考、言語の分野の研究内容を概観し、心理学の研究方法や知見を学び、人間行動の仕組みについての理解と洞察を深めることを目的とする。内容としては、心理学の歴史と分野、視覚系情報処理、感覚量と物理量、視空間の異方性、視覚の成立と発達、条件付けの2種、条件付けの応用、記憶の神経機構、脳内の情報検索の方法、思考の種類、創造的思考、KJ法、失語症、言語の神経機構、等を予定している。	
		心理学2	心理学の基礎的分野のうち、動機付け、知能、性格、社会の分野の研究内容を概観し、心理学の研究方法や知見を学び、人間行動の仕組みについての理解と洞察を深めることを目的とする。内容としては、動機づけと情動、視床下部と摂食動機、同性愛者の脳、内発的動機づけ、情動2要因理論、知能の測定、知能の発達、素質と環境、類型論と特性論、性格の測定、性格の発達とアタッチメント、社会的環境の認知と帰属理論、社会的動機づけ、説得と態度変化、等を予定している。	
		心理学3	生理心理学は、脳を始めとする中枢神経系の働きと人間の行動との関係を生理学的な手法を用いて探る心理学の領域である。この講義では最新の認知神経科学の知見を紹介しながら、高次な脳の機能がどのように心の働きを担っているかについての理解を深める。内容としては、脳の基本的仕組み、脳の機能の研究手法から、脳による認知的処理、脳の性差、左右差、脳機能障害といったトピックを扱い、どのような科学的アプローチにより研究が行われてきたか、これまでにどのようなことが明らかにされたのか解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 人文 科学 系科 目	心理学4	認知心理学は、人間の持つ複雑な認知システムを実験的手法によって明らかにすることを目的としている。この講義では、記憶、言語、イメージ、意思決定といった認知心理学の主要なトピックを概観し、どのような科学的アプローチによって研究が行われてきたか、これまでにどのようなことが明らかにされてきたかを解説する。またさまざまなデモンストラーションや簡単な実験を体験しながら、人間の認知的処理の性質について理解を深める。	
	心理学5	誕生から死まで、生涯発達心理学の観点から、人間の心についての理解を深めることを目標とし、人が生きるプロセスについてこれまでの研究で明らかになっているポイントを押さえながら、各発達段階の特徴を解説する。内容としては、乳児期の言葉と認識による心的世界の始まり、幼児期の情動の発生と自己意識の成長、児童期の対人関係の広がりや科学的思考の始まり、青年期のアイデンティティの模索や就職結婚、成人期の親になるための準備などである。	
	心理学6	人格はどのように形成されるのかについて学び、自分自身とのつきあいや他者とのつきあいなどにどう生かすかについて理解を深めることを目的とする。人格の理解の仕方、形成のされ方、査定の方法などについて事例を含めて理解する。内容としては、人格の形成と遺伝、類型論と特性論、親子関係や友人関係と人格形成、発達課題と人格形成、防衛機制、人格のアセスメント（質問紙法、投影法）、人格の障害、人格の変化などを予定している。	
	心理学7	社会心理学の各分野における研究例と理論を概観し、社会心理学がテーマとする心と社会との関係を学び、社会的存在としての人間理解を目指す。内容としては、社会的認知、印象形成、認知的不協和理論、帰属理論、成功失敗の原因帰属、社会的促進、社会的手抜き、キティジェノビーズ事件、傍観者効果、援助行動、対人魅力、説得的コミュニケーション、集団、同調、斉一性への圧力、服従、内集団びいき、囚人のジレンマ、などを予定している。	
	心理学8	臨床心理学は、1人1人の個性について理解し、適応に関する働きかけの臨床的知見を蓄積し体系化した学問である。授業での知識を青年期の課題にどう生かすかを含めて検討する。まず臨床心理学の定義及び歴史について概観し、臨床心理アセスメント、心理療法、地域援助などについて事例を交え理解を深める。内容としては、質問紙法、投影法、来談者中心療法、家族療法、交流分析、学校臨床、不登校、病院臨床、地域援助などを予定している。	
	教育学1	これからの教育について、学生自身が自らの考えをまとめるために、この講義は組織される。これまで学生は、学習者の立場で「教育」を捉えてきた。しかし、学習者の立場だけでは限界がある。これからの教育をどのようにしていったらいいかという課題に迫るため、様々な立場から教育について考え、学生自身の考えをまとめさせる。学校、教師、教育改革という3つのテーマを取り上げ、検討する。1学校は何をしているか、どのような課題があるか。2教師は何をしているか、どのような課題があるか。3国内外でどのような教育改革が行われているか、どのような課題があるか。	
	教育学2	人間にとって教育はなぜ必要か、あるいは必然かを再確認する。また近代公教育における教育と政治の関係を探究する。あわせて日本の戦前と戦後の教育を概観する。教育学は人間理解の学でもある。さまざまな事例を紹介しながら人間理解、児童・生徒理解を深めたい。教育はまた人間形成の営みである。その際、人間を越えた何者（究極的実在・宇宙的生命）かとの関係を問い、その意味を探究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	芸術学1	ヨーロッパの思想の重要な根幹のひとつがキリスト教である。本講義では毎回スライドを映写しながら、キリストの生涯を受胎告知、キリストの伝道中のさまざまな言動、キリストの逮捕、磔刑、復活、昇天とさまざまな画家の作品で順を追って見てゆくが、そのさいにその背後にあるヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによって、それらの作品とその背後にある考え方のより深い理解に到達することが本講義の目的である。また可能なかぎり、質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学2	ヨーロッパの思想の重要な根幹のひとつがキリスト教である。本講義では毎回スライドを映写しながら、使徒言行録、聖母伝、旧約聖書、諸聖人、最後の審判など、キリストの生涯をのぞくキリスト教美術のテーマをさまざまな画家の作品で見てゆくが、そのさいにその背後にあるヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによって、それらの作品とその背後にある考え方のより深い理解に到達することが本講義の目的である。また可能なかぎり、質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学3	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、古代ギリシア、古代ローマ、初期キリスト教、ビザンティン、初期中世、ロマネスク、ゴシックの時代の絵画および彫刻である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学4	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、15～16世紀のイタリア、ネーデルラント、ドイツの、一般的にルネサンスおよびマニエリスムと呼ばれる時代の作品である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学5	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、17～18世紀のイタリア、スペイン、ネーデルラント、フランスの一般的にバロックおよびロココと呼ばれている時代の作品である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学6	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、19～20世紀のロマン主義、印象派、世紀末芸術、キュビズム、表現主義、シュールレアリスムなどである。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 人文科学系科目	芸術学7	本講義では古代から現代にかけての西洋音楽の変遷を、歴史的・宗教的・政治的背景と関連づけながら、ジャンルごとに具体的な音楽作品を通して読み解いていく。古代から現代までの西洋音楽の変遷をたどることにより、各時代における音楽の社会的役割と位置づけを理解する能力を養う。具体的にあつかうのは「楽譜の発展」、「宗教曲」、「歌曲」である。時代的には古代、中世、ルネサンス・バロック、古典派、19世紀、世紀末から現代という区分けを行なう。	
	芸術学8	本講義では古代から現代にかけての西洋音楽の変遷を、歴史的・宗教的・政治的背景と関連づけながら、ジャンルごとに具体的な音楽作品を通して読み解いていく。古代から現代までの西洋音楽の変遷をたどることにより、各時代における音楽の社会的役割と位置づけを理解する能力を養う。具体的にあつかうのは「ピアノ曲」、「交響曲」、「オペラ」である。とりあげる作曲家はJ. S. バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、ブラームス、マーラー、ストラヴィンスキーなどである。	
	日本文学1	今日の小説はもとより、漫画やアニメにも見られる「物語」とは何かを考えていく。そして、「物語」を通して、古代人やわたしたちは「人間」について、どのように考えていたのかをとらえ、今も昔も変わらない「人間観」をすくいとっていく。具体的に『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』の抜粋本文を読んでいく。折々に近現代の小説や、漫画・アニメの物語性にも触れ、古代の物語が現在に生き、古代人も私たちと同じように、「人間」とは何か、「人はどう生きるのか」を考えていた様子をとらえていく。	
	日本文学2	現代的で、思わず笑ってしまうような愉快な古典文学の世界を体験する。しかし、そのなかから、今も昔も変わらない「常識」と「個性」のせめぎあいや、「社会」と「個人」の葛藤などについても考えていく。具体的に『源氏物語』若紫巻の抜粋本文と、王朝の奇談とも言われる『虫めづる姫君』（いずれも注釈・現代語訳付）を読んでいく。折々に近現代の小説や、漫画・アニメの物語性にも触れ、古代の物語が現在に生き、古代人も私たちと同じように、「人はどう生きるのか」を考えていた様子をとらえていく。	
	日本文学3	中世の歌舞劇である「能」の台本詞章を読み、作品を鑑賞する。また、能作品のよりどころとなった王朝や中世の物語や和歌にもふれつつ、ことば（詞章）とかたち（舞・所作）としらべ（音楽）の美として形づくられる、中世芸能の人間表現について考え学んでゆきたい。 春学期は女を主人公（シテ）とする作品をとりあげる。伊勢物語や源氏物語をめぐる恋の曲（〈井筒〉〈葵上〉など）、さらには母子再会を主題に持つ狂女物の世界（〈隅田川〉など）をめぐる、そこに形づくられた女の愛執のすがたとしらべを、ながめ聞きとりたい。 <input type="checkbox"/>	
日本文学4	中世の歌舞劇である「能」の台本詞章を読み、作品を鑑賞する。また、能作品のよりどころとなった王朝や中世の物語や和歌にもふれつつ、ことば（詞章）とかたち（舞・所作）としらべ（音楽）の美として形づくられる、中世芸能の人間表現について考え学んでゆく。 春学期に引き続き、女の執心を描く作品を取りあげる。伊勢物語を典拠とし、世阿弥の完成させた夢幻能様式の代表曲〈井筒〉。田楽能〈汐汲〉をもとに、古今集の和歌や源氏物語須磨巻を背景にした恋慕の曲〈松風〉などを取りあげる。 <input type="checkbox"/>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	日本文学5	文学者が「戦争」や「戦後」という《出来事》をどのように記憶し、言語化したかを丹念に読解する。アジア太平洋戦争敗戦から60年以上が経過した時間的隔たりにおいて、あるいは「戦争」がテレビの向う側の出来事ではないような感覚的隔たりにおいて、私たちはいかにして戦争の「記憶」を享受できる（できない）のだろうか。本来言語化不可能であるはずの出来事の「記憶」をそれでも言葉にした作家の営みの痕跡・集積（記録）を読みとっていきたい。	
	日本文学6	自己の作り上げた強烈で絢爛な虚構世界で戯れた谷崎潤一郎、および自らの自意識の「嘘」を糾弾しては、その泥沼の中でのたうちまわった太宰治をとりあげる。前半は谷崎潤一郎の「痴」＝「知」的な初期短篇作品を読む。後半は「真実」に翻弄されながら、「ウソ」と「ホントウ」の狭間を振幅し続けた太宰治の中期短篇作品を読む。文学作品における「虚構」と「真実」の境界が融合するような瞬間をとらえたい。	
	日本文学7	古典、近現代を問わず、日本語で書かれた文学作品を取り上げ、そこに描かれた人間（個人および集団）について掘り下げて考える。またそれらの人間を生み出した作家そのものをも凝視したい。そこから得られるものは、おそらくテキストと向き合う「わたし」および「わたしたち」についての省察である。春学期は近世（18世紀）の作家上田秋成が著した「雨月物語」を精読する。いくつかの作品を取り上げ、現代を生きる者にも無縁ではない人間存在の根源的な問題を受講者に提示したい。 □	
	日本文学8	古典、近現代を問わず、日本語で書かれた文学作品を取り上げ、そこに描かれた人間（個人および集団）について掘り下げて考える。またそれらの人間を生み出した作家そのものをも凝視したい。そこから得られるものは、おそらくテキストと向き合う「わたし」および「わたしたち」についての省察である。秋学期は芥川龍之介の初期作品を精読する。「鼻」「羅生門」などを取り上げ、二十歳前後の青年であった芥川龍之介が抱え込んでいた自意識にかかわる問題を受講者に提示したいと考えている □	
	ヨーロッパ言語圏の文学1	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「1」はテーマを「フランス語圏の文学」または「ロシア語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文学2	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「2」はテーマを「ドイツ語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文学4	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「4」はテーマを「英語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文学5	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「5」はテーマを「フランス語圏の文学」または「ロシア語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文学6	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「6」はテーマを「ドイツ語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文学7	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「7」はテーマを「スペイン語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	ヨーロッパ言語圏の文学8	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「8」はテーマを「英語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文学1	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「1」はテーマを「現代中国の文学」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文学2	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「2」はテーマを「現代中国の文学」とし、秋学期に開講する。	
	アジア言語圏の文学3	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「3」はテーマを「中国の古典文学」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文学4	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテキストなども参照しながら論じる。「4」はテーマを「中国の古典文学」とし、秋学期に開講する。	
	日本文化論1	明治以降の学校教育は、西洋の知識や技術を取り入れることを基本発想としているため、日本文化について総合的に捉え、理解することができなくなってしまっている。講義では柳田国男と折口信夫の民俗学を手がかりに、神とそのまじりの構造とその性格、歌や物語との関係など、現代とのつながりを意識しつつ近代以前の人々の心を探る。	
	日本文化論2	日本文化における宗教の影響のうち、秋学期は仏教にしぼって取り上げる。仏教というと古臭いもの、死んだ人のためのもの、というイメージとは逆に、西洋では仏教への関心が高まっている。実は私たちの仏教の知識の大半は、明治以降の近代的な捉え方に基づくもので、伝統的な理解とはまったく異なる。授業では伝統敵理解を踏まえ、空海や道元、親鸞といった高僧の教えを読み直し、その可能性を探る。	
	日本文化論3	この授業では、近代日本の「読書」と「教養」の歴史を扱う。「教養」が輝いた時代は遠く過ぎ去り、情報社会の到来によって読書のあり方も急速に変容しつつある。それでも大学には「教養科目」があり、「国際教養」が声高に謳われ、雑誌では頻繁に「教養特集」が組まれて「必読書」が掲げられる。一体なぜ人は「教養」を求め、振り回されるのであろうか。今日あるべき「教養」とは何であり、「読書」はそれにどう関わるのか。明治以降の「読書」と「教養」の実態と関係性を学び、時代による変化の意味を問いながら、現状を批判的に把握し、将来を模索することがこの授業の目的である。	
	日本文化論4	この授業では、近代日本における「自己」の思想史を扱う。明治維新後、西洋近代的な「自己の確立」を多くの知識人が希求した。独立した個人の「自己」を掘り下げれば「総てのものをうつす鏡」に到達できると信じられた時代もあった。それにも拘わらず敗戦の遠因に「自己の未確立」が挙げられ、その確立は戦後日本の課題として残された。 このような「自己の確立」の議論は、「戦後」と「近代」が遠ざかりつつある今日では古めかしい問いになり果てたであろうか。それともいまだに我々を呪縛する問いであり続けているのか。「自己」をめぐる言説と自己表象の諸形式を時系列に追いながら、議論を深めたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	日本文化論5	日本近代文学における《出版》をめぐる問題について、作品ができるまで／できてから、という二つの側面から考察する。 はじめに、筆やペンを走らせて原稿用紙の升目に文字を埋め込むという身体行為の痕跡から、作家の“肉筆”が複製可能な“活字”へと変質する際に生起する様々な《葛藤》や《戯れ》を看取する。次に、昭和初年代に大流行した廉価な全集本（いわゆる円本）ブームを例に挙げ、書物が“商品”として流通する際の出版社のメディア戦略に注目することで、文学（者）が大衆化していく様相を捉える。	
	日本文化論6	《文学》と《視覚性》が交錯する瞬間のインパクトに触れる。 文学作品の内容を読む前に我々が触れ、目にする統一的に配置された文字や美しい挿絵など書物を構成する【装幀】から、日本近代文学の変遷をたどる。次に、従来の言語表現を乗り越えようとしていた1920～30年代の文学者にとって《映像》という新たな表現媒体はいかなるものであったのかを探る。映像の持つ力に魅せられ、映画的手法を摂取した作家、実際に映画制作に携わった作家の言説を具体的に挙げながら考察する。	
	日本文化論7	日本文化の独自性と、異なる文化に根ざす者同士の共生の可能性についての知見を深めることを目標としつつ、そのために必要とされる研究方法論の獲得をめざして、グループによるテーマ研究を行う。授業は所定のテーマに関するグループ研究と全体ディスカッション、プレゼンテーションおよび履修者個々の論文作成を中心として行われる。いわゆる講義科目ではなく、ワークショップ的な内容となる。その過程で、授業担当者が文献調査の方法、論文作成技法、プレゼンテーションのスキル等について、適宜指導を行う。	
	日本文化論8	日本文化の独自性と、異なる文化に根ざす者同士の共生の可能性についての知見を深めることを目標としつつ、そのために必要とされる研究方法論の獲得をめざして、グループによるテーマ研究を行う。授業は所定のテーマに関するグループ研究と全体ディスカッション、プレゼンテーションおよび履修者個々の論文作成を中心として行われる。いわゆる講義科目ではなく、ワークショップ的な内容となる。その過程で、授業担当者が文献調査の方法、論文作成技法、プレゼンテーションのスキル等について、適宜指導を行う。	
	ヨーロッパ言語圏の文化1	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「1」はテーマを「フランス語圏」あるいは「ロシア語圏」とし、春学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文化2	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「2」はテーマを「ドイツ語圏」とし、秋学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文化4	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「4」はテーマを「スペイン語圏」とし、春学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文化5	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「5」はテーマを「フランス語圏」あるいは「ロシア語圏」とし、秋学期に開講する。	
	ヨーロッパ言語圏の文化6	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「6」はテーマを「ドイツ語圏」あるいは「英語圏」とし、秋学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化1	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「1」はテーマを「中国語圏」とし、春学期に開講する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 人文科学系科目	アジア言語圏の文化2	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「2」はテーマを「中国語圏」とし、秋学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化3	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「3」はテーマを「韓国・朝鮮語圏」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化4	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「4」はテーマを「韓国・朝鮮語圏」とし、秋学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化5	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「5」はテーマを「イスラム圏」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化6	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「6」はテーマを「イスラム圏」とし、秋学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化7	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「7」はテーマを「タイ」とし、春学期に開講する。	
	アジア言語圏の文化8	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理・歴史・社会・日本とのかかわりなど多面的に論じる。「8」はテーマを「タイ」とし、秋学期に開講する。	
社会科学系科目	政治学1	本講義では、政治・政治学についての基礎的な概念を理解するとともに、市民はどのようにして政治に関わっているのかを検討する。本講義の目標は、政治についての基礎的な理解を得るのに加えて、今後様々に政治との関わりのある生活をする受講者が政治についての多様な視点を獲得することを目標とする。具体的には国会、内閣、官僚、政党制、選挙制度等の仕組み、世論、政治意識等の項目を取り上げて概説する。また講義では、政治に関する問いを設定し、問いについての情報や視点を紹介しつつ、教員と学生がともに答え・対応策を探すことも行う。	
	政治学2	本講義では、市民が政治に参加する手段として、最も身近な選挙・投票を中心に上げるとともに、政治に関するトピックも取り上げて検討する。本講義の目標は、政治参加を通して、市民はいかに政治に関わる存在であるかについて理解を深めることにある。また政治に関わるトピックとして、たとえば、なぜ政府は必要か、政府は何をすべきか、直接民主主義は議会制民主主義よりもよいのか、自衛隊は廃止か存続すべきか、日本が鯨を取ることになぜ反対する国や人がいるのか等があげられる。	
	社会学1	社会理論に関する入門的講義科目である。社会学の古典に関する基礎知識を得ること、および、それらを参考に自ら社会学的な思考を組み立てることを目標とする。社会学の古典的な理論について、問いの立て方、対象の設定、考察に関するデータの収集、分析の方法などを比較しながら考察する。それを通して、社会学の成り立ちや学問としての特徴を学ぶと同時に、現代社会において我々が問題に直面した時、どのように考えていくか、社会理論の出発点を探る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 社会科学系科目	社会学2	社会学理論に関する入門的講義科目である。近代から現代にかけて、社会学理論の展開を学びつつ、学説や分析の発展について理解することを目標とする。他分野と同様、社会学においても学説史や論争の上に理論を展開させてきた経緯がある。具体的な理論、社会政策、社会問題などを取り上げながら、論争や分析の過程、現実社会と理論的一般化の関係、「社会について考える人々」についてさらに考えることの意味や方法などを考究し、社会学的思考の力を高めていく。	
	社会学3	社会学の基本的な論点の一つである集団や相互行為についての基礎的な知識を学習し、その上で実際の現象を社会学的に考察する講義科目である。具体的な集団やネットワークもしくは行動などについて、社会的な視点から分析する力をつけることを目標とする。日常的な場面、やり取り、人間関係などを題材に、そこに込められた意味や機能などを読み解いていく。なお、授業内容の関係で、ジェンダー論、差別論などの具体的な社会問題にも言及する。	
	社会学4	社会集団やネットワークあるいはコミュニティなどについて、現在の諸問題を参考に考察する講義科目である。現代社会において、組織、ネットワーク、コミュニティなどが持つ意味について理解するとともに、将来に向けてどのようなコミュニティなどが求められるのか、自ら考察できるようにすることを目標とする。関連する学術用語を確認しつつ、理論的な歴史を概観しつつ、具体的なコミュニティやネットワークなどに関する多様な視点を確認し、実践において何が求められてきたのかを考察する。	
	社会学5	グローバルな社会から、身近な範囲まで、広く「地域」に焦点をあてた社会学的考察に関する講義科目である。現代社会の中で「われわれ」の地域がどのように形成されるか、また、その中で辺境や境界がどのように生まれ、どのような意味を持たされていくか、などについて理解を広げることが目標とする。他の社会について学ぶことは自己の見直しにつながるが、現代社会という観点から、近代化、発展、合理性などの概念を再考しつつ、地域や差異についての理解を深める。	
	社会学6	地域や民族などの観点から、現代社会における「他」の関係について考察することを目標とする講義科目である。近代化の過程で「未開」がつけられていくように、「他」の社会に関する考察は、厳しい自己相対化の作業を迫るし、言語や基本的な概念についても再確認を求められることになる。それについて、具体的な事例あるいは理論的考察を重ねることで、継続的に「われわれ」の社会について自省し、新たな問いの創造につなげるための発見と練習とをめざす。	
	社会学7	文化、メディア、コミュニケーションについて、その成り立ちと意味を考察する講義科目である。私たち人間は、さまざまな人間関係の中で成長してきた。その中でどのように他者とかかわってきたのかを学び、それについて社会学的に考察し、新たな実践につなげることを目標とする。家族、学校、宗教、文化等、広範な社会の中から具体的なコミュニケーションの場面を選び、それについて複合的に考察する方法を学ぶ。メディア分析、統計データ利用などの方法にもかかわる。	
	社会学8	文化・メディア・表象に関する社会学の講義科目である。他者との関係やコミュニケーションのあり方の多様性について、具体的な事例を通して学ぶとともに、それについて能動的に考察、議論できる力を身につけることを目標とする。たとえば、家族というものについて、私たちはかなり共通のイメージを持ちえるが、実際には多様な家族のかたちがありえる。それらについて、各種メディア、社会学の古典的理論など広範な論拠によりつつ考察し、また、議論などを通して、人間関係一般にもかかわるような社会学的視点を習得していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 社会科学系科目	社会福祉学1	この授業では、社会福祉を考える時に必要な基本的な視点を提供していきます。こうした視点を身につければ社会福祉の全体像が次第に見えてくるはずですが、授業では、社会福祉の存在理由、歴史、対象、基本構造等を学んでいきます。社会福祉とは、私たちの生活のあらゆる場面に関係する事柄を対象としており、扱う内容はきわめて多岐にわたります。社会福祉に対するみなさんのイメージからスタートして、様々な視点から社会福祉を見ていくことで、その全体像を把握することを目指します。	
	社会福祉学2	社会福祉にはその対象とされる数多くの「問題」が存在します。授業では、昨今注目を集めている論点を毎回一つずつ取り上げます。この授業では「社会福祉学1」で学んだ「社会福祉を考える際の視点」を使い、現在直面している「問題」について考えていきます。こうした「問題」は、それぞれの人のおかれている立場や考え方によって、捉え方が全く違ってきます。多数の「選択肢」を考えられるようになることで、社会福祉をより深く、より批判的に捉えられるようになることを目指します。	
	経済学1	春学期の経済学1では、いわゆるミクロ経済学の基礎について、消費者の需要行動および市場における交換の理論を中心に学ぶ。高校1年次で学習する程度の数式をもちいるため、初めは少し抽象的で難しく感じられるかもしれないが、これらの題材の中に現代の経済学の基本的な考え方が集約されているといっても過言ではない。厳選した少量の内容を丁寧に進めていくので、頑張っけて着いてきてもらいたい。	
	経済学2	他方、秋学期の経済学2では、いわゆるマクロ経済学の基礎について、GDPの概念とその決定のメカニズムを中心に学ぶ。こちらの方は、現実の経済問題に直結する題材である。講義では、高校1年生で習う程度のグラフと数式を用いるが、春学期よりも数学的負担は少ないので、恐れる必要はない。それよりも、毎日のニュース及び新聞などで報じられている経済問題に日ごろから関心をもってもらいたい。講義でも時事的な話題に頻繁に触れる予定である。	
	統計学1	「統計学の基礎」をテーマとし、統計学2とあわせて標準的な入門コースを講義する。統計学1では、主として記述的方法を説明する。目標とする内容は以下の通り。1. 度数分布、分布のグラフ化、基本統計量、2. データの標準化、平均寿命、ジニ係数など基本統計量に関連する諸概念、3. 分割表とその分析とくに分割表の独立性の検定、4. 散布図、2次元分布、条件付分布などの数量変数間の関係に関わる諸概念、5. 相関係数とその意味、6. 単回帰モデルと最小2乗法。	
	統計学2	「統計学の基礎」をテーマとし、「推測」に関わる内容を中心に講義する。講義内容は以下の通り。確率の基礎概念、条件付確率とベイズの規則、確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、大数法則、中心極限定理、正規分布、標本抽出、点推定、区間推定、仮説検定、比率・平均の推定・検定、比率・平均の差の検定、適合度検定。なお、統計学1、2をあわせて標準入門コースを構成するが、両者の内容はある程度独立しており、どちらか一方だけ履修することもできる。	
	統計学3	「データの基礎」をテーマとし、統計学4とあわせて履修することを薦めている。講義はすべて実習で、「R」を用いて、実際のデータ解析を行いながら、統計学の基礎知識およびコンピュータによるデータ解析の技術を習得させることを目標とする。統計学の内容は、統計学1のそれに準拠し、これに加えてできるだけ現実的な例題を扱わせるため、重回帰モデルの解析なども学ばせる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D 群	社会科学系科目	統計学4	「データの基礎」をテーマとし、講義はすべて実習で、実際のデータ解析を行いながら、統計学の基礎知識およびコンピュータによるデータ解析の技術を習得させることを目標とする。統計学の内容は、統計学2のそれに準拠するが、主としてモンテカルロ法による実験を通して、統計データに基づく推測の方法および考え方を学習させる。統計学3（春学期）を履修するなど、「R」の操作を習得していることを前提にする。	
		歴史学1	歴史を学ぶということとは、年号を暗記したり、人名・地名を記憶したりすることではない。歴史を学ぶということとは、どう生きるのかという問題に向き合うことである。生きてゆくために我々は様々な決断を迫られるが、どの立場、どういった視点に立つかによって、自分自身や他者、周りの出来事の見え方は大きく変わってくる。歴史学とは、そうした我々の足元を見つめ直すきっかけを与えてくれる学問のはずである。歴史・歴史観の反映である様々な立場・視点の存在を知り、自身の「生き方」を考える一助としたい。	
		歴史学2	歴史学は「自己認識の学だ」とも言われる。自己認識の学である以上、人は古代史や中世史、あるいは外国史を学ぶ場合でさえ、自身が生きている「現代史」という時代に対して全く無関心であることは、事実上できないはずである。本講義において、「歴史学と現代社会」の関係を問うことの理由も、正にこの点に存するのである。自身が生きている現代という時代の構造を考えてみたいと思う。	
		歴史学3	19世紀中盤から第二次世界大戦までの近代東アジア世界について、日本と中国・朝鮮の関係史を中心に概説する。国家レベルの政治史・外交史と同時に、それ以前とは比べ物にならないほどに増大した東アジアにおける「人の移動」に注目し、近代東アジアと日本の関係史を多角的に考察する。歴史的観点から東アジアと日本の関係を捉えること、また、国家レベルのみならず「地域」や「民衆」の視点から歴史を把握する視点を養うことを目標とする。	
		歴史学4	第二次世界大戦後の東アジアと日本の関係史を概説する。特に第二次世界大戦の戦後処理、東アジアにおける「冷戦」の成立に焦点を当てて、東アジアの「現代」とは何かを考察する。 歴史的観点から東アジアと日本の関係を捉えること、また、国家レベルのみならず「地域」や「民衆」の視点から歴史を把握する視点を養うことを目標とする。	
		歴史学5	最初に日本と西洋の科学思想史全般について話したあと、共同して一書を読み進めていくことを通じて、世界史的にみた日本史の流れを解説する。 歴史哲学の手法を通して、日本文化の特質をつかむことも目指す。	
		歴史学6	最初に歴史の意義や歴史家の存在全般について話したあと、共同で一書を読み進めて、江戸時代の制度、文化、生活を理解していく。 江戸時代の日本人の生き方をみていくことを通じて、日本の伝統的な「粹（いき）」などと呼ばれる生き方の良さを再発見する。	
		歴史学7	歴史の叙述が変化することをふまえ、講義では、歴史叙述に変化を促してきた、近世・近代以降の研究の視点・方法・潮流を主に西洋史の領域において検討する。また、西洋の近現代史がどのように描かれてきたのかを概観する。	
		歴史学8	本講義では、18世紀（初期近代）のイギリス社会を、「商業・都市・消費」という観点から概観する。これをつうじて、従来、世界史のなかでも重要な位置を占め、テーマを提供してきた西洋近代の歴史について再考する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群	社会科学系科目		
	地理学1	地理学は、人と具体的な土地との関わりや、そこにおいて生起する諸問題について、様々なスケールと多角的な視点から研究する学問である。本講義は、おもに近代都市の形成に焦点をあて、地理学の視点を学修する。日本並びに欧米における主要な都市を取り上げ、都市の形成史、近代化、都市が抱える経済・社会的問題、人と物の流れ、都市の建造環境など、都市を取り巻く物理的・社会的環境について考察を加える。内容に即した映像を交えながら講義を行う。	
	地理学2	人文地理学が問題とする社会的に形成される空間を、特に福祉の観点から考察を加える。このことは、社会的に形成される空間とは何か、その空間にどのような福祉の問題が存在しているのかを考えることでもある。具体的な事例として、刑務所や団地、寄せ場などの特定の施設や地域、都市を取り上げ、それらの沿革や取り巻く社会状況、生起する諸問題を空間の形成過程において検討し、福祉の問題を考察していく。毎回、内容に即した映像を交えて講義を行う。	
	地理学3	世界システムとは世界経済を多元的国家システムとしてとらえる見方である。その世界システムがいかにかに形成されてきたのかについて理解した上で、世界がいかにかに結び付きあって相互に関係しあっているのか、その結果どのような状況が現在あるのか、具体的な事例を通して検討していく。すなわち、世界の諸地域が、今日世界システムにおいてどのように位置づけられ、世界全体で進められてきた近代化の過程をいかにかに経験してきたのかを、主に植民地時代から現代にかけて歴史的に検討する。	
	地理学4	都市とは何か、その成立過程から経済構造、社会構造を学んでから、個別具体的な事例から都市の具体的なすがたやその機能を検討する。具体例として、ヨーロッパ、アメリカなどの先進工業国の摩天楼がそびえる都市に加えて、近年では発展が目覚ましいアジア等の旧植民地や中近東における巨大都市。日本の都市も取り上げる。これらの都市に着目して、都市に求められてきた機能や役割の変化から、世界がいかにかに再編されてきたのか、グローバル化がいかにかに展開してきたのか、考えていきたい。	
	地理学5	日本の風土に根ざした伝統的な宗教文化を、講義での知識とレポートの作成を通じて理解することを目的とする。まず、日本の宗教文化を生み出した日本の自然環境や歴史・文化的環境を概観する。次に、実際に日本の風土でどのような宗教文化が展開し、変容し、継承されてきたのかについて検討する。具体的事例として、宗教行事や暦、祭り、聖地への旅、現代における伝統的宗教活動などを取りあげ、それが今日に至るまでいかにかに継承されてきたのかについて考えていきたい。	
	地理学6	都市やグローバリゼーションに関する様々な研究アプローチを取り上げながら、先進地域と発展途上地域双方における都市空間が、資本主義社会の歴史的諸局面においてどのように捉えられてきたのかを考察する。まず、近代における都市の発達を概観してから、ジェントリフィケーション、労働移動、労働力の女性化、都市貧困、国際移民などの都市に関連する諸現象を取り上げ、これらを捉える地理学的視角をグローバルな歴史的経済過程と関連づけながら学んでいく。授業の中では、主に日本とフィリピンの事例を取り上げる予定である。	
文化人類学1	「文化人類学」は、地球上のさまざまな「民族」や「文化」の比較を通じて、「人間」を総合的に理解しようとする学問である。本講義では、文化人類学の基礎的な考え方を、世界各地のさまざまな習慣やライフスタイルを具体的に取りあげながら学習し、「国際社会の一員にふさわしい」教養と素養の習得を目指す。春学期は、文化人類学の基礎的な用語や理論を学ぶ。講義の前半では、文化人類学のキーワードである「文化」についての基本的な考え方を紹介する。講義の後半では、家族・贈与・結婚・祭りなどの身近な題材をとりあげて、「社会」（特に「人と人をつなぐ」装置）についての基本理論を学習する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 社会科学系科目	文化人類学2	「文化人類学」は、地球上のさまざまな「民族」や「文化」の比較を通じて、「人間」を総合的に理解しようとする学問である。本講義では、文化人類学の基礎的な考え方を、世界各地のさまざまな習慣やライフスタイルを具体的に引き取りながら学習し、「国際社会の一員にふさわしい」教養と素養の習得を目指す。秋学期は、「未開社会」「伝統社会」の研究として発展してきた文化人類学が、近年、「文明社会」「近代社会」の問題にどのように取り組んでいるのかを学ぶ。講義では、文明の衝突、宗教、貧困、開発、医療、癒しなどの問題を、具体的な事例を通じて紹介し、それらに対する文化人類学的なアプローチを学ぶ。	
	社会科学概論1	古代ギリシャ社会における社会思想の展開を紀元前五世紀の初め頃から次の世紀の初頭のソクラテスの死に至るまでの期間に重点を置いて扱う。理解のためには歴史的背景に関する知識が重要なので、まずそれから始め、さらにギリシャ人の基本的倫理観について知ってもらうためにギリシャ悲劇のような文芸作品にも触れ、最終的にソフィストたちとソクラテスの社会思想を対比させながら話を進める。この時間では古代ギリシャ社会において出現した、様々な社会思想ないし倫理学がどのような歴史的・社会的背景の下に生まれ、そしてそこで生じた様々な社会哲学的理論が後世（特に近代社会）にどのような影響を与えているのかを講じていきたい。	
	社会科学概論2	実際のところ、プラトンの生涯は現実政治に翻弄され続けたものだった。理想主義の代名詞のように評されることの多い彼の思想も、実はこういった現実との格闘なしには生まれ得なかったものであり、彼がひたすら正義を求めてやまなかったのもこのことと無関係ではない。講義ではこういった歴史的・社会的背景をも明らかにしつつプラトンの社会思想を語っていきたい。西洋の古典古代世界（古代ギリシャ・ローマ世界）を代表する哲学者の一人であるプラトンの思想・哲学は、現在に至るまでプラトニズムと呼ばれる形で、道徳、法律、宗教、科学的思考といった様々な方面に強い影響を与えているが、この時間では特に彼の社会哲学及び道徳哲学的側面に注目し、人が正しく生きるべき理由とそのために必要な社会のあり方に関する彼の思想を学んでいく。	
	社会科学概論3	ホブズ、ロック、ルソーといった名前は高校の社会科の教科書でもなじみかと思われるが、この時間では彼らがどのような歴史的状況の中で、どのようなやり方で独自の思想を形成していったかを「社会契約説の発生と衰退」という思想的視点から具体的に説明していこうと考える。西洋近代、特に十七世紀から十八世紀において一世を風靡したのみならず、現代においても人々の社会的共生を考える際には政治思想としてなお重大な意味を持つ「社会契約説」の概念を知るため、その発生から衰退までの期間における主要な論者たちの思想を比較しつつ学んでゆきたい。	
	社会科学概論4	一般に正反対の立場とみなされるカント哲学と功利主義には意外と共通する側面がある。この時間では両者の違いだけでなく、この共通する面にも目を向けながら話をしていきたい。なお講義の最後の方で、テロリズムに対してこれらの二種類の哲学はどう対処するのかを解説することで、両者の相違点と共通点に対する理解を深めたいと考えている。ヨーロッパ近代における重要な道徳及び社会思想の源泉であり、現代においても英米の道徳哲学では主流思想の一つである功利主義の思想を、それとしばしば対比される形で述べられるカントの道徳哲学と比較しながら学んでもらいたいと思っている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D 群 自然 科学 系科 目	数学1	『数学1』は、高校時代に数学をあまり履修してこなかった学生や、今後数学をあまり使わない分野に進む学生を対象として、数学を理解してもらう講義である。整数論から題材を採ったり、身近な現象から確率の考え方の初歩を教えたりしている。年度や担当教員によって、内容が多少変わりうる科目である。 現在では、日常に潜む数理を題材に、数学の論理・論法の初歩を学ぶことを目指している。数学と親しみ、数学を楽しむことに重点を置き、より広い視点で見た数学の全体像や数学的な考え方を学ぶ。	
	数学2	初等整数論を通して数学的思考法を学ぶ。各回にテーマを設け、これに沿う問題を示しながら数学的思考力を身につける。『数学1』の続編であるが、身近な生活に溢れている数学的事象をとりあげ、数学の楽しさ、面白さを伝えることを目的とする点では、『数学1』と同じ。 この講義では、整数の諸性質を中心に素数の性質、合同式など、一番単純で平易な「整除の理論」を中心とし、それに日常生活への応用を付けながら、数学的思考について学ぶ。	
	数学3	(線型代数学 I) 現代の数学にとって必要不可欠な素養である「線型代数学」の初歩を講義する。 行列の理論とは、数を使って組み立ててきた数学を「行列」と呼ばれる新しい対象に対して組み立ててみようとする理論である。前期に当たる『数学3』では、行列の四則計算を主に学ぶ。目標は、行列の四則演算(特に掛算と割算)が自由にできるようになることである。また行列には、行列式と呼ばれる量があって、これが色々な場面で重要な働きをする。この意味や計算方法を覚えるのも重要な内容である。	
	数学4	(線型代数学 II) 『数学3』で学習した行列の基本的な計算方法——四則演算・行列式の計算など——の応用として、連立一次方程式の一般的解法を学習する。連立方程式は、歴史的には行列の理論を生み出す母体になった問題である。このため、行列の理論の応用としては、最も適切な応用例になっている。 連立一次方程式を理論的に考えていくためには、ベクトルの一次独立・一次従属といった新しい考え方が必要になる。また、行列の性格を知る上で重要な行列の階数(ランク)などもここで講義する。	
	数学5	(微分積分学 I) 現代の数学にとって必要不可欠な素養である、微分積分学の基礎を講義する。この講義では微分の方に重点を置き、積分は“微分の逆演算”として考え、あまり詳しくは取り扱わない。微分は接線を引くために工夫された計算方法で、前期はこうした歴史的発展に合わせて講義を進める。重要な特殊関数——三角関数・指数関数・対数関数——といったものや、これらを合成して得られる特殊関数の微分が自由にできるようになることが目標である。	
	数学6	(微分積分学 II) 『数学5』で学んだ「特殊関数の微分」を材料として、微分法を理論的に使って関数の性質を知る方法について講義する。 この講義は内容を大きく二つに分け、前半は「関数のTaylor展開」を中心に進める。後半は「複素関数をどのように理解するか」をテーマとする。Taylor展開は歴史的に見ても重要な理論で、これによって人間の“関数というものの見方”が大きく変わったのである。その代表的な例が、指数関数と三角関数を結びつけた Euler の定理で、これが理解できればこの講義の目的は達せられたといえるだろう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 自然科学系科目	物理学1	身近な日常生活に表れる様々な自然現象を例にとりながら、物理の基礎知識について講義します。屈折、反射、回折、干渉といった波の性質が、日常生活のどのような側面に現れているか考えます。また、光と色の関係、目に見えない光について学びます。固体、液体、気体といった物質の相、熱と温度の概念について勉強します。日常生活で使われている機械、道具などに、物理の基礎知識がどのように応用されているか、技術と科学の関係についてもお話する予定です。	
	物理学2	我々は物理法則と地球からの観測、観察をどのように組み合わせて、星や宇宙について統一的な理論を構築してきたのかという点を中心に講義します。星の性質、星の分類といった静的なところからはじめて、星の一生という星の動的な側面を勉強します。銀河、銀河集団といった宇宙の大規模構造と宇宙原理の関係、膨張宇宙と放射背景の発見、素粒子論とビッグバン理論を勉強し、ミクロな世界とマクロな世界が密接に関係していることを学びます。	
	物理学3	距離や時間は誰から見ても同じ絶対的なものではなく、見る人の動いている速さによる相対的なものです。たとえば、一万光年の星は光の速さで一万年の距離にあるということだが、これはあくまでも地球から見てということで、その星に向かって光速 c に近い速さで進んでいるロケットから見ると短くなります。短くなって一光年ということになると、一年ちょっとで行けてしまうのですが、この一年ちょっとというのはロケット内の時計で計った時間であり、地球の時間は一万年以上過ぎているわけです。こうして時間も相対的なのだ。	
	物理学4	光は波としても振舞う(電磁波)が、粒子(光子)としても振舞う。電子も粒子としても波としても振舞う。このことは量子力学での状態の遷移によって説明される。量子力学は直接的には原子・分子・原子核・素粒子といった超小さいものの世界の出来事を扱うものであるが、大きな物も小さなものが集まっているもので、その振る舞いは量子力学で説明される。原子のまわりをまわっている電子の波の状態から周期表にあるいろいろな元素の性質も説明できる。	
	物理学5	この講義では、身の回りにある物や自然現象がどのように物理学と深く関わっているのかについて学習します。例えば、楽器の音色がどのようにして生じるのか、カミナリはどうやって発生するのか、夕焼けはなぜ赤いか、液晶テレビはどうやって映像を表示しているか、などなじみの深い物事・疑問を科学的な視点からもう一度考えていきます。また、物理学史としての先人の偉業を学ぶ事で、科学的な思考方法を理解し、現代社会を生きるために必要不可欠な科学的知識と素養を身につけます。	
	物理学6	我々が日常とても体験できないような世界の事が、科学技術の発展と実験や観測の工夫によって徐々に明らかになってきました。この講義ではミクロの世界や宇宙の事に関して現代の物理学でどこまでわかってきたのか、どのような事がまだわからないのかについて学習します。また、普段は気にする事も無いミクロの世界の現象から、広大な宇宙全体の成り立ちについて考えをめぐらせることによって、論理的思考によって裏付けられた科学的な世界観を理解し、大学生としてふさわしい教養を身につけます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 自然科学系科目	化学1	テーマは「化学の基礎」。化学は「物質の科学」であり、物質が原子を最小構成要素として、その組み合わせにより成立しているという、化学的な物質観を学習する。本科目では、まず原子の個性（元素の違い）を知り、化学結合の原動力として働く電子の役割について理解する。基礎的な事柄として、「物質の構造」のほか、「物質の状態（物質の三態）」や「物質の反応」などを主なテーマとして展開していく。私たちは衣食住のあらゆる場面において、化学（物質）と深く関わりあいながら生活しており、学生がそのことに気づき、また理解することによって、より化学（物質）に対する興味関心を高めることを本科目の目標とする。	
	化学2	テーマは「生活の化学」。本科目では、生活に関連する様々な物質を正しく理解するために必要となる基礎をまず学習し、その後、身のまわりにある具体的な物質を取り上げて解説していく。我々はお腹がすいたら食事をし、また、病気になったら薬を飲んだりするが、食物も薬物もすべて「物質」であり、私たちは日々様々な物質に囲まれ、助けられながら生活している。学生がそのことに気づき、そして日常生活に用いられている物質が化学的にどのような構成をとっているのかを知ることにより、結果として、いのちと暮らしを守るために役立てられるようになることを本科目の目標とする。	
	化学3	テーマは「環境の化学」。本科目では、まず地球環境を、気体である大気、液体である水、固体である土壌に分け、それぞれの化学的側面を学習する。次いで、人間により環境中に放出されて人間生活を脅かす存在になってしまった、二酸化炭素・フロン・塩素系農薬などの炭素化合物、水銀・カドミウム・放射性元素などの重金属類の特性と有害性について触れていく。私達を取り巻く環境に存在する、種々の天然物質と人間の営みにより生み出される人工物質とを理解し、地球環境の変化を正しく理解する力を身に付けることを目標とする。	
	化学4	テーマは「生命の化学」。本科目では、生命体の基本構成物質である種々の炭素化合物（有機化合物）について学習する。はじめに、有機および高分子化学の基礎を学び、次いで、生命体の具体的な構成成分である糖質・蛋白質・脂質について理解し、その後、遺伝子の構造と機能や、生体内の物質の流れ（代謝）と生体機能維持物質（ホルモンとビタミン）について学習する。私達人間を含めあらゆる生物を構成している基本的な物質について、その化学的構造と機能を理解することを目標とする。	
	化学5	我々の快適な生活を支えてくれるエネルギーが、どのような物質から、どのようにして生み出されるのかについて学習する。まず化石燃料（石炭、石油、天然ガス）について考え、次いで放射性核分裂物質を用いる原子力について学び、最後にこれら二種の抱える問題点を克服するために利用が進められている代替エネルギー（電池、バイオマス）について解説する。	
	化学6	日本経済を根底で支えている、化学工業について学ぶ。始めに無機工業化学を、次に有機工業化学を、最後に農芸化学について学ぶ。化学工業において、どのような物質がいかにして作られ、どのような利用がなされているか理解することを目標とする。	
	生物学1	「ヒトを含めた動物への科学的理解を深めること」が本科目のテーマです。特に、多様な種がもつ行動や生態、社会の進化的意味を探ります。生物学の基礎となる「進化と遺伝」について解説した後、動物行動学（ethology）や行動生態学（behavioural ecology）の考え方を学びます。さまざまな種の具体的な映像やデータを示すことにより自然への関心を高め、認識を深めます。授業全体を通して、データの読み方や解釈の仕方についても重点をおき、自分で考える習慣を身につけます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 自然科学系科目	生物学2	テーマは「進化」。46億年もの長い時間をかけて、現在さまざまな生物が共存する地球。声なきものの命にも目をやり、気持ちを寄せ、現在に至る生物の歴史を学んでいきます。本科目では、実物や画像などの教材をたくさん使い、普段見ることのない生物についても知識を増やしていきます。新聞記事等の身近な話題にも目をやります。各生物の特徴をとらえながら、その起源や要因について考え、どのような歴史を経て現在に至ったのかについて、ワークシートを活用することにより理解を深めます。	
	生物学3	「ヒトを含めた動物への科学的理解を深めること」が本科目のテーマです。特に、多様な種がもつ行動や生態、社会の進化的意味を探ります。行動生態学の考えにもとづき、雄と雌の関係、親と子の関係、仲間や敵との関係等について論じます。また、利己的遺伝子という観点から個体の死や他種の操作といった現象についても考えます。さまざまな種の具体的な映像やデータを示すことにより自然への関心を高め、認識を深めます。授業全体を通して、データの読み方や解釈の仕方についても重点をおき、自分で考える習慣を身につけます。	
	生物学4	テーマは「ゲノムサイエンス」。あなた自身を形作る生命の設計図「ゲノム」。今、生命を扱う技術は「ゲノム」レベルで行われています。本科目では「ゲノム」を通して命をとらえる視点を養い、ゲノムサイエンスを応用した技術についても思考を深めていきます。実物や画像などの教材をたくさん用いた基礎知識の解説に加え、科学雑誌や新聞記事等から厳選した身近な話題を取り上げ、ワークシートを活用することにより効果的に知識を身につけていきます。	
	生物学5	テーマは「染色体を理解する」。遺伝現象の真の理解のために、「染色体」をキーワードに、親から子への染色体を介しての遺伝子の伝達機構について、基礎的な染色体の構造や体細胞分裂、減数分裂時の遺伝子の分配機構を理解することにより、有性生殖による子孫がすべて「世界に一つだけの花」になることを学びます。さらに、身近な問題として「染色体異常」を取り上げ、減数分裂時のわずかな失敗（事故）がダウン症（候群）などの染色体異常を引き起こす要因を解説します。	
	生物学6	テーマは「ヒトの体」です。知っているようで知らない自分の体。身近な現象から体のしくみについて学びます。生物学の基本的な知識を習得し、興味と理解を深めることが本科目の目的です。近年の医療やバイオテクノロジーの進歩は私たちに大きな影響を与えています。生命のしくみを理解することは今や社会生活において欠かすことができません。身の回りの生命現象に興味を抱き、科学的な思考を身につけていきます。	
	生物学7	種を維持し、生命を連続させるしくみはすべての生物にみられる特徴です。連続する生命の中で多様性が生じ、複雑な生物の世界が作られています。本科目では、「生物の進化と多様性」をテーマに遺伝や進化のしくみを学びます。生物学の基本的な知識を習得し、興味と理解を深めることが本科目の目的です。近年、生命科学の技術が急速に進歩し、社会に及ぼす影響が大きくなっています。また、生命と環境の関わりも大いに議論されています。生物学の発展を正しく理解するとともに、生命のあり方を考えていきます。	
	生命科学1	テーマは「生化学から見た生命現象」。まず、生物において共通にみられる細胞の主要構成成分である水、タンパク質、核酸、糖類、脂質についての知識を身につけた上で、細胞内で見られる物質代謝やエネルギー代謝を食物とあわせて解説する。これにより生命科学の研究手法や考え方を説明したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 自然科学系科目	生命科学2	この講義は、生体に多く見られる生理現象の内、中心的な役割を果たしている血液の作用機序・生命の誕生に関わる周辺の現象を基礎から応用まで紹介・個体の形質を特徴づける遺伝子およびその遺伝子の次世代への伝達方法等の基本を紹介する。また、生命観・倫理観を念頭に置き、免疫反応（STD・HIV、臓器移植）、生殖補助技術（不妊・クローン・ES細胞・iPS細胞）、遺伝子組換え（食品・医療・改良開発）など先端技術（バイオテクノロジー）がもたらすものの影響について学生と共に考えていく。	
	情報科学1	コンピュータを用いた情報処理の概論について講義を行う。情報処理とは、人間の知的活動そのものであるが、現代の情報量をうまくまとめて必要な時に取り出して利用するにはコンピュータの使用が不可欠である。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。コンピュータを用いた情報処理の仕組みをデータの構造、ハードウェアの仕組み、ソフトウェアの仕組みから説明する。コンピュータの使用形態であるインターネットについてはその仕組み、利点、欠点を取り上げて講義を行う。	
	情報科学2	コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアからなる。コンピュータを情報処理の道具として、効率良く使用するためには、ソフトウェアの理解が必要である。ソフトウェアの理解を深めるために、プログラミングの基礎について講義を行う。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。プログラムの基本的仕組みは、（1）データを出力する、（2）データを加工する、（3）データを入力する、（4）場合分けの処理、（5）繰り返しの処理の5つである。その5つについて、実際のプログラムを作成しながら説明する。	
	情報科学3	情報科学の主要な知識全般を春学期の『情報科学3』および秋学期の『情報科学4』を通じて一通り学習する。このうち春学期は、コンピュータに関する基礎知識と企業におけるエンドユーザコンピューティングに関する分野に焦点を当てて講義を行う。『ITパスポート試験』とは、企業などの一般業務部門で情報化推進を担える人材の資格試験である。本講義では、ITパスポート試験での将来的な合格を1つの目標としながら、情報化社会で生きるために必要な基礎知識をしっかりと学習していく。	
	情報科学4	情報科学の主要な知識全般を春学期の『情報科学3』および秋学期の『情報科学4』を通じて一通り学習する。このうち秋学期は、インターネットに関する分野に焦点を当てて講義を行う。インターネットは世界規模の情報化を急激に発展させてきた。現在の日本は、従来のインターネットから超高速通信技術を中心とした次世代インターネットへの移行期にある。本講義では、ITパスポート試験での将来的な合格を目指した学習を行うと共に、次世代インターネットの技術と、それがもたらす近未来の情報化社会の姿について学習していく。	
科健康・スポーツ科学系	健康科学1	本科目は、現代の青年期における健康問題、特に薬物、飲酒、喫煙、感染症に関して、健康との関わりと予防対策について、保健学的観点から講義を行い、個人および学校生活における青年期の健康づくりについて考察することを目的とする。授業計画は、保健学概論2回、薬物と健康3回、飲酒とからだ3回、喫煙問題3回、感染症と予防3回、青年期の健康総括1回を実施。評価は、出席50%、レポート（各内容の小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、内容に応じて資料配布。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 健康・スポーツ科学系科目	健康科学2	本科目は、現代社会の成人における健康問題、特に生活習慣病、メタボリックシンドローム、ストレス、労働等を取り上げ、成人期以降の健康づくりについて、保健衛生学的観点から講義を行い、個人や社会における健康づくりについて考察することを目的とする。授業計画は、健康と疾病2回、生活習慣病2回、メタボリックシンドローム2回、ストレス問題2回、労働問題3回、生活環境と健康2回、高齢化問題2回実施。評価は出席50%、レポート（各内容の小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、内容に応じて資料配布。	
	スポーツ科学1	本授業は、現代の健康問題とからだの変化、特に呼吸循環機能や身体組成などについて運動生理学的観点から基礎理論を展開し、からだの機能と運動の関係について理解を深め、学生生活や社会生活において健康維持増進ができる方法について講義を行う。授業計画は、健康と体力2回、呼吸循環機能、骨、身体組成と運動6回、ウエイトコントロール2回、ストレス解消法2回、スポーツ障害予防2回、暑熱障害と運動1回実施。評価は出席50%、レポート（小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は教科書を使用。	
	スポーツ科学2	本授業は、健康の維持増進やプロポーションづくり、生活活動における基礎体力の向上等を目的とし、個人が運動、スポーツを行う際の運動計画や実践が安全に効果的に行える基礎能力を身につけるための運動処方の基礎について運動生理学的観点から講義を行う。授業計画は、運動処方（健康管理、形態、体力測定方法）3回、有酸素運動の処方3回、レジスタンス運動処方3回、疲労回復と運動2回、ストレッチと健康2回、食事と運動2回、評価は出席50%、レポート（小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、教科書を使用	
	スポーツ方法学1	本科目は、青年期における体力づくりをテーマに、各種運動処方論の講義と個人のからだを理解し行動的で健康的な学生生活を送れる体力づくりに関する実践を併用した授業を行う。授業計画は、形態と体力測定論と実施方法2回、体力測定と分析方法2回、柔軟性の運動処方論と実践2回、筋力と筋持久力の運動処方論と実践2回、全身持久性の運動処方論と実践3回、コンディショニング論と実践2回、ウォーキングの効果と実践2回を実施。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポートとファイナルレポート）50%。教材はテキスト使用。	講義時間 10 実技時間 20
	スポーツ方法学2	本科目は、加齢に伴ってボディコントロールが出来る能力を身につけることを目的とし、からだの機能と運動、栄養管理、健康とプロポーションに関する理論と生涯を通じてスムーズにからだを動かせる運動実践を併用した授業を行う。授業計画は、身体組成と栄養2回、体力測定評価と健康2回、体脂肪と運動実践2回、神経系と運動実践2回、骨格筋機能と運動実践2回、呼吸循環機能と運動実践2回、トレーニング論とスポーツ実践3回。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポートとファイナルレポート）50%。教材は、テキスト使用。	講義時間 10 実技時間 20
	スポーツ方法学3	本科目は、スポーツとコミュニケーションをテーマに、自己のからだ、用具、他者とのコミュニケーションについて、主に、ノンバーバル的な観点から理論と実践を展開する。授業計画は、運動と心拍数、呼吸、体温の変化と運動実践、脳機能と運動実践4回（自己理解）、5感、空間認知と運動技能3回（からだと用具の共存）、アイコンタクト、サインプレー論とスポーツ5回、ボディコンタクト論と疲労（他者理解と共存）2回実施。評価は、出席50%とレポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。	講義時間 10 実技時間 20

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
D群 科目 健康・スポーツ科学系 総合教育系科目	スポーツ方法学4	本科目は、青年期以降の生活の質を向上させるため、運動やスポーツ活動の実践が行える環境づくりや、生涯スポーツが行える基礎能力を身につけるための講義と実践を併用して行う。授業計画は、健康スポーツ論と運動実践4回、中高齢者スポーツ論と運動実践4回、社会スポーツ論と健康スポーツ実践4回、総合型スポーツ論とスポーツ実践3回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。	講義 10 時間 実技 20 時間
	現代世界と人間1	グローバル化が進む中、日本で中長期的に在住する「外国人」は200万人を超え、その国籍も多様化している。しかし彼らがどのような背景で日本に在住しているのか、どのような人々が暮らし、どのように私たちとの関係を結んでいるのか、日本社会に住む私たちが適切に理解しているとは言い難い。この講義では、日本に在住する外国人の背景をバックグラウンドごとにカテゴリー化し、彼らが在住している根拠を知り、現状を把握する。また彼らの背景を理解するうえで必要な概念を学ぶ。さらに現実的に私たち日本社会がどのような姿勢で迎えてきたのかなどを明らかにしていく。以上の講義を通じ、日本の「多文化化」の基礎的な理解を図る。	
	現代世界と人間2	グローバル化が進む中、日本社会も人の国際移動の流れとは決して無縁ではない。一部は日本に定住していく。国際社会の中の人の移動は、どのような状況にあるのか。人の移動はなぜ起こると考えられているのか。人は移動先でどのように社会に適応していくのか。国民国家はこうした国境を越えた人の動きにどのように対応しているのか。この講義では、上述のような、日本で急速に進展しつつある「多文化化」を把握する上で必要な、多文化社会を成り立たせている諸要因を「説明」する考え方、「視点」を学ぶ。理論を紹介する文献を中心に講義を行うが、世界の出来事と理論を関連づけられるような新聞記事、視聴覚教材も適宜利用しながら、授業を行う。	
	現代世界と人間3	オリンピックの歴史、薬物問題、経済とのかかわり、政治と環境問題、諸外国のオリンピック、アスリート育成、スポーツの科学、メディアの視点など、をキーワードにして、ゲストスピーカーを招きながら講義をおこなう。 様々な様相を見せるオリンピックについて専門家による視点からの講義をうけ、4年後には社会人として東京オリンピックを迎える皆さんが、主体的に参加できるよう各自が考察し、検証する。	
	現代世界と人間5	現代社会を取り巻く環境は極めて複雑であり、理解するのが難しい。日々身の周りで起こる政治の混乱や経済の動向、事件を的確に理解するため、毎回、新聞の切り抜きを提出し発表してもらおう。新聞、テレビなど主要なメディアが抱えるジャーナリズムの課題を意識しながら今という時代を読み解く授業である。電子メディアにも焦点を当てる。	
	現代世界と人間6	パラリンピックを主題として授業をおこなう。障がい者と関連づけて語られるスポーツを中心にしながら、障がい者がおこなうスポーツ、障がい者のためにルール等が調整されたスポーツ（アダプテッドスポーツ）、障害を非障害化したスポーツなど、その歴史や現代社会における問題点、科学的なサポート、また薬物との関わりなど、様々な視点・分野の専門家をゲストスピーカーに招き、授業をおこなう。本講座では、来るべき2020年東京大会に向け、受講学生が主体的にパラリンピックを捉え、スポーツパフォーマンスのみならず、障がい者と社会、また、今後のあるべき姿について考察を深めることを目標とする。	
	現代世界と人間7	みなさんの暮らしに「税」がどのように係っているのかを知っていただくと共に、それが知識にとどまらず、皆さんが「税について考える」きっかけとなるような講義にしていきます。また、この講座では、税に関するものだけではなく、毎回異なる講師がそれぞれの経験を踏まえ、これから社会人となる学生の皆さんの今後の進路決定に際しヒントとなる話もしたいと思っています。今学期は、税理士以外に衆議院議員、税務署副署長、信用金庫理事長も講師を務める予定です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D群	総合教育系科目	明治学院研究1	1863年ヘボン塾開塾に始まる明治学院の歴史を、いくつかのテーマに即して振り返る。その都度テーマに最もふさわしいゲストスピーカーを招き、講義を担当する形式の授業である。 150年にわたる明治学院の歴史を正負両面から見つめることを通して、この大学で学ぶ意味を歴史的に考える。	
		明治学院研究2	この授業では明治学院の創設者の一人であるヘボン博士の生涯と明治学院の歴史を学びます。幕末の日本開国によりヘボン博士夫妻が来日し、キリスト教伝道活動の中から、横浜外国人居留地で明治学院の源流となるヘボン塾を開きました。ヘボン博士やクララ夫人はどんな人物だったのでしょうか。全15回の講義で詳しく、二人の生涯を学んでいきます。	
		明治学院研究3	本授業は日本を基軸としながらも東アジアへの広がりの中から、明治学院ならびにミッションスクールに関して歴史的考察をなすものです。したがってキリスト教史を踏まえながら東アジア近現代史への基礎的な洞察を加えるとともに、グローバルな視点も取り入れて考えて行きます。その知的作業から明治学院で学ぶということの意味をあわせて考えます。	
	環境学1	テーマは「物質科学の目で見える地球規模の環境」。本科目では、「温室効果ガスと地球温暖化」、「オゾン層の破壊とフロンガス」、「酸性雨と大気汚染」などについて取り上げ、それぞれ物質科学的な観点から解説している。二酸化炭素はなぜ温室効果ガスなのか？紫外線や赤外線とは何か？など、普段よく見聞きする環境に関する科学（化学）の言葉の解説を中心に講義している。また本科目では、環境問題を自然科学的に捉え理解するとともに、環境というキーワードを通じて、自然科学そのものへの興味関心を高めることもあわせて目標としている。		
	環境学2	テーマは「物質科学の目で見える暮らしと環境」。本科目では、「水の利用と水質汚濁」、「エネルギーと環境」、「有害化学物質と環境」を主なテーマとして取り上げ、それぞれ物質科学的な観点から解説している。生活排水の処理と環境への負荷、自動車のエンジンと排気ガス、原子力発電のしくみと放射線の影響など、普段暮らしの中でよく見聞きする環境に関する科学（化学）の言葉の解説を中心に講義している。また本科目では、環境問題を自然科学的に捉え理解するとともに、環境というキーワードを通じて、自然科学そのものへの興味関心を高めることもあわせて目標としている。		
	環境学3	テーマは「環境と生命」。近年、人間を取り巻く生活環境、社会環境、そしてこれらを基礎的支える地球環境は著しい変化・変貌を遂げ、現在もなお進行している。そして、我々人類のみならず地球上のあらゆる生物の存在すらが脅かされ、結果的に、環境問題への認識が益々高まってきている。そこで本科目では、現代社会における環境問題について概説し、環境の変化がヒト生体にどのような影響を及ぼしているのかについて理解を深め、併せて持続可能な環境形成への関心をより一層高めることを目標としている。		
	環境学4	テーマは「環境と健康」。現代の人間を取り巻く社会環境、生活環境は、科学技術の進歩により快適で利便性の高いものへと変化した。しかし、その一方で生活習慣病発病率の増加、体力の低下、少子高齢化などという問題にも直面している。生涯を通じ健康で充実した生活を送ることは、多様な自然環境および社会環境の変化のなかにあって重要な課題である。本科目では、環境と健康との関わり、また、生涯にわたって質の高い生活を営むために必要不可欠な身体機能およびその改善法等について理解を深めることを目標としている。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D群	総合教育系科目	環境学5	テーマは「生物多様性を理解する」。本科目では、「生物多様性」をキーワードに、生物学の窓を通して環境を見つめる視点を養っていく。基礎知識の解説に加え、科学雑誌や新聞記事等から身近な話題を取り上げ、ワークシートを活用することにより、「生物多様性」を理解していく。加えて、1週間かけて新聞で取り上げられた「環境に関する話題」を1つ選び、それに対する学生自身の思考を掘り下げてレポート（＝『エコノート』）としてまとめたものを毎週提出することにより、最新の情報に目を向ける習慣を身につけ、かつ、環境への関心を最大限に高めていくことを目標としている。	
		環境学6	テーマは「環境社会検定試験（eco検定）合格への道」。地球環境の改善・保全と持続可能な社会の形成には、私達一人ひとりが環境問題についての知識を共有し、行動に移していくことが不可欠である。本科目では、問題の原因や構造、法的枠組み等を知ること、体系的に知識を身につけ、環境社会検定試験（eco検定）への合格を目指していく。加えて、1週間かけて新聞で取り上げられた「環境に関する話題」を1つ選び、それに対する学生自身の思考を掘り下げてレポート（＝『エコノート』）としてまとめたものを毎週提出することにより、最新の情報に目を向ける習慣を養っていく。	
		ボランティア学1	ボランティアは、市場や国家による人と人との結びつき方とは違い、かけがえのない「わたし（＝自己）」とかけがえのない「あなた（＝他者）」との関係をつなぐ。そんな認識に立った上で、本講義は自治、贈与、親密性、人間の政治という切り口から、ボランティアの入り口となる「出会い」について、講義とワークショップによって文化人類学的に探求する。そして、自分の価値観・世界観を問い直し、生き方を考える。	
		ボランティア学2	地域は、人の暮らしと仕事によって構成される。本講義は、地域をめぐる学際的な視点を学びながら、そこに生きる人々の暮らしと仕事が織り成す情景を実体的に捉え、彼ら／彼女らの抱える問題を共感するための方法を、講義とディスカッション、フィールドワークによって学ぶ。その上で、ボランティアという営みの可能性を考える。	
		ボランティア学3	本講座では、ボランティアとは何か、非営利組織（NPO）とは何かという、基本からスタート、基礎知識を習得した後、国内の、福祉、教育、街づくりといった社会的課題に取り組むNPOの活動について、欧米と比較しながら勉強する。多くの課題解決には、政府、企業との協働が不可欠である。どういう観点から、どのような形で、NPOが行政、企業と協力しているかについても掘り下げた形で講義を行う。	
		ボランティア学4	日本のNGOの歴史を、先行する欧米のNGOとともに習う。バングラデシュなどには国家をしのぐような大きなNGOが存在し、途上国のオーナーシップを尊重する立場から、こうしたNGOとの連携も活発化している。人材や資金、あるいはマネジメント面での課題も多いが、企業など他のアクターと協力しながら、人間の安全保障、ミレニアム開発目標（MDGs）をキーワードに、世界の市民社会をリードするNGOの今を学ぶ。	
		ボランティア学5	本講義は、聴覚障害者理解のため、以下の形式で授業を展開する。授業では、講義と手話実技を行う。講義は、聴覚障がい者とは・手話とは・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法・聴覚障がい者の生活・災害時・手話の歴史・福祉制度・通訳派遣制度・通訳現場などをテーマとする。手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、自己紹介や簡単な日常会話の取得を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D 群	総合教育系科目	ボランティア学6	本講義は、ボランティア学3を踏まえて、聴覚障害者とのコミュニケーション技法を深めることを目標とする。授業では、講義と手話実技を行う。講義の内容は、聞こえの仕組み・聴覚障がい分類・中途失聴者・ろう重複障がい者・盲ろう者・転免許等のろう運動・ろう教育・手話通訳士・通訳現場についてなどをテーマとする。手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、ろう者と日常会話がスムーズにできるようになることを目指す。	
		ボランティア学7	環境、地域再生、マイノリティとの協働、アートなどの分野で活躍する実践家や、企業の社会貢献担当者をゲストスピーカーとして招き、明治学院大学が白金の地域で展開する地域貢献・地域連携のプロジェクトを立案する。それによって、問題・課題発見力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、そして行動力を磨くことをめざす。	
		ボランティア学8	ボランティア学7を踏まえて、グループワーク（ディスカッションや、現地調査・文献調査）を通じて、プロジェクト案の絞り込みを行い、地域や学内の人々の力を借りながら、実際にプロジェクトを自己満足に陥らない形で実現させる。適宜、ボランティア学7のゲストスピーカーに助言を求める。	
		ライフデザイン講座1	皆さんはこれからの人生をどのようにイメージしていますか？卒業後の自分を考えた時、不安を感じる人も多いでしょう。ほんの少し前向きな意識を持つだけでも大学生生活は大きく変化し、将来への道が見えてきます。 この授業では、ワークシート作成やグループワークによるディスカッションを交えながら、自分の興味や関心、自分を成長させてくれるものを分析して、大学生活の目標を明確にしていきます。皆さんのそれぞれの未来予想図を拡大させましょう！	
		ライフデザイン講座2	皆さんはこれまでの学生生活をどのように感じていますか？そろそろ将来の自分のための知的トレーニングが必要かもしれないと思っている人もいるでしょう。 この授業では、グループワークやプレゼンテーション等を交えながら、自分と他者、自分と社会を関連させて考え、卒業後の自分を見据えた今後の目標を明確にしていきます。思い描いている理想の自分を少しずつ現実に近づけていきましょう！	
		ライフデザイン講座3	副題(テーマ)は「企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility=C SR) 概論」。社会に貢献する、いい企業とは何か？今注目のC SRに熱心な日本を代表する企業の担当者をゲストスピーカーとして招き、授業を担当していただく。環境、貧困、福祉、教育など様々な社会的課題の抽出と、各企業がその課題に対し、どのような理念を持って、解決に向け挑んでいるかを具体的にレクチャーしてもらう。学生は事前にウェブにある教材を読んで予習をすることが義務付けられている。	
		ライフデザイン講座4	副題(テーマ)は「企業とグローバルガバナンス」。前半―企業および国連、政府機関、NGOがグローバル・イシューの解決のために、どのような取り組みを展開しているかを、ゲストスピーカーを招いて話をってもらう。後半―学生自らが挑戦したい課題の設定とその解決法をグループでまとめ、プレゼンテーションをしてもらう。その際、少なくとも企業2社のリソースを使うものとする。つまり、少なくとも企業2社を組み合わせ、国連等との連携を盛り込みながら、貧困、環境、福祉などの難問への解決策を提示してもらう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
D群	総合教育系科目	キャリアデザイン1	明学同窓生の実務経験者が実務と学問の融合の重要性を説きながら、明学OB・OGを通じて将来のキャリアプランを創造させる人財育成講座である。既に、受講しているライフデザイン講座の講義を念頭に講義を行う。復習を兼ねて、個々のライフデザインについて考え、就職に必要な業界研究や企業に就職した後のキャリア形成の考え方を学ぶ。本校のOB・OG8名のゲストスピーカーの講義により、多面的な将来像を描く機会を作る。講義は、発表やグループワークを取り入れた学生参加型の講義である。	
		現代平和研究1	「唯一の被爆国」といわれる日本で学ぶ若者は、ヒロシマ・ナガサキをどこまで知っているだろうか。この授業では、原爆投下によって開かれた核時代に関する基本的な知識を確かなものにし、さらに日本が被害を与えた諸国で原爆投下がどのように受け止められたのかという視点から、今の日本人がふまえるべき侵略と加害の歴史をふりかえる。明治学院大学国際平和研究所が提供するこの授業は「広島・長崎講座」として、広島・長崎両市が事務局となる平和市長会議から認められたものである。各回に掲げられたテーマを、ゲストスピーカーを招いて担当してもらう。	
		現代平和研究2	講義のテーマは「『国境』『国籍』から問い直す平和」である。20世紀は「難民の世紀」であったともいわれるように、現代の世界においては、自らの生まれ育った地を離れ「国境」を越えて生きなければならない人々が数多く存在する。しかし「国境」の内側の「国民」たちの目からは、こうした人々は救済すべき対象とのみみなされ、「国境」の向こう岸に置かれた人々からの視点は無視されがちである。「国境」と「国籍」のはざままで、いま何が起きているのであろうか。歴史学、法学、社会学、人類学、地理学などの研究、在日外国人や難民の権利擁護の実践の現場からこの問題を考え現代の平和の条件を考えることが、この講義の課題である。	
		現代平和研究3	世界各地で絶えとのない武力紛争や市民に対するさまざまな暴力。それを私たちはどのように考え、それにどのように向き合うことができるのか。明学赤十字講座として開催されるこの授業では、代表的な国際人道支援である赤十字運動を生み出す背景となった国際政治と国際人道法を学ぶとともに、赤十字運動をはじめとする、今日のさまざまな人道支援活動の取り組みを見ていく。そして、現在の国際社会において人道支援活動が直面している数多くの困難も含めて、それに対する国際社会、政府、市民の関わり方を考えて行く。各回の具体的な内容については、授業開始時にあらためて指示する	
		オルガン実習1	オルガンの演奏技術を学び、同時に楽譜の読み方や音楽の価値観などの、現在とバロック時代との違いを理解し、ヨーロッパ文化の理解を深める。学習の成果はクリスマス礼拝や白金際、大学チャペルアワーなどで演奏の機会を得ることができる。オルガンの演奏技術を習得する過程で、歴史的・文化的背景が日本と異なるヨーロッパを理解し、将来の国際交流に役立たせ、日本におけるクラシック音楽文化保持を担う大人となることを目標とする	
		オルガン実習2	オルガン演奏技術をさらに高め、難易度の高い課題曲に取り組みながら、オルガンの構造や歴史などについても説明が出来るように知識を広げまとめていく。公開演奏の機会をより増やしていく。短時間の練習で効率的な効果を出せるように、演奏時の体の使い方や本番時の緊張のコントロールを習得し、それらをゼミや他のプレゼンテーションにも活かせるようにしていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語特別演習	特別演習フランス語A	春学期開講。フランス語1・2を履修した学生向けの授業。「フランス語を聞き取れるようになりたい」、「フランス語を用いて自分の気持ちを表現したい」というような希望をかなえるために、話す、聞く、読む、書くという、コミュニケーションに必要な四つの能力を同時に養成しながら、フランス語の能力を総合的に高める。会話内容の充実を図るために、映画や小説などフランス文化に関する話題も逐次とりいれて進めていく。学んだ内容を身につけるためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	特別演習フランス語B	春学期開講。フランス語1・2を履修した学生向けの授業。春学期に引き続き、「フランス語を聞き取れるようになりたい」、「フランス語を用いて自分の気持ちを表現したい」というような希望をかなえるために、話す、聞く、読む、書くという、コミュニケーションに必要な四つの能力を同時に養成しながら、フランス語の能力を総合的に高める。会話内容の充実を図るために、映画や小説などフランス文化に関する話題も逐次とりいれて進めていく。学んだ内容を身につけるためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	特別演習中国語A	1年次に、中国語の初級クラス（「中国語1A・B」「中国語2A・B」）に加えて、会話能力も高めたい学生のために設置された科目である。中国語の初習者を対象とし、初級クラスでの学習内容を踏まえ、ネイティブ教員が発音や口語表現に関する練習・指導を重点的に行うことで、会話能力の向上を目指す。1年次の春学期に「特別演習中国語A」を、秋学期に「特別演習中国語B」を同一年度にセットで履修する。	
	特別演習中国語B	1年次に、中国語の初級クラス（「中国語1A・B」「中国語2A・B」）に加えて、会話能力も高めたい学生のために設置された科目である。中国語の初習者を対象とし、初級クラスでの学習内容を踏まえ、ネイティブ教員が発音や口語表現に関する練習・指導を重点的に行うことで、会話能力の向上を目指す。1年次の春学期に「特別演習中国語A」を、秋学期に「特別演習中国語B」を同一年度にセットで履修する。	
	特別演習ドイツ語A	選択必修の枠外でドイツ語の履修を希望する学生を対象とした、コミュニケーション学習中心の科目。ヒアリングや具体的なシチュエーションを想定した会話練習を授業の中心に据え、特別演習ドイツ語Bと合わせて、初歩的な会話能力の習得を目指す。文法知識の復習・補足は必要最低限に抑える。オーディオ・ビジュアル教材を有効に活用して、文字からではなく、音声からドイツ語を学ぶ姿勢を育成する。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	特別演習ドイツ語B	選択必修の枠外でドイツ語の履修を希望する学生を対象とした、コミュニケーション学習中心の科目。ヒアリングや具体的なシチュエーションを想定した会話練習を授業の中心に据え、特別演習ドイツ語Aと合わせて、初歩的な会話能力の習得を目指す。文法知識の復習・補足は必要最低限に抑える。オーディオ・ビジュアル教材を有効に活用して、文字からではなく、音声からドイツ語を学ぶ姿勢を育成する。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	特別演習スペイン語A	スペイン語1A、2Aを履修中の学生を対象に、日常の簡単なコミュニケーションがスムーズに行えるようになるための訓練を行う。スペイン語1A、2Aの学習内容に基づいて、日常でのコミュニケーションが可能になるように主に聞く、話す力に特化し表現力を養成する。	
	特別演習スペイン語B	スペイン語1B、2Bを履修中の学生を対象に、日常の簡単なコミュニケーションがスムーズに行えるようになるための訓練を行う。スペイン語1B、2Bの学習内容に基づいて、日常でのコミュニケーションが可能になるように主に聞く、話す力に特化し表現力を養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群	外国語特別演習	特別演習韓国語A 韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。初習者が1AB・2ABを含む、週3コマで学習していくという授業である。文字と発音、語彙、文法の基礎を固めつつ、同時により徹底した発音訓練、会話練習などを行う。 発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。明るく楽しい授業を目指す。	
	特別演習韓国語B 韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。1年目の学習者が1AB・2ABを含む、週3コマで学習していくという授業である。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。		
外国語の基礎	フランス語の基礎A フランス語初習者を対象としたクラスです。基本的な文法を順に学びながら、フランス語会話での必須表現、様々な場面でのコミュニケーション、フランス語を通じたフランス文化、そして言葉の「論理」を習得していきます。テキストの練習問題やミニ会話と随時行う小テストで、理解度を確認します。仏語検定5級合格程度を目指しますが、特に仏検を目指すクラスではありません。		
	フランス語の基礎B より複雑な文法を徐々にマスターしていきます。仏語検定4級程度を目指します。		
	中国語の基礎A 中国語以外の初習語を選択した学生が、さらに「第三外国語」として中国語を履修するためのクラス。春学期に「中国語の基礎A」を、秋学期に「中国語の基礎B」を継続して履修する。発音の基本から始め中国語の初級程度の語彙と文法を学ぶ。		
	中国語の基礎B 中国語以外の初習語を選択した学生が、さらに「第三外国語」として中国語を履修するためのクラス。春学期に「中国語の基礎A」を、秋学期に「中国語の基礎B」を継続して履修する。発音の基本から始めて中国語の初級程度の語彙と文法を学ぶ。		
	ドイツ語の基礎A アルファベートの読み方から初めてドイツ語の発音の基礎、基本的な単語や表現、文法規則を学びます。文法や単語の説明のあと、みんなで文章を音読し、自然なドイツ語の流れを身につけます。そのあとで文法の練習問題や会話練習、聞き取りなどをいっしょにやっていきます。 ドイツ語圏での最も基本的なコミュニケーションに必要な読解力、会話力を身につける。また言語以外にも、ドイツ語圏のさまざまな文化に関心を持ち、自分の興味に応じて調べてみる。		
	ドイツ語の基礎B 春学期に引き続き、ドイツ語の発音の基礎、基本的な単語や表現、文法規則を学びます。文法や単語の説明のあと、みんなで文章を音読し、自然なドイツ語の流れを身につけます。そのあとで文法の練習問題や会話練習、聞き取りなどをいっしょにやっていきます。 ドイツ語圏での最も基本的なコミュニケーションに必要な読解力、会話力を身につける。また言語以外にも、ドイツ語圏のさまざまな文化に関心を持ち、自分の興味に応じて調べてみる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語の基礎	スペイン語の基礎A	スペイン語を学んだことのない人を対象にスペイン語のアルファベット、発音から始め、簡単なコミュニケーションができるようになるための土台を作る。 世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語の入門クラス。スペイン語の基本となる文法を学び、スペイン語がどんな言語であるかについて理解を深めるとともに、簡単なコミュニケーションができるようにする。スペイン語圏の社会、文化への関心を高め、自律的に学習するための基礎を築く。	
	スペイン語の基礎B	基礎Aの授業である程度スペイン語に慣れてきた学生を対象に、スペイン語の文法の基礎を固め、今後の学習に役立てられるような力をつける。 世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語入門のクラス。スペイン語の基本となる文法を学び、スペイン語がどんな言語であるか理解8を深めるとともに、簡単なコミュニケーションができるようにする。また、スペイン語圏の社会、文化への関心を高めるための基礎を築く。	
	韓国語の基礎A	文字と発音の基礎を手始めに、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学ぶ。自己紹介の表現をはじめ、真に使える、実践的な表現の基礎を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。週1回履修の授業である。	
	韓国語の基礎B	春学期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。真に使える、実践的な表現を獲得する。週1回履修の授業である。	
	アラビア語の基礎A	最初にアラビア語の文字と発音の説明をし、1日も早くアラビア語の文字の読み書きができるようにする。次いで文法の説明に入り、名詞と冠詞、名詞の性・格などの事項について取り扱う。それとともに適宜既習事項の問題練習を通じて、文法事項の定着を図る。現在、アラビア語は東はイラクから西は北アフリカのモーリタニアに至る22ヵ国、および国際連合の第6番目の公用語として定められている世界の重要言語の1つである。本講義は、日本語や印欧語とはさまざまな点から異なるセム系言語であるアラビア語の学習を通してアラブ・イスラーム世界を理解するための一助とする。	
	アラビア語の基礎B	「アラビア語の基礎A」の内容を受けて、名詞の数、人称代名詞、前置詞、指示代名詞、形容詞などの各事項について取り扱う。また適宜既習事項の問題練習を通じて、文法事項の定着を図る。さらにこの段階でも使用できる会話表現の練習も取り入れ、会話能力の向上も図る。アラビア語は、イスラームの聖典であるクルアーンの言語である。またアラビア語の語彙はペルシア語やトルコ語などの周辺地域の言語に広く浸透し、それらの言語を豊かなものとしてきた。本講義は「アラビア語の基礎A」に引き続いて、その能力を向上させることを目標とする。	
	タイ語の基礎A	タイ語の発音から学び始め、その後、タイに語学留学した日本人の女子大生とタイの女子大生とのダイアログ形式で基本的な会話と文法を学ぶ。発声を伴うドリル練習を通して、タイ語の基礎を身に付ける。	
	タイ語の基礎B	春学期開講「タイ語の基礎A」を通して500語程度の単語力と基礎文法が身に付いていると考え、秋学期ではさらにそれを定着させ発展させていく。会話編の最後に簡単なタイ文字の読み書きを学び、単語を読んだり、自分の名前をタイ文字で書く練習をする時間も設ける予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E 群 外国語研究	英語研究1A	この科目は海外旅行をするときに最小限必要な英語の知識と技術の基礎を英語で学ぶことを目標とする。出発前の準備から始まり、出入国・ホテル・レストランでの対応、買い物、金銭の管理などはもちろん、事故や病気など、思いがけない緊急事態に遭遇した時の対応の仕方を学ぶ。授業はすべて英語で行なわれ、ペアワークやグループワークが中心になるが、リスニングとライティングのスキルの向上にも焦点を当てる。	
	英語研究2A	本講座は英語で文章を書く技能を向上させることが目標である。そのために、(1) 学生が適切かつ自然な英語の文を書けるように指導し、(2) 自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書けるように指導する。とくに、文を書くときにモニターの働きをする文法の知識と自然な英語を書くために必要な英語の発想を重視した授業を行う。また、パラグラフに関する基礎知識を与える。「文法を意識しつつ英語をたくさん書く」ことを心がけることをクラスのモットーとする。	
	英語研究3A	本講座は映画の歴史、撮影・編集技術の変遷を英語で学び、芸術としての映画について造詣を深めるとともに、そうした編集・撮影の技術が変化することが映画の見方そのものに与えた影響を考察することを目標とする。授業はすべて英語で行なうものとし、履修者は毎週クラス内外で鑑賞した映画について英文のレポートが課され、それもとにしたディスカッションに積極的に参加することが求められる。	
	英語研究3B	本講座は英語によるカナダ映画への入門を目的とし、カナダの歴史がカナダの映画界に与えた影響を考察する。カナダのフランス語圏でつくられた映画と英語圏で作られたものとの比較・対照、カナダの映画の作り方とアメリカや日本の映画の作り方の比較が大きなテーマとなる。カナダの映画監督についてもふれることになる。履修者は毎週クラス内外で鑑賞したカナダ映画について英文のレポートが課され、それもとにしたディスカッションに積極的に参加することが求められる。	
	フランス語研究1A	春学期開講。初級フランス語の知識をすでに身に付けた学生を対象とする授業。フランス語で書かれた文章の講読を中心に授業を進めながら、フランスの新聞、雑誌、小説、論文などを読むために必要な語学力の育成を目指す。一文の意味を正確につかむとともに、文章の流れや構築を把握し、テキスト全体の内容を理解することができるようになるために、授業中はまず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師があらためて解説する。当然ながら、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	フランス語研究2A	春学期開講。初級フランス語の知識をすでに身に付けた学生を対象とし、会話や作文などの実践的領域を中心にトレーニングを重ねていく。具体的な授業の内容としては、まず、会話文の暗記や発音練習などを通して、実践に役立つ表現を習得する。次いで、フランス語の文法や文章の構造を説明し、それを練習問題を通して学ぶ。さらに、フランス語の聞き取りにも挑戦する。こうした訓練を毎週継続することで、フランス語の実践能力および表現能力を徐々に高めていきたい。そしてそれにはもちろん、学生一人一人の予習および復習が不可欠である。	
	フランス語研究3A	春学期開講。中級程度のフランス語力をすでに身に付けた学生を対象とする授業。フランス語で書かれた文学作品や論文などの原書をテキストとして選び、専門的なフランス語の文章を読む力を身につけるとともに、当該分野の基本的な知識を習得することを目指す。具体的な授業内容としては、まず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師が内容や文脈を含めて詳しく解説する。一人一人が自宅で予習および復習を行うことが不可欠である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語研究	フランス語研究3B	秋学期開講。中級程度のフランス語力をすでに身に付けた学生を対象とする授業。春学期に引き続き、フランス語で書かれた文学作品や論文などの原書をテキストとして選び、専門的なフランス語の文章を読む力を身につけるとともに、当該分野の基本的な知識を習得することを目指す。具体的な授業内容としては、まず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師が内容や文脈を含めて詳しく解説する。一人一人が自宅で予習および復習を行うことが不可欠である。	
	中国語研究1A	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の発音や基本文法事項の再確認をしながら、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究1A・2A」を、秋学期に「中国語研究1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。1Aでは、中級文法を解説し、その習得を目指す。	
	中国語研究2A	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の発音や基本文法事項の再確認から始めて、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究1A・2A」を、秋学期に「中国語研究1B・2B」の2科目をそれぞれ同時に履修する。2Aでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、やや発展的なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
	中国語研究3A	中級中国語の学習を一通り終えて、さらに発展的な中国語の運用能力を求める学生のための春学期に開講される科目。新聞記事などもある程度読めるような力を付けるために、文法だけではなく現代中国事情も合わせて学んでいく。同時に、コミュニケーション能力を高めるために、授業の中でも会話や作文の時間をできるだけとっていく。	
	中国語研究3B	中級中国語の学習を一通り終えて、さらに発展的な中国語の運用能力を求める学生のための秋学期に開講される科目。新聞記事などもある程度読めるような力を付けるために、文法だけではなく現代中国事情も合わせて学んでいく。同時に、コミュニケーション能力を高めるために、授業の中でも会話や作文の時間をできるだけとっていく。	
	ドイツ語研究1A	ドイツ語1AB、2ABの既習者を対象にして、「購読」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。テキストの読解を中心に扱いつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究1Bと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の読み物を取りあげるよう心がける。	
	ドイツ語研究2A	ドイツ語1AB、2ABの既習者と対象にして、「表現」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。会話や作文を授業の中心に据えつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究2Bと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語研究	ドイツ語研究3A	2年間以上ドイツ語を学んだ既習者を主たる対象として、購読、ヒアリング、作文、会話の練習等、総合的なドイツ語運用能力を高めることを目的とした科目。担当教員は、ドイツ語研究3Bと合わせて、「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のバランスに配慮した授業運営をおこなう。また、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	ドイツ語研究3B	2年間以上ドイツ語を学んだ既習者を主たる対象として、購読、ヒアリング、作文、会話の練習等、総合的なドイツ語運用能力を高めることを目的とした科目。担当教員は、ドイツ語研究3Bと合わせて、「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のバランスに配慮した授業運営をおこなう。また、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	スペイン語研究1A	1年次で習った基本文法を復習しながら、身近なテーマについて自分から何かを伝えることができるように、単語から文を、文から文章を作る練習をしていく。動詞の活用語尾を覚えることから一歩進んだ表現力を身につけよう。映画などを題材として、スペイン語圏と日本の文化の違いや共通点についても考えていく予定。	
	スペイン語研究2A	1年次で習った基本文法および頻出表現を復習しながら、身近なテーマについて自分からなにかを伝えることができるように、会話練習などを行う。リスニング能力の向上、語彙力の増強を目指したトレーニングも行う。また、毎回最新ニュースなどを例に取って、スペイン語圏の話題や動向についてもふれていく。	
	スペイン語研究3A	文法的な知識をたえず振り返って確認しながら、新しい表現に接したり、語彙を増やしたりしていく。受講者のレベルにより、アクティビティを増やしたり、スペイン語の映画鑑賞なども織り交ぜていく予定である。基礎的な段階を終えた人を対象に、言語のコミュニケーション能力の向上を図り、易しい表現を使って文章が書けるようにする。またスペイン語の文化的な背景も理解するように努める。	
	スペイン語研究3B	文法的な知識をたえず振り返って確認しながら、新しい表現に接したり、語彙を増やしたりしていく。受講者のレベルにより、アクティビティを増やしたり、スペイン語の映画鑑賞なども織り交ぜていく予定である。春学期の学習内容に引き続き、言語のコミュニケーション能力の向上を図り、易しい表現を使って文章が書けるようにする。またスペイン語の文化的な背景も理解するように努める。	
	ロシア語研究1A	ロシア語の基本事項を確認しながら、より体系的に学習する。読解テキストなどを通して実際に使われているロシア語に触れる。個々の文法事項の理解を深める。今までの学習で得られた知識をより実践的な場面で活かす。読解・作文能力、語彙力の向上を目指す。	
	ロシア語研究2A	<ul style="list-style-type: none"> ロシア語文法の中核的な部分を学習します。今持っている知識をひとつひとつ確認し、体系的なものへと組み上げます。また「授業計画」の内容と同時並行的に、ロシア語で書かれたテキストを少しずつ読むつもりです。 毎回の授業で、同じ問題の非常に単純なテストを行います。 	
	ロシア語研究3A	この授業は、ロシア語文法をひとつおわり終了した学生を対象としたクラスです。習得済みの個々の文法知識を総合、復習、確認しながら、ロシア語文を辞書を用いて精読していきます。今学期は、徐々にレベルアップしていく中級レベルのテキストを、初級文法事項の確認、復習をしながら丁寧に訳読していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E 群 外国語研究	ロシア語研究3B	春学期に学んだことを確認しながら、さらにロシア語の基礎的な能力をのばす。 ロシア語の基本的な知識と運用能力の獲得（アルファベットを読めて書けるようになること、簡単な表現の口頭でのやりとりと読み書きができるようになること）を目指す。 ロシアとその周辺地域の文化・社会の理解を深める。	
	韓国語研究1A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、語彙力の拡充をはかる。なお、「条件を表す」、「依頼する」、「根拠を述べる」、「感嘆を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現(ストラテジー)の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。「読む」「書く」能力の向上を目指す。語彙、文法の増強と共に、実践的に表現しうる能力をさらに発展させる。明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語研究2A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、様々な文法を学ぶ。加えて、語彙力の拡充をはかる。なお、「条件を表す」、「依頼する」、「根拠を述べる」、「感嘆を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。「話す」「聞く」能力の向上を目指す。発音の練習を重視する。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
	韓国語研究3A	韓国語の基礎の学習を終え、2年以上の学習歴のある学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、敬意体と非敬意体などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「電話の表現」、「感謝を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。韓国語の基礎の学習を終えた段階で、語彙、文法、表現の増強を図る。発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。	
	韓国語研究3B	韓国語の基礎の学習を終え、2年以上の学習歴のある学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、連体形や接続形、引用形などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「許可を得る」、「提案する」、「意志を述べる」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。明るく楽しい授業を目指す。	
	英語特別研究101	TOEFL ITPの各セクションのスコアアップを図るには、英語の基礎となる文法事項の確認が欠かせない。本講座は既習の文法事項を復習しながら、リスニングやリーディングセクションにも応用できるしっかりとした英語力を身につけることを目標とする。多くの日本人が苦手とする文法項目を中心に既習事項の理解をより確かなものにする。秋学期科目の英語特別研究102と関係した科目である。	
	英語特別研究102	TOEFL ITPの各セクションのスコアアップを図るには、英語の基礎となる文法事項の確認が欠かせない。本講座は既習の文法事項を復習しながら、リスニングやリーディングセクションにも応用できるしっかりとした英語力を身につけることを目標とする。TOEFL ITPの問題を実際に解きながらスコアアップに必要な知識と問題の攻略法を学ぶ。春学期科目の英語特別研究101と関係した科目である。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
E 群	外国 語 研 究	英語特別研究113	<p>(英文)Writing (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Writing section of the TOEFL iBT, such as writing logically with correct English usage. These skills will also be helpful for completing writing assignments in English at an overseas university.</p> <p>(和訳)ライティング (秋学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。英語の文章作法に適った、論理的な英文を書くことに焦点を当て、TOEFL iBTのライティングセクションに対処するスキルを学ぶ。このスキルは留学先の大学で課されるレポート作成にも有効である。</p>	
		英語特別研究114	<p>(英文)Writing (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Writing section of the TOEFL iBT, such as writing logically with correct English usage. These skills will also be helpful for completing writing assignments in English at an overseas university.</p> <p>(和訳)ライティング (秋学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。英語の文章作法に適った、論理的な英文を書くことに焦点を当て、TOEFL iBTのライティングセクションに対処するスキルを学ぶ。このスキルは留学先の大学で課されるレポート作成にも有効である。</p>	
		英語特別研究115	<p>(英文)Reading & Listening (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Reading & Listening section of the TOEFL iBT. The skills covered in this class are also essential for studying in English at an overseas university.</p> <p>(和訳)リーディングとリスニング (秋学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。TOEFL iBTのリーディングとリスニングセクションの問題に対処するスキルに焦点を当てる。この授業で扱うスキルは留学先の大学で英語の授業を受けるのに不可欠なものでもある。</p>	
		英語特別研究116	<p>(英文)Reading & Listening (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Reading & Listening section of the TOEFL iBT. The skills covered in this class are also essential for studying in English at an overseas university.</p> <p>(和訳)リーディングとリスニング (春学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。TOEFL iBTのリーディングとリスニングセクションの問題に対処するスキルに焦点を当てる。この授業で扱うスキルは留学先の大学で英語の授業を受けるのに不可欠なものでもある。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語研究	英語特別研究117	<p>(英文)Speaking, Integrated Skills (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on the skills needed for answering the "integrated questions" of the Speaking section of the TOEFL iBT: emphasis is placed on using reading, listening and speaking skills together.</p> <p>(和訳)スピーキング インテグレイテッドスキル (秋学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。授業ではTOEFL iBTのスピーキングセクションで出題される総合問題(インテグレイテッドクエスチョン)に対応するためのスキルの習得に焦点を当て、リーディングとリスニングの力をスピーキングの力と組み合わせて発揮するための訓練を行なう。</p>	
	英語特別研究118	<p>(英文)Speaking, Integrated Skills (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on the skills needed for answering the "integrated questions" of the Speaking section of the TOEFL iBT: emphasis is placed on using reading, listening and speaking skills together.</p> <p>(和訳)スピーキング インテグレイテッドスキル (春学期) この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。授業ではTOEFL iBTのスピーキングセクションで出題される総合問題(インテグレイテッドクエスチョン)に対応するためのスキルの習得に焦点を当て、リーディングとリスニングの力をスピーキングの力と組み合わせて発揮するための訓練を行なう。</p>	
	フランス語特別研究111	<p>秋学期開講。フランスへの留学を考えている学生のフランス語運用能力を高めるための、フランス語特訓講座。具体的には、基本的な文法事項を完全に習得すること、基本文型および頻出表現の例文を暗記すること、そうした例文をしっかりと発音し、さらには書けるようになること、さらには、聴覚教材を利用してフランス語を聴きとる能力を身につけることを目指す。授業の予習および復習は不可欠。なお、授業を効果的に進めるために、参加希望者が多数の場合は選抜試験を行う。</p>	
	フランス語特別研究112	<p>春学期開講。フランスへの留学を考えている学生のフランス語運用能力を高めるための、フランス語特訓講座。前年度秋学期に引き続き、基本的な文法事項を完全に習得すること、基本文型および頻出表現の例文を暗記すること、そうした例文をしっかりと発音し、さらには書けるようになること、さらには、聴覚教材を利用してフランス語を聴きとる能力を身につけることを目指す。授業の予習および復習は不可欠。なお、授業を効果的に進めるために、参加希望者が多数の場合は選抜試験を行う。</p>	
	ドイツ語特別研究111	<p>短期および長期のドイツ留学を想定し、それらに準備するための科目。留学先の現地での生活を念頭に置いて、実際に使えるドイツ語の習得を目標にドイツ語を学んでゆく。ドイツ語特別研究112と合わせて、初級文法の定着、日常生活に必要な語彙力の形成、初歩的な会話力を身につけることを目指す。授業担当者は、さまざまな観点からドイツ語圏の文化への関心を高める内容の教材を選択するように心がける。</p>	
	ドイツ語特別研究112	<p>短期および長期のドイツ留学を想定し、それらに準備するための科目。留学先の現地での生活を念頭に置いて、実際に使えるドイツ語の習得を目標にドイツ語を学んでゆく。ドイツ語特別研究111と合わせて、初級文法の定着、日常生活に必要な語彙力の形成、初歩的な会話力を身につけることを目指す。授業担当者は、さまざまな観点からドイツ語圏の文化への関心を高める内容の教材を選択するように心がける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 外国語研究	スペイン語特別研究111	近い将来スペイン語圏で勉強しようと考えている学生を対象とする。語彙力を向上することが重要であると考え、語彙を習うことを中心に据え、文法力、コミュニケーション能力、リスニング能力などオールラウンドな力を培う。授業ではグループ作業等を中心に、協力して学ぶことが自分の語学力向上につながることを実感してもらうことも目標とするとともに、各自の自律的学習のためのヒント等を提案していく。	
	中国語特別研究111	1年次前半の学習を終え、中国への短期留学や、1年以上の長期留学を目指している学習者を対象とする。2年次夏の留学を一つの目標とする。既習の発音、基本構文の習得を確認しながら、中国語表現の読み、聞き、話し、書くというコミュニケーション能力の養成を目標に、実用的な構文・会話を反復練習し、「活きた」中国語に「慣れ」ていく。また、現代中国事情を踏まえ留学準備をサポートする実践的な授業を目指す。	
	中国語特別研究112	中国語の基礎の学習を終え、中国への短期留学や、1年以上の長期留学を目指している学習者を対象とする。一年次に学習した発音、基本構文の習熟度を確認しながら、中国語表現を読み、聞き、話し、書くというコミュニケーション能力の向上を目標に、実用的な構文・会話を反復練習し、「活きた」中国語に「慣れ」ていく。また、現代中国事情を踏まえ留学準備をサポートする実践的な授業を目指す。	
	韓国語特別研究111	韓国へ短期留学、1年以上の留学を目指している学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、敬意体と非敬意体などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「電話の表現」、「感謝を表す」、「提案する」、「意志を述べる」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。韓国語の基礎の学習を終え、発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語特別研究112	韓国語の基礎の学習を終え、韓国へ短期留学、1年以上の留学を目指している学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、連体形や接続形、引用形などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点から、聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
西洋古典語研究	ギリシア語研究A	現代ギリシア語の学習テキストを用い、全く初歩の挨拶表現から、動詞・名詞・形容詞の人称変化・格変化などを着実に覚えながら、現在時称・未来時称・過去（アオリスト）時称を段階的に学び、日常の会話が可能となるように指導する。また歴史・考古学的視点からも重要なギリシア世界の『神話』『キリスト教文化』『世界遺産』、そしてエーゲ海の島々の観光地等を画像で紹介しつつ、クレタ文明時代から現代に至る総合的「ギリシア学」を講義する。	
	ギリシア語研究B	現代ギリシア語の学習テキストを用い、動詞・名詞・形容詞の人称変化・格変化などを着実に覚えながら、春学期の現在時称に引き続き過去（アオリスト）時称や接続法を段階的に学び、日常の会話が可能となるように指導する。また、歴史・考古学的視点からも重要なギリシア各地の遺跡・世界遺産や、エーゲ海の島々の観光地等を画像等で紹介しつつ、クレタ文明時代から現代に至るギリシアの文化遺産にも触れて総合的「ギリシア学」を講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 西洋 古典語 研究	ラテン語研究A	古代ローマの公用語として用いられたラテン語は、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語などの起源となっただけでなく、宗教・学問の言語としてヨーロッパ精神の中核を形作って来た。本講は、ローマ文化の知識を背景にラテン語文法の基礎を学ぶことを通して、ヨーロッパ文化を更に深く理解するための足掛かりを作ることを目的とする。初歩の段階であるので、教科書の練習問題を通じてラテン語文法の基礎を習得することが中心となるが、授業は受講生の予習・復習を前提に進めてゆくの で、受講生にはそれに応じた努力が必要となる。	
	ラテン語研究B	本講は、ラテン語研究Aにつづき、ラテン語の文法の基礎を修得することを目的とする。授業は、教科書の練習問題を通じてラテン語文法の基礎を習得することが中心となるが、この段階では、近代語とは異なる様々な統治論 syntax を学んで行くことも重要になる。また語学の知識は、それが用いられる文化・社会の知識を前提としてはじめて生きたものとなるので、おりに触れてローマ・ラテン文化の理解を深めるための様々な教材（音楽・映画、文学作品等）をも用いたい。	
留学生 関連 科目	日本の歴史と文化A	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。 授業には一般学生も参加し、日本文化の特質をワークショップ形式でともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。	
	日本の歴史と文化B	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。 授業には一般学生も参加し、日本文化の特質をワークショップ形式でともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。	
	日本の社会と政治経済A	まず、戦後日本の開発・農業政策を解説する。開発政策については、戦後の廃墟の中からいかに工業化を進めたかを傾斜生産方式、特定地域開発、全国総合開発計画、新全国総合開発計画などに即して説明する。農業政策については、農地改革、アメリカ農産物の輸入、農業基本法、新農業基本法などに即して、かつ開発政策との関連にも触れながら説明する。その上で、日本を持続的社會に変えていくための開発・農業政策上の課題を学生とともに考える。留学生には、母国の開発・農業政策との比較検討を行ってもらう。	
	日本の社会と政治経済B	まず、戦後日本の環境・エネルギー政策を解説する。環境政策については、1960年代後半からの公害問題、廃棄物問題、埋立問題、1980年代後半からの地球環境問題などに即して説明する。エネルギー政策については、水力発電、石炭から石油への転換、原子力発電、自然エネルギーなどに即して説明する。その上で、日本を持続的社會に変えていくための環境・エネルギー政策上の課題を学生とともに考える。留学生には、さらに母国の環境・エネルギー政策との比較検討を行ってもらう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 留学生 関連科目	日本の科学と技術A	授業では、本学の留学生を対象に、科学とはどのような学問であるのかを理解し、科学と人間社会との関係を考えます。科学的であるとはどんなことか、科学はどのように発展するのか、科学と非科学とはどのように区別するのか、科学には絶対的真理はあるのか、社会科学と自然科学はどう違うのか、数学や論理学は科学にどのように利用されるのか、われわれが科学的であるには、どうすればよいのかといったことを学び、科学的に考えるトレーニングをしましょう。	
	日本の科学と技術B	環境問題は、社会的、経済的、文化的諸問題に関わるのですが、環境問題の科学的側面を正しく理解するためには、科学的とはどんなことかを理解しなければなりません。この講義では、日ごろ環境にやさしいといわれていることがなぜ、環境にやさしいのか、あるいは本当環境にやさしいのかを検証し、環境問題の科学的側面を正しく理解することを目的とします。授業では、講義だけでなく、留学生諸君による発表を組み合わせ一緒に考えていきたいと思う。	
	日本語研究1A	このクラスでは、待遇表現といわれる、対人関係を考えたうえでの会話表現を学ぶ。はじめに、いままで学んできた敬語表現・授受表現などをもう一度整理しなおしてみる。次に、場面によってどのような表現が使われているかを見ながら、適切なことばの使い方について練習していく。社会に出てから必要とされる、特に、目上の人やあまり親しくない人とのやりとりの中で、相手に失礼にならずに受け答えできるように、丁寧な言葉遣いができる会話表現を扱っていく。	
	日本語研究2A	この授業では、文学作品から生の文章を選択し、プリントして教材とする。履修者全員で分担して内容を理解していく。履修者自身が分担した箇所の語彙・表現の説明・内容理解問題・まとめをA4判1枚程度にプリントしてきて、それをもとに担当者が司会をしながら、他のメンバーから質問を受け、その箇所の内容理解を進めていく。内容理解が終わった後は、担当者が中心となって、内容に関する問題についてクラスで意見交換を行う。読み終わった文章については、次週に漢字の読みと言葉の意味のクイズを行う。	
	日本語研究3A	履修を希望する留学生が必要とする日本語力の養成を図る。具体的には、履修学生が決まった段階で履修学生に意向などを聞きながら決める。例えば、専門課程の勉強で必要とされる速読、多読および文章作成の練習である。また、留学生が社会に出た時に必要になると思われる実践的な日本語力の習得などが考えられる。待遇表現を中心とした改まった場面での話し方および依頼状・礼状などのような手紙の書き方の練習が必要となるだろう。現在の日本語力を基礎として、より高度な日本語を理解し、表現する能力の養成を目指す。	
	日本語研究3B	履修を希望する留学生が必要とする日本語力の養成を図る。具体的には、履修学生が決まった段階で履修学生に意向などを聞きながら決める。例えば、専門課程の勉強で必要とされる速読、多読および文章作成の練習である。また、留学生が社会に出た時に必要になると思われる実践的な日本語力の習得などが考えられる。待遇表現を中心とした改まった場面での話し方および依頼状・礼状などのような手紙の書き方の練習が必要となるだろう。現在の日本語力を基礎として、より高度な日本語を理解し、表現する能力の養成を目指す。	
N異文化 研究	異文化コミュニケーション研究A	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。春学期授業科目(A)の研究テーマは、「グローバリズムとローカリズム」とし、日本と他国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得ることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
E 群	異文化コミュニケーション研究B	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。秋学期授業科目(B)の研究テーマは、「日本文化の中のマイノリティ」とし、日本文化の多様性や多文化共生の重要性に関する知見を得ることを目標とする。		
	情報処理関連科目	コンピュータテラシー研究1A	コンピュータを用いた情報処理の概論について講義を行う。情報処理とは、人間の知的活動そのものであるが、現代の情報量をうまくまとめて必要な時に取り出して利用するにはコンピュータの使用が不可欠である。実習室のパソコンを毎回の授業で実際に使用し、簡単な例を自ら作成しながら、情報処理の方法と手段を学ぶ。プログラムの基本的仕組みは、(1) データを出力する、(2) データを加工する、(3) データを入力する、(4) 場合分けの処理、(5) 繰り返しの処理の5つである。その5つについて、実際のプログラムを実行結果を自ら確かめながら学ぶ。	講義時間 20 実習時間 10
	コンピュータテラシー研究1B	コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアからなる。コンピュータを情報処理の道具として、効率良く使用するためには、ソフトウェアの理解が必要である。ソフトウェアの理解を深めるために、プログラミングの基礎について講義を行う。実習室のパソコンを毎回の授業で実際に使用し、簡単な例を用いながら、情報処理の方法と手段を学ぶ。コンピュータテラシー研究1Aで学習した5つの基本的な仕組みを基にして、関数の仕組みについて説明を行う。	講義時間 20 実習時間 10	
	コンピュータテラシー研究2A	コンピュータを用いた情報処理を行なうためにはアプリケーションプログラムが必要である。プログラムの基本的仕組み((1) データを出力する、(2) データを加工する、(3) データを入力する、(4) 場合分けの処理、(5) 繰り返しの処理)の理解を前提として、プログラミング言語Javaによるアプリケーションプログラムの作成を行なう。CUI(文字列操作)だけでなく、GUI(アイコンとマウスでの処理)の可能なプログラムを作成する。	講義時間 20 実習時間 10	
	コンピュータテラシー研究2B	コンピュータを用いた情報処理を行なうためにはアプリケーションプログラムが必要である。画像処理とネットワークのアプリケーションプログラムが比較的容易に作成可能なプログラミング言語Javaによるアプリケーションプログラムの作成を行なう。GUI(アイコンとマウスでの処理)に必要な仕組み、ボタン、フィールドなどを実際の例を作成しながら、その仕組みを理解する。プログラムからどのようにネットの情報収集するのか、インターネットの基本的な仕組みを考えながら、プログラムを作成する。	講義時間 20 実習時間 10	
自然科学関連科目	物理学方法論A	自然科学における方法論、思考方法を体験と実験を通じた学習の中で訓練しておくことは、大学共通教育において重要な意味を持つと考えられる。この講義では教員からの一方向だけの授業だけではなく、体験と実験を通じた双方向の物理学教育を通じ、自然科学における物理学の方法論について学習する。各実験題目について、配布プリントを用いて実験の基礎となる原理を学び、実際に実験、観測を行ない、実験結果をまとめてレポートを作成することにより、講義内容に対する理解を深めていく。主なテーマは「光の波としての性質」、「音波による波の合成」、「磁場の日常生活への応用」、「計算機物理学」等である。	講義時間 20 実習時間 10	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 自然科学 関連科目	物理学方法論B	自然科学における方法論、思考方法を体験と実験を通じた学習の中で訓練しておくことは、大学共通教育において重要な意味を持つと考えられる。この講義では教員からの一方向だけの授業だけではなく、体験と実験を通じた双方向の物理学教育を通じ、自然科学における物理学の方法論について学習する。各実験題目について、配布プリントを用いて実験の基礎となる原理を学び、実際に実験、観測を行ない、実験結果をまとめてレポートを作成することにより、講義内容に対する理解を深めていく。主なテーマは、「原子の世界」、「熱」、「ロボットづくり」等である。	講義時間 20 実習時間 10
	化学方法論A	本科目は実験を含む科目であり、主に「無機・分析化学分野」に関する内容で展開している。実験内容の予習復習や、関連する身近な例などについての講義を行うほか、実験終了後には実験結果をまとめ、さらに考察を加えた「レポート」の提出も求めている。そのため、「レポート」の書き方についてもあわせて指導している。化学は純理論科学ではなく実験科学である。ゆえに、実際に化学薬品を取り扱ってその性質を調べたり、また、薬品を反応させて別の物質を合成したりすることは、化学を理解する上で必要不可欠なことである。自らの手によって実験操作を行なうことにより化学の方法に触れ、化学的な思考の方法を理解することを目標とする。	講義時間 20 実習時間 10
	化学方法論B	本科目は実験を含む科目であり、主に「合成化学分野」に関する内容で展開している。実験内容の予習復習や、関連する身近な例などについての講義を行うほか、実験終了後には実験結果をまとめ、さらに考察を加えた「レポート」の提出も求めている。そのため、「レポート」の書き方についてもあわせて指導している。化学は純理論科学ではなく実験科学である。ゆえに、実際に化学薬品を取り扱ってその性質を調べたり、また、薬品を反応させて別の物質を合成したりすることは、化学を理解する上で必要不可欠なことである。自らの手によって実験操作を行なうことにより化学の方法に触れ、化学的な思考の方法を理解することを目標とする。	講義時間 20 実習時間 10
	生物学方法論A	テーマは「横浜キャンパスにおける生物多様性調査」。地球規模での環境悪化が進む中、私達が身近な環境を理解することは、ますます重要となっています。あらゆる生命の生存基盤である「生物多様性」を理解するためには、野外における実態を把握するとともに、命触れ合う体験が不可欠です。本科目では、私達が日々を過ごす横浜キャンパスで、ヒト以外の身近な命の存在を知ることにより、自然との共生について意識を高め、他種に配慮する心を育てます。	講義時間 20 実習時間 10
	生物学方法論B	生物体には多くの生理現象があり、全てが解明されているわけではない。この現象のいくつかを方法論Bでは動物を中心に講義・実験する。哺乳動物の解剖・赤血球の数・白血球の種類・精子細胞の形態・DNAの抽出等の実験を行い、植物との違いを比較しながら、さらには自分たちの身体についても理解をしてもらう。またこの講義から得られた考え方は、自然科学だけのものではなく他の分野の学問はもとより、日常生活にも共通するものがある事にも気づいてほしい。	講義時間 20 実習時間 10
	科健康・スポーツ 科学関連	シーズンスポーツ研究1A	本授業は、生涯スポーツの一環としてゴルフを用い、年齢を問わずレクリエーションスポーツの楽しみ方や自然および人とのコミュニケーションに関して学習することを目的とし、講義と実践を併用して行う。授業計画は、ゴルフの歴史と文化1回、マナー論とコミュニケーション、技術論基礎3回、レクリエーション論と技術論2回、ゴルフ環境論と基礎技術論4回、コーチング論と基礎技術論4回、アマチュアスポーツ論とゴルフ1回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
E 群	健康・スポーツ科学関連科目	シーズンスポーツ研究1B	本授業は、1Aの応用編として、ゴルフ場にて3泊4日、安全対策、楽しむための技術論、生涯スポーツに関して理論と実践を行う。授業計画は、四季と健康管理、共同生活と健康管理、ルールとマナーと基礎技術論（1日）、動作分析方法論と基礎技術論、コース戦略論と体験学習（2日）、余暇活動と栄養、生涯スポーツとゴルフ実践、グループワークとコース戦略（3日）、トレーニング論と基礎技術論（4日）を実施。評価は、実習全期間出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）40%、健康管理10%。教材は、参考資料配布。	
	シーズンスポーツ研究2A	本授業は、野外活動と健康づくり、コンディション調整法、他者や環境に悪影響を及ぼさないルールとマナーについて身につけることを目的とし、講義と実践を行う。授業計画は、野外活動と健康1回、キャンプの効用と実践論2回、キャンプ指導論とレクリエーション実践2回、登山と体力2回、アウトドアスポーツ論と実践方法2回、自然環境と余暇活動2回、キャンプ生活論（ルールとマナー）3回、自然と共同生活1回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、必要に応じて資料配布。		
	シーズンスポーツ研究2B	本授業は、2Aの応用編として、菅平高原にて3泊4日、野外活動を安全に楽しむための技術論や余暇活動と健康づくりを実施するための講義と実践を行う。授業計画は、野外活動と共同生活、自然と食事、キャンプ中のルールとマナー（1日）、溪流と生物、森林浴、レクリエーションとコミュニケーション（2日）、登山とグループワーク、セレモニーの意義と心、（3日）、自然と共同作業（4日）を実施。評価は、実習全期間出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）40%、健康管理10%。教材は、資料配布。		
	シーズンスポーツ研究3A	本授業は、冬季のスポーツ活動としてスキーを題材に、ウインタースポーツを安全に楽しむ方法とグループワークを通じて規則正しい生活が行える基礎能力をやしなうことを目的とし、講義と実技を併用して実施する。授業計画は、スキーと健康・体力づくり2回、技術論と運動処方5回、寒冷環境と体力づくり2回、安全対策とコンディショニング2回、ゲレンデにおけるマナーとルール2回、平行感覚と技術論2回を実施。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポート、ファイナルレポート）50%。授業は、必要に応じて資料配布。		
	シーズンスポーツ研究3B	本授業は、3Aの応用編として、スキー場にて3泊4日、基礎技術論、ゲレンデ内の安全対策とマナー、寒冷環境下における健康管理や生涯スポーツに関する基礎理論と実践方法を身につけることを目的として実施する。授業計画は、安全対策とマナー、健康管理、基礎技術論（1日）、環境と健康・スキー技術論、指導論（2日）、応用技術論とグループワーク（フォーメーションの考案）（3日）、総合的技術論と総合滑走（4日）を実施。評価は、実習全出席50%、レポート（各項目の小レポート、ファイナルレポート）50%。授業は、資料配布。		
	総合教育系科目	ボランティア実習101	現場実習の候補団体はNPO、NGO、社会的企業（社会起業家）などで、以下の「授業計画」に列記してある中から1団体を春学期中に選び、夏休み期間中に2週間程度、その組織で活動を体験、研究する。その後、NPOマネジメント理論に基づいた分析レポートを提出する。これまで授業で学んだNPOマネジメントの理論、手法を、実際の活動体験を通してさらに深めることを学修目標とする。	
	ボランティア特別研究101	「ボランティア学1」で国内ボランティア・NPOの概論について理解を深めた学生を対象に、環境、福祉、教育、まちづくり、といった実際の支援を現場で行うための準備を整えるのが授業の目的である。学生が各分野での課題を自ら発見し、その解決策を提示していけるようになることを期待する。そのためには、各分野で活躍するNPO、NGOや社会起業家の研究を通して、ともに議論していくような「参加型授業」となる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群	総合教育系科目 ボランティア特別研究102	夏休みに実施する「ボランティア実習101」で訪問する、環境、教育、福祉、国際協力など様々な分野のボランティア団体、NPO、NGOを中心に、ミッション、中期計画、資金調達、人事管理、政府や企業との協力、今後の課題などについて具体的に分析する。それを通して、学生の非営利民間組織の活動に対する理解を深め、自らが、社会的課題を解決していく意欲を醸成する。	
	アカデミックテラー研究1	大学で要求される文章表現技術を向上させることを目指し、日本語の論文作成法を添削指導を通して実践的に訓練する、初年次向け、少人数の演習型コースである。受講者は授業で資料の読み取り、討論などのグループワークを通し、論拠にもとづいた主張を形づくり、さらにそれを論理的で説得力あるレポートとしてまとめ、添削を受ける。具体的ゴールとして、(1) 論理的な段落構成法、(2) 注と引用の作法、(3) 文献および記事検索、(4) 推敲の基本的スキル習得をめざす。「問い」「論証」「答え」からなる論述をとおし、書くことを抜きには成り立たない知的な問題発見を体験させる。	
	アカデミックテラー研究2	明治学院大学の学生として自らの大学を広く社会にアピールするため、大学の個性や特長について考える。ワークショップ形式によりながら、「エコ」を切り口に、本学を取り巻く状況を分析し、それを新たな視点でイメージとして描き、企画・立案する中で、コミュニケーション・リテラシーやプレゼンテーション技法を実践的に学習する。	
特別学科科目	社会学概論A	現代社会に対する問題意識を持ち、分析するために、社会学の基礎理論、学説、社会学的ものの見方、考え方を学ぶ講義科目である。社会学の成立過程と基礎的な学説、理論的方法について理解を深めることを目的とする。社会学は、近代市民社会の自己理解として生まれてきた。その歴史の中で生まれてきたさまざまな理論や分析に触れつつ、とくに特徴的に論じられてきた合理性、大衆社会、個人などをキーワードに、社会学的な手法によって現代社会を洞察する。	
	社会学概論B	現代社会にたいする問題意識と分析のために、社会学の基礎理論等を学ぶ講義科目である。基本的には社会学概論Aから継続して位置づけられているが、独立しており、社会学概論Aが古典的な社会学理論にかかわる部分が多いのに対し、この科目では、寄り現在に近い社会学理論を中心に、現代社会の解明について考察することを目標とする。ジェンダー、格差、生殖技術といった現在の具体的な問題にも触れながら、社会的傾向や社会問題が生まれてきた背景などについて探っていく。	
短期留学認定科目	イギリス研究	英国ノーリッチのイーストアングリア大学およびレスター大学への短期留学修了者に付与される認定科目。イーストアングリア大学は夏季の特別集中プログラムで、イギリス文化や社会に触れることを通じ、生きた英語を身に付けることを目的としている。レスター大学は、日本の協定校向けに開設されている春季プログラムで、日常会話力の向上を目指した英語学習に加え、近隣住民との社会貢献活動参加を通じて、英語の実地トレーニングとイギリス社会への理解を深める。	
	オーストラリア研究	オーストラリアのシドニー大学への短期留学修了者に付与される認定科目。シドニー大学が本学学生に提供する春季の特別プログラムで、会話力を高めるための毎日の英語クラスその他、ワークショップ・ディスカッションによる現地大学生との交流、様々なアクティビティ、フィールドトリップを通じてのオーストラリアの文化・歴史・自然の学習等、多彩な内容が盛り込まれている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群 短期留学認定科目	ヨーロッパ研究	アイルランドのダブリンシティ大学およびオランダのマーストリヒト大学への短期留学修了者に付与される認定科目。ダブリンシティ大学では、他の留学生とともに英語クラスで受講する他、アイルランドの文化や歴史を学び、ケルト文化中心地へのフィールドトリップや美術館ツアー等、充実したプログラムが用意されている。マーストリヒト大学では本学生向けの特別プログラムを開設し、「英語学習とヨーロッパ文化」により英語運用能力を高め、「ヨーロッパ文化：歴史と芸術」により、文化・歴史・芸術への知識を深める。	
	アメリカ研究	米国ミシガン州のホープカレッジへの短期留学修了者に付与される認定科目。50年以上の歴史を持つ本学学生向け特別集中プログラムで、英語力強化のための集中英語講座、アメリカの政治、外交、地方政治、民族問題、宗教、多文化社会などへの理解を深めるアメリカ事情特別講義に加え、シカゴへのフィールドトリップ、大学の周辺観光、地域でのボランティア活動なども体験する。	
	韓国研究	韓国ソウル市の崇實大学への短期留学修了者に付与される認定科目。本学学生向けの夏季特別プログラムで、韓国文化・歴史（伝統芸術の体験学習・韓国映画・韓国の政治経済等）についての講義、話す・聞く・書く力を中心とした初級・中級の韓国語学習（レベル別）と非武装地帯等へのフィールドトリップで構成されている。滞在中は、バティの崇實大生が、生活・学習面について手厚くサポートする。	
	タイ研究	タイ・バンコクのタマサート大学への短期留学修了者に付与される認定科目。入門レベルのタイ語とタイ事情（社会・歴史）・タイ文化について学ぶ夏季のプログラムで、授業はすべて英語で行われる。タイ事情・タイ文化の学習の一環として、王宮、アユタヤ、アムパワーへのフィールドトリップも組み込まれている。	
	中国研究	中国の大連外国語大学への短期留学修了者に付与される認定科目。大連外国語大学の漢学院（留学生向け中国語教育を展開）が実施するオープンプログラムで、現地でのプレイスメントテストにより4段階のクラス分けがなされる。午前中はコミュニケーションに重点を置いた中国語日常会話の授業が行われ、午後は、書道、太極拳、武術、切り絵、中国結びなど、中国文化の体験型学習の機会が用意されている。	
	ドイツ研究	ドイツのドレスデン工科大学への短期留学修了者に付与される認定科目。ドイツ語によるコミュニケーション能力向上を目的として、会話中心にドイツ語・ドイツ文化を学ぶプログラムで、プレイスメントテストにより5段階のクラス編成がなされ、他国からの参加者と共に受講する。ワークショップでは、美術館やフォルクスワーゲン社等への訪問が組み込まれている。	
	フランス研究	フランスのパリ・カトリック学院への短期留学修了者に付与される認定科目。学院附属語学センターが提供する夏季のオープンコースで、話す・聞く双方の理解力・表現力を養成することを目的とする。参加者はレベルチェックテストにより、5段階のレベル別クラスに振り分けられ、平日の午前3時間、集中的に授業を受講することに加え、週2回、午後に1時間30分のアトリエクラス（oral か Ecrie の選択）を履修する。	
	連海外 科目 インター ンシップ 関	海外インターンシップ 課題研究A	「国連ユースボランティアプログラム」、「トビタテ留学JAPANプログラム」等の海外インターンシップ活動（就業体験型留学）の成果に対する認定科目。活動の事前または事後の学修（準備・総括）について、2単位を付与する。ただし、就業体験時間が60時間以上120時間未満で1ヵ月程度の期間の場合は、4単位科目である「海外インターンシップA」に替えて認定することがある。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
E群	海外インターンシップ 課題研究B	「国連ユースボランティアプログラム」、「トビタテ留学JAPANプログラム」等の海外インターンシップ活動（就業体験型留学）の成果に対する認定科目。活動の事前または事後の学修（準備・総括）について、2単位を付与する。ただし、就業体験時間が60時間以上120時間未満で1ヵ月程度の期間の場合は、4単位科目である「海外インターンシップ B」に替えて認定することがある。	
	海外インターンシップ A	「国連ユースボランティアプログラム」、「トビタテ留学JAPANプログラム」等の海外インターンシップ活動（就業体験型留学）での成果に対する認定科目。現地での120時間以上の就業体験時間と2ヵ月程度の期間を基本として、4単位を認定する。「認定留学」の手続を完了していることが条件。	
	海外インターンシップ B	「国連ユースボランティアプログラム」、「トビタテ留学JAPANプログラム」等の海外インターンシップ活動（就業体験型留学）での成果に対する認定科目。現地での120時間以上の就業体験時間と2ヵ月程度の期間を基本として、4単位を認定する。「認定留学」の手続を完了していることが条件。	
H群	アジア・日本研究A	春学期は嶋田が選んだ短編作品の読解を中心にすすめる。必要に応じて文学理論の紹介や文学史的な位置づけ等についての解説を行うが、読者としてテキストからなにを受けとったかについて相互に受・発信することの訓練が主たる内容となる。学期終盤には秋学期の発表作品を決定し、レポート作成に関わる予備的な作業を開始する。	
	アジア・日本研究B	秋学期は春学期の諸学習を基盤として、受講者の発表を中心に授業を構成する。受講者には発表に対する批評を要求する。発表者は嶋田の批評をも含めて、受講者の意見を斟酌しつつ、最終レポートに反映させる。近現代の日本語文学作品を媒介として、まもなく150年をむかえようとする「近代」を生きるこの意味について考えたい。そして、自らの思いをおなじ教室にいる仲間に語り、またレポートとして文字化することを通して、日本語をもって「表現」という文化的営為の積み重なりを知り、自らもまたその担い手の一員であることを受講生自身が自覚する一助としたい。	
	現代科学研究A	ヒトの身体および身体運動に関わることで日頃疑問に思うことを、文献抄読と実験を通して明らかにすべく授業を展開する。例えば、健康な体力づくりの方法、適切なダイエット方法、筋力・パワーアップのためのレジスタンス・トレーニング方法、あるいは、高く跳ぶためのコツ、より速い球を投げるための方法について探求する。結果的に、今後のQOLの向上、スポーツパフォーマンスの向上を資することができる。	
	現代科学研究B	ヒトの身体および身体運動に関わることで日頃疑問に思うことを、文献抄読と実験を通して明らかにすべく授業を展開する。例えば、健康な体力づくりの方法、適切なダイエット方法、筋力・パワーアップのためのレジスタンス・トレーニング方法、あるいは、高く跳ぶためのコツ、より速い球を投げるための方法について探求する。結果的に、今後のQOLの向上、スポーツパフォーマンスの向上を資することができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 群	Japanese Arts and Culture 1	<p>(英文)Let's experience a world created by a single color, black. It aims to introduce one of Japanese traditional arts called "Sumi-e", a black-and-white painting. You will paint subjects according to a theme given in each class. As a final project, you will paint your own subject and give a presentation on your artwork. Exhibition will be held for a week at the end of the semester.</p> <p>The important things in Sumi-e are to capture an essence of the subject and to express your emotions on a sheet of paper. Enjoy this simple but expressive world of Sumi-e, and get more familiar with Japanese culture.</p> <p>(和訳)単色(黒)で創られた世界を経験しよう。 日本の伝統的芸術の一つである白黒の絵画「墨絵」を取り上げて紹介する。授業では、各回に出されたテーマにしたがって描いてもらう。最終課題として各自で決めたテーマで作った作品のプレゼンテーションをしてもらう。学期の終わりに展示会を1週間開催する。 墨絵で重要なことは、対象の本質を捉え、あなたの感情を紙の上に表現することである。この、地味だが表現力に富んだ墨絵の世界を楽しんで、日本文化により親しんでもらいたい。</p>	
	Japanese Arts and Culture 2	<p>(英文)Let's experience a world created by a single color, black. It aims to introduce one of Japanese traditional arts called "Sumi-e", a black-and-white painting. You will paint subjects according to a theme given in each class. As a final project, you will paint your own subject and give a presentation on your artwork. Exhibition will be held for a week at the end of the semester.</p> <p>The important things in Sumi-e are to capture an essence of the subject and to express your emotions on a sheet of paper. Enjoy this simple but expressive world of Sumi-e, and get more familiar with Japanese culture.</p> <p>(和訳)単色(黒)で創られた世界を経験しよう。 日本の伝統的芸術の一つである白黒の絵画「墨絵」を取り上げて紹介する。授業では、各回に出されたテーマにしたがって描いてもらう。最終課題として各自で決めたテーマで作った作品のプレゼンテーションをしてもらう。学期の終わりに展示会を1週間開催する。 墨絵で重要なことは、対象の本質を捉え、あなたの感情を紙の上に表現することである。この、地味だが表現力に富んだ墨絵の世界を楽しんで、日本文化により親しんでもらいたい。</p>	
	Japanese Arts and Culture 3	<p>(英文)The lecture provides the students with knowledge of Kabuki, which will help them appreciate the actual performances. Workshops of musical instruments, of Kabuki movement, and of traditional costume are included. Students are required to go see Kabuki and Bunraku at the theaters in Tokyo.</p> <p>(和訳)授業では、歌舞伎の実際の演技を鑑賞するのに助けとなる知識を提供する。楽器、歌舞伎の動作、伝統の衣装の実習も含まれる。歌舞伎と文楽を観に東京の劇場へ行くことが要求されます。</p>	
	Japanese Arts and Culture 4	<p>(英文)The lecture provides the students with knowledge of Kabuki, which will help them appreciate the actual performances. Workshops of musical instruments, of Kabuki movement, and of traditional costume are included. Students are required to go see Kabuki and Bunraku at the theaters in Tokyo.</p> <p>(和訳)授業では、歌舞伎の実際の演技を鑑賞するのに助けとなる知識を提供する。楽器、歌舞伎の動作、伝統の衣装の実習も含まれる。歌舞伎と文楽を観に東京の劇場へ行くことが要求されます。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 群	Japanese Arts and Culture 5	<p>(英文)Through the year, both fundamental manners as a guest, such as the drinking and manners when seated on tatami mats, in the traditional tea ceremony space.</p> <p>(和訳)日本文化・芸術の総合体とよばれる「茶の湯」を基礎から学ぶ。白金パレットゾーン内の和室を講義と実践の場とし、感性の表現としての「季節感」や「もてなし」、点前での自己表現方法を茶道を通して体験。なお、実技の作法は武者小路千家流茶道にのっとる。</p>	
	Japanese Arts and Culture 6	<p>(英文)Through the year, both fundamental manners as a guest, such as the drinking and manners when seated on tatami mats, in the traditional tea ceremony space.</p> <p>(和訳)日本文化・芸術の総合体とよばれる「茶の湯」を基礎から学ぶ。白金パレットゾーン内の和室を講義と実践の場とし、感性の表現としての「季節感」や「もてなし」、点前での自己表現方法を茶道を通して体験。なお、実技の作法は武者小路千家流茶道にのっとる。</p>	
	Japanese History 1	<p>(英文)Art and Visual Culture in Japan (1): The course examines a variety of visual art produced in Japan from the prehistoric period to the present. Encompassing both premodern art (Buddhist art, pictorial hand scrolls, screen paintings, and multi-colored woodblock prints) as well as contemporary works (performance art and manga) the course aims to familiarize students with the visual culture of Japan from a broad perspective.</p> <p>(和訳)日本の美術史(1):本講義では、先史時代から現代に至るまでの日本の美術史を概観する。仏教美術や絵巻、屏風絵などの前近代美術からパフォーマンスアートやマンガといった現代美術までを含み、日本の視角美術を幅広いパースペクティブから考察することを試みる。</p>	
	Japanese History 2	<p>(英文)Art and Visual Culture in Japan (2): The course examines a variety of visual art produced in Japan from the prehistoric period to the present. Encompassing both premodern art (Buddhist art, pictorial hand scrolls, screen paintings, and multi-colored woodblock prints) as well as contemporary works (performance art and manga) the course aims to familiarize students with the visual culture of Japan from a broad perspective.</p> <p>(和訳)日本の美術史(2):本講義では、先史時代から現代に至るまでの日本の美術史を概観する。仏教美術や絵巻、屏風絵などの前近代美術からパフォーマンスアートやマンガといった現代美術までを含み、日本の視角美術を幅広いパースペクティブから考察することを試みる。</p>	
	Japanese History 5	<p>(英文)This course explores Japan's historical encounter with the West in the early modern era by looking at the nation's acceptance and refusal of Christianity. It deals with the impact the Catholic missionaries brought to the country in the warring strife period, and the response of the Japanese that ended in the total denial of Christianity. Throughout the course we will raise questions about Japan's ambivalent relationships with Christianity that continue up to today, and the reasons why the Christian population in Japan has persisted below 1%.</p> <p>(和訳)この授業では、日本の近世における西洋との歴史的出会いを、国民が受け入れたことと、キリスト教の拒否とを見ることで探る。カトリック宣教師が戦国時代の日本にもたらした衝撃と、キリスト教の全面否定に終わった日本人の反応を論じる。授業を通して、今日まで続くキリスト教と日本の曖昧な関係と、なぜ日本のキリスト教徒人口が1%未満を持続してきたかという理由について疑問を提起する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 群	Japanese History 6	<p>(英文)This course explores Japan's historical encounter with the West in the modern era by looking at the nation's limited acceptance of Christianity. It considers the nature of modernization and Westernization of Japan in the Meiji era, in which Christianity was deliberately excluded. Throughout the course we will raise questions about Japan's ambivalent relationships with Christianity that continue up to today, and the reasons why the Christian population in Japan has persisted below 1%.</p> <p>(和訳)この授業では、日本の近代における西洋との歴史的出会いを、国民がキリスト教を限定的に受け入れたことを見ることで探る。明治時代の日本の近代化と西洋化の中で、キリスト教が故意に除外されたことの本質を考察する。授業を通して、今日まで続くキリスト教と日本の曖昧な関係と、なぜ日本のキリスト教徒が1%未満を持続してきたかという理由について疑問を提起する。</p>	
	Japanese Society 1	<p>(英文)This course introduces students to fieldwork research and various ethnographic methods to collect and analyze data. It provides students with the opportunity to experience Japan beyond the classroom through fieldwork assignments and local events.</p> <p>(和訳)この授業では、データを集めて分析するための、フィールドワーク研究とさまざまな民族誌学の方法を紹介する。教室を飛び出したフィールドワーク課題と地域行事を通じて、日本を経験する機会を提供する。</p>	
	Japanese Society 2	<p>(英文)This course introduces students to fieldwork research and various ethnographic methods to collect and analyze data. It provides students with the opportunity to experience Japan beyond the classroom through fieldwork assignments and local events.</p> <p>(和訳)この授業では、データを集めて分析するための、フィールドワーク研究とさまざまな民族誌学の方法を紹介する。教室を飛び出したフィールドワーク課題と地域行事を通じて、日本を経験する機会を提供する。</p>	
	Japanese Society 3	<p>(英文)Topics examined include urban family life and relationships within the family; aspects of the Japanese education system, including the phenomenon of preparatory schools and roonin; various Japanese sports such as Sumo(Japanese wrestling) and baseball. Self, cultural identity and Japanese system in domains such as family, gender, community, education, workplace, sports, and media will be the main theme of the course.</p> <p>(和訳)取り上げる話題には、都市の家庭生活と家族内の関係性、予備校と浪人を含む日本の教育制度の姿、相撲や野球などの様々な日本のスポーツを含む。家族、ジェンダー、コミュニティ、教育、職場、スポーツ、メディアといった分野の自己、文化的アイデンティティと日本の制度が主なテーマとなる。</p>	
	Japanese Society 4	<p>(英文)Topics examined concern the portrayal of Japanese culture through film and literature, focusing on work by Akira Kurosawa, Yasujiro Ozu, Ryunosuke Akutagawa and Mori Ogai. Development and changes in Japanese cuisine and family life will also be reflected upon.</p> <p>(和訳)取り上げる話題は、映画と文学を通じた日本文化の描写について、焦点を当てるのは黒澤明、小津安二郎、芥川龍之介、森鷗外の作品。和食と家庭生活の発展と変化も映し出されることになる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 群	Japanese Society 5	(英文)This course focuses on current Japanese pop culture. You will learn Japanese language in the context of animated-movies, comics, music, and magazines. You will see Japan from the past, present, and future in a way that is both fun and educational. (和訳)この授業は、現在の日本の大衆文化に焦点を当てる。アニメ映画、漫画、音楽、雑誌の文脈で日本語を学ぶ。娯楽と教育的の両側面から、過去、現在、未来の日本を見る。	
	Japanese Society 6	(英文)This course focuses on current Japanese pop culture. You will learn Japanese language in the context of animated-movies, comics, music, and magazines. You will see Japan from the past, present, and future in a way that is both fun and educational. (和訳)この授業は、現在の日本の大衆文化に焦点を当てる。アニメ映画、漫画、音楽、雑誌の文脈で日本語を学ぶ。娯楽と教育的の両側面から過去、現在、未来の日本を見る。	
	Multilingualism and Muluticulturalism 1	(英文)This course will examine the social, institutional, and cultural aspects of Japan's major religious traditions, including Shinto, Buddhism, Christianity, and Confucianism. Course materials will include primary sources in English translation and films. As much as possible, lectures will include audio and visual sources in order to give students a three-dimensional view of Japanese religions. (和訳)この授業は、日本の主要な伝統宗教—神道、仏教、キリスト教、儒教—を社会的、制度的、文化的な側面から考察する。教材には英訳された一次資料と映画を用いる。日本の宗教を立体的に俯瞰できるように、できるだけ多く視聴覚教材を用いる。	
	Multilingualism and Muluticulturalism 2	(英文)In recent years, the idea of "power spots," or places of spiritual power, has become increasingly popular in Japan. However, as is widely known, the notion of sacred sites (and visiting them to obtain benefits) is not new. Rather, sacred sites have long played an important role in Japanese culture, as evidenced by the existence of countless pre-modern accounts of spiritual spots and the extraordinary phenomena with which they are often associated. In this course, we will examine both modern and pre-modern views of these special sites. (和訳)近年、「パワースポット」あるいは霊的な力のある場所という考えが日本でますます広まってきている。しかし広く知られているように、霊場をご利益を得るために訪問するという概念は新しくない。むしろ日本文化の中で、昔からの無数の報告から明らかなように、霊場と超常現象はしばしば関連付けられて重要な役割を長く果たしてきた。この授業では、現代的と前時代的の両方の見地から、これらの特別な場所を検討する。	
	Multilingualism and Muluticulturalism 3	(英文)This course will consist of readings and discussions about topics in Japanese religion. Topics and themes will vary each year. (和訳)この授業は日本の宗教についての講読と議論から成ります。話題とテーマは毎年異なります。	
	Multilingualism and Muluticulturalism 4	(英文)This course will consist of readings and discussions about topics in Japanese religion. Topics and themes will vary each year. (和訳)この授業は日本の宗教についての講読と議論から成ります。話題とテーマは毎年異なります。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 群	Current Issues 1	<p>(英文) Students will have the opportunity to learn a new subject matter in an international setting with both Japanese and non-Japanese students from various cultural and linguistic backgrounds. The topics, based on the instructors' expertise, encompass music, literature, and other social/cultural phenomena.</p> <p>(和訳) 留学生および日本人がともに学ぶという状況のなかで、異なる文化のおよび言語的背景をもつ学生間の交流が促進される。担当教員の専門にあわせて、音楽や言語など、文化/社会的な現象を主題とする。</p>	
	Current Issues 2	<p>(英文) Marriage patterns in some selected industrialized countries are analyzed from both historical and cross-societal comparative perspectives. Along the way the course examines cultural traditions and the norms governing the institution of marriage in Japan by placing them in an international perspective.</p> <p>(和訳) いくつかの先進工業国での結婚のパターンは、歴史的かつ交差社会的の両方の比較する視点から分析されている。授業の中では、日本の文化的伝統と結婚制度を支配する規範を、国際的な視点に置いて扱う。</p>	
	Current Issues 3	<p>(英文) This course explores the relationship between media and identities, and especially the relationship between media and gender. Of particular concern is the way in which the media, e.g. TV and films, generates and circulates images of masculinity and femininity. The course examines ideas about gender identities within historical context, as well as dynamics of our everyday life experiences.</p> <p>(和訳) この授業は、メディアとアイデンティティの関係、とりわけメディアと性別(ジェンダー)の関係を探る。特に重要なのはメディア例えばテレビと映画が、男らしさと女らしさを創り出してイメージを広めている方法。授業では、日常生活で経験する力学と同じ程度に、歴史的文脈での性的自己同一性の考え方を考察する。</p>	
	Current Issues 4	<p>(英文) This course focuses on ideas of contemporary "manhood" and "womanhood" as portrayed by men's and women's lifestyle magazines. A central issue is the role of lifestyle magazines in producing ideas about identity, body politics (gender, race, sexuality, class) and the global economy.</p> <p>(和訳) この授業では、男性向け・女性向けのライフスタイル雑誌で描かれている現代の「男らしさ」「女らしさ」の思想に焦点を当てる。中心となる課題は、アイデンティティと身体政治性(ジェンダー、人種、性別、社会階層)とグローバル経済の考えを作り出すライフスタイル雑誌の役割。</p>	